

十、五箇以上ハ試驗ヲ同時ニ依頼スルトキハ前示手数料ノ二割ヲ減ス

第二條 前條ノ手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第三條 本令ハ明治二十五年八月一日ヨリ施行ス

八〇農事試驗場分析手数料納付方 明治二十六年十二月勅令第二百三十號

朕農事試驗場分析手数料ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 農事試驗場ニ分析ノ依頼ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ

一、土壤及肥料ノ定性分析ハ一成分毎ニ金三十錢トス

二、土壤ノ定量分析ハ一成分金一圓トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金五十錢ヲ加フ

三、土壤ノ普通含有セザル成分ノ定性ハ一成分毎ニ金二圓トシ其ノ定量ハ一成分毎ニ金

五圓トス

四、肥料ノ定量分析ハ一成分金五十錢トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金二十五錢ヲ

加フ

但水分及灰分全量ノ定量ハ各金十錢トス

五、農産物及飼料ノ有機質成分ノ定量ハ一成分金五十錢トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス

毎ニ金三十錢ヲ加フ

但水分及可燃物全量ノ定量ハ各金十錢トス

六、農産物及飼料ノ灰分ノ定量ハ一成分金五十錢トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金

三十錢ヲ加フ

但灰分全量ノ定量ハ金十錢トス

七、農産製造品ノ定性分析ハ一成分毎ニ金五十錢トス

八、農産製造品ノ定量分析ハ一成分金三圓五十錢トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金

一圓ヲ加フ

九、水ノ定性分析ハ一成分金二圓トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金五十錢ヲ加フ

十、水ノ定量分析ハ一成分金三圓トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ

十一、以上列記シタルモノ、外農業上ニ關係アル物料ノ分析手数料ハ前示ノ割合ニ準シ

時々農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

○森林法 明治三十年四月法律第四十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル森林法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

森林法

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ森林ト稱スルハ御料林、國有林、部分林、公有林、社寺林及私有林ヲ謂フ

第二條 原野、山嶽、其ノ他ノ土地ニシテ第八條第一乃至第五ニ該當スルモノハ森林ニ準シテ

二條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以内ニ府縣知事ヲ經テ意見書ヲ地方森林會ニ提出スルコトヲ得

第十五條 府縣知事ハ地方森林會ノ答申書ニ意見ヲ付シ關係書類ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ具申スヘシ

第十六條 保安林ノ編入解除ハ地方森林會ノ議決ヲ經テ主務大臣之ヲ決定ス

第十七條 保安林ノ編入解除ハ官報及府縣公報ヲ以テ告示シ且其ノ森林ノ所有者ニ通達スヘシ

第十八條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ前條ノ告示若ハ通達ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 保安林ニ於テハ皆伐及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保安林ニ於テ土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘又ハ牛馬ノ放牧ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ保安林ノ伐木ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第二十二條 主務大臣ハ保安林ニ關シ其ノ森林ノ所有者ニ營林及保護ノ方法ヲ指定シ且其ノ使用收益ヲ制限スルコトヲ得

第二十三條 主務大臣ハ保安林又ハ開墾禁止ノ森林ヲ開墾シタル者ニ對シ復舊ノ造林ヲ命

スルコトヲ得

第二十四條 前條ノ造林ヲ施行セス又ハ第二十二條ニ依リ指命シタル事項ヲ實施セサル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收スルコトヲ得

第二十五條 政府ニ於テ保安林ヲ買上ケムトスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
第二十六條 保安林ニ編入セラレタル爲損害ヲ蒙リタル森林所有者ハ其ノ伐木ヲ禁止セラレタル場合ニ於ケル直接ノ損害ニ限り補償ヲ求ムルコトヲ得但シ御料林、國有林ニ對シテハ補償ヲ爲スノ限ニ在ラス

前項ノ損害ニシテ申請ニ係ルモノハ申請者之ヲ補償シ命令ニ係ルモノハ政府之ヲ補償ス但シ申請者ノ補償ニ係ルモノハ政府ニ於テ其ノ三分ノ一以内ヲ補助スルコトヲ得

第二十七條 第二十五條ノ買上價格又ハ前條ノ補償金額ニ付協議整ハサルトキハ地方森林會ヲシテ評決セシムヘシ若之ニ服セサル者ハ評決ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十八條 保安林ニ編入セラレタル森林ハ地租及公課ヲ免ス

第二十九條 官地私木ノ森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルモノハ借地料ヲ免ス

第三十條 從來ノ禁伐林、風致林又ハ伐木停止林ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ保安林トシ其ノ森林ニ對スル從來ノ制限ハ仍其ノ効力ヲ有ス

第四章 森林警察

第三十一條 伐木造材又ハ木材賣買ヲ業トスル者ハ林産物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ所轄警察署ニ届置クヘシ

警察署ハ他人ノ記號又ハ印章ニ類似スルモノノ使用ヲ禁止スルコトヲ得
第三十二條 伐木造材ヲ業トスル者ノ手帳帳簿器具等ニ對シ森林官吏又ハ警察官吏ノ検査アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十三條 森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ得シテ森林内ニ火入ヲ爲スコトヲ得ス

第三十四條 森林ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲ストキハ森林ニ對シテ豫メ防火ノ設備ヲ爲ス

第三十五條 森林ニ於テ濫ニ焚火ヲ爲シ又ハ炬火ヲ携帯スルコトヲ得ス

第三十六條 森林又ハ其ノ近傍ニ於テ火災又ハ虫害アルヲ發見シタル者及森林ニ關スル罪ヲ犯シ若ハ犯サムトスル者アルヲ覺知シタル者ハ直ニ森林官吏、警察官吏又ハ郡市町村吏員ニ申告スヘシ

第五章 罰則

第三十七條 森林ニ於テ其ノ主副産物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金又ハ十日以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其人主副産物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第三十八條 森林竊盜ニシテ左ニ記載シタル所爲アルトキハ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金及二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

一 根株ヲ毀壞若ハ隱蔽シテ罪跡ノ湮滅ヲ圖リタルトキ

二 贓物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ

三 贓物ヲ燃料トシテ礦物ノ採取精製若ハ石灰、煉化石、瓦其ノ他ノ物品ノ製造ニ使用シタルトキ

四 犯罪ヲ容易ナラシムル爲船舶ヲ使用シタルトキ

五 保安林ニ於テ盜伐ヲ爲シタルトキ

六 林産物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

七 三人以上共謀シ又ハ五人以上ヲ雇使シテ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

八 契約ニ依リ森林保護ノ義務ヲ有スル者其ノ罪ヲ犯シタルトキ

九 差押シ贓物ヲ隱匿若ハ消費シタルトキ

第三十九條 森林竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金及一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第四十條 他人ノ所有ニ屬スル森林ノ樹木ヲ傷害シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ主産物ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス其ノ自己ノ森林ニ係ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四十二條 濫ニ他人ノ森林内ニ於テ牛馬ヲ放牧シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ

處ス

第四十三條 森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉シ若ハ毀壞シタル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ經界ヲ表シタル物件ニ係ル下キハ刑法第四百二十條ヲ適用ス

第四十四條 立木、木材又ハ根株ニ附シタル記號印影ヲ變更若ハ消除シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 第六條ヲ許可ヲ得スシテ森林ヲ開墾シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス保安林又ハ開墾禁止ノ森林ニ係ル下キハ罰金ノ外仍十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ

第四十六條 保安林ニ於テ皆伐ヲ爲シ又ハ禁止若ハ制限ノ命令ニ違背シテ伐木ヲ爲シタル者ハ其ノ伐採シタル木材代價相當ノ罰金ニ處ス

第四十七條 第十三條又ハ第二十條ニ違背シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 第三十三條第三十四條又ハ第三十五條ニ違背シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 第三十一條ニ違背シタル者ハ五十圓以上ノ科料ニ處ス

第五十一條 此ノ法律ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者ハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第六章 雜則

第五十二條 此ノ法律ニ於テ開墾ト稱スルハ燒畑切替畑及地目變換ヲ包含ス

第五十三條 森林竊盜ノ贓物ヲ原料トシテ採取又ハ製造シタル樟腦、樟腦油、麝其ノ他樹木ノ脂液及木炭ハ贓物ト見做ス

第五十四條 此ノ法律ニ依リ徵收スヘキ費用ハ國稅怠納處分法ニ依リ徵收スルコトヲ得

第五十五條 森林ニシテ此ノ法律發布以前ヨリ無立木トナリ又ハ荒廢ニ屬スルモノハ主務大臣ニ於テ期限ヲ定メ造林ヲ命スルコトヲ得其ノ造林ヲ怠ル場合ニ於テハ第五條ノ規程ヲ適用ス

第五十六條 前條ニ依リ造林ヲ命セラレタル森林ハ其ノ造林シタル部分ニ限り翌年ヨリ二十五箇年以内地租及公課ヲ免スルコトヲ得

原野山嶽又ハ荒蕪地ニシテ新ニ造林シタルモノハ前項ノ例ニ依ル

第五十七條 北海道沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ森林ニ就テハ保安林ニ關スル規程ニ限り此ノ法律ヲ適用ス但シ保安林ノ編入解除ニ關スル手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 此ノ法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

○ 害蟲驅除豫防法 明治二十九年三月 法律第十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル害蟲驅除豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

害蟲驅除豫防法

第一條 此ノ法律ニ於テ害蟲ト稱スルハ農作物ヲ害スル各種ノ蟲類ヲ謂フ
第三條 驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ府縣知事
之ヲ定ム

認可ヲ經タル種類以外ノ害蟲發生シ急速ノ處分ヲ要スルトキハ府縣知事ハ臨時驅除豫防
ノ方法ヲ定メ之ヲ施行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申ス
ヘシ

第三條 害蟲田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ府縣知事ハ豫メ期限ヲ定メ該
田畑ノ作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ府縣知事ハ市町村費ヲ以テ之ヲ行ヒ市
町村ヲシテ該作人ヨリ其ノ費用ヲ徵收セシムルコトヲ得其ノ費用ノ徵收ニ關シテハ市制
第百二條及町村制第百二條ヲ適用ス

第四條 害蟲蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若ハ害蟲田畑以外ノ地ニ發生シタルト
キ又ハ發生ノ虞アルトキハ府縣知事ハ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行フコトヲ得

第五條 府縣知事ハ前條ノ驅除豫防ノ爲ニ市町村ニ命シテ夫役ヲ市町村全部又ハ一部ノ田
畑ノ作人及所有者ニ賦課セシムルコトヲ得

夫役ハ害蟲ノ種類ニ依リテ田又ハ畑ニ區別シテ賦課スルコトヲ得
夫役ノ賦課ハ段別又ハ地價ヲ以テ準率ト爲スヘシ
夫役ハ各別ノ率ニ據リ小作人、自作人及地主ニ賦課スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ市制第百二十三條及町村制第百二十七條ヲ適用セス

第六條 府縣知事ハ驅除豫防ノ爲必要アルトキハ市町村費ヲ以テ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物、
葉稈、刈株、雜草ヲ拔棄若ハ燒棄スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ヲ適用ス

第七條 驅除豫防ノ必要ヨリ生シタル損害ニ對シ被害者ハ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第八條 土地所有者、管理者又ハ使用者ハ官吏及其ノ指揮ヲ承クル者ノ其ノ地ニ入り驅除
豫防ニ從事スルヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 府縣知事又ハ郡長ハ必要ナル場合ニ於テハ府縣稅(地方稅)又ハ郡費ヲ以テ第三條、

第四條、第六條ノ費用ヲ補助シ若ハ驅除豫防ニ必要ナル器具ヲ給與シ又ハ貸與スルコト
ヲ得

第十條 蟲類以外ノ動物ト雖農作物ヲ害スルトキ又ハ害スルノ虞アルトキハ府縣知事ハ農
商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律ヲ適用スルコトヲ得

第十一條 第三條ノ場合ニ於テ府縣知事ノ命令ニ從ハサル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下
ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十二條 第六條及第八條ニ依レル官吏若ハ其ノ指揮ヲ受クル者ノ行爲ヲ妨害スル者ハ二
圓以上二十圓以下ノ罰金又ハ十一日以上二十日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十三條 此ノ法律ハ北海道、沖繩縣其ノ他市制、町村制ヲ施行セサル島嶼ニ之ヲ施行セス
別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

○遠洋漁業獎勵法 明治三十年四月 法律第四十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル遠洋漁業獎勵法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遠洋漁業獎勵法

第一條 遠洋漁業ヲ獎勵スル爲國庫ハ毎年度十五萬圓以內ヲ支出スヘシ

第二條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミテ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ自己ノ所有ニ專
屬シ帝國船籍ニ登録シタル船舶ヲ以テ勅令ニ於テ指定スル漁獵又ハ漁場ノ漁業ニ從事ス
ル者ニ限リ遠洋漁業獎勵金ノ下付ヲ出願スルコトヲ得

第三條 前條ニ依リ獎勵金ヲ受クルコトヲ得ヘキ船舶ハ木製ト鐵製トヲ問ハス登簿噸數汽
船百噸以上帆船六十噸以上ニシテ農商務大臣ノ定ムル船舶艤裝規程ニ合格シ其ノ乗組員
ハ總員ノ五分ノ四以上帝國臣民ヲ以テ組織シタルモノニ限ル

第四條 遠洋漁業獎勵金ヲ受ケムトスル者ハ其ノ船舶ニ對シ豫メ農商務大臣ノ認許ヲ受ケ
ヘシ

第五條 農商務大臣ハ第二條ノ出願者ニシテ漁業ノ組織確實ナリト認ムル者ニハ漁獵ノ種
類又ハ漁獵ノ場所ニ依リ定率ヲ設ケ五箇年以內獎勵金ノ下付ヲ許可スルコトヲ得但シ左
ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一 汽船登簿噸數 每一噸 一箇年五圓

但シ登簿噸數三百五十噸以上ハ噸數ニ應シ増加セス

一 帆船登簿噸數 每一噸 一箇年五圓

但シ登簿噸數二百噸以上ハ噸數ニ應シ増加セス

一 乗組總員 每一人 一箇年十圓

但シ勅令ニ定ムル乗組定員以外及年齡十六歲未滿ノ者ヲ除ク

第六條 遠洋漁業獎勵金下付ノ許可期間ト雖ニ箇年中遠洋漁業ニ從事スルコト五箇月ニ滿
タサルトキハ其ノ年ニ對シテハ獎勵金ヲ下付セス

第七條 左ニ記載スル船舶ヲ以テ遠洋漁業ニ從事スル者ニハ遠洋漁業獎勵金ヲ下付セス

第一 此ノ法律施行以後帝國船籍ニ登録ノ際製造後五箇年ヲ經過シタル外國製造ノ船舶
第二 製造後十五箇年ヲ經過シタル船舶

第八條 農商務大臣ハ第五條ノ許可ヲ受ケタル者ヲシテ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ爲サシメ
又ハ遠洋漁業練習生ヲ該船舶ニ乗組マシムルコトヲ得

第九條 第五條ノ許可ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ遠洋漁業獎勵金ヲ受ケ漁業
ニ從事スル期間並ニ其ノ漁業ヲ終リタル日ヨリ三箇年間其ノ船舶ヲ外國人ニ賣渡 交換
贈與 質入 書入スルコトヲ得ス但シ其ノ船舶ノ既ニ受ケタル遠洋漁業獎勵金ヲ償還シタ
ルトキ又ハ天災其ノ他抗拒スベカラサル強制ニ因リ航行ニ堪ヘサルトキ若ハ農商務大臣
ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニアラス

日本海

荷哥德斯克海

太平洋

第三條 遠洋漁業獎勵法ニ依リ遠洋漁業獎勵金ヲ受クヘキ船舶乗組定員ハ左ノ如シ
汽船

登簿噸數	乗組定員
百噸以上	三十五名以下
同	同
二百噸以上	四十四名以下
同	同
二百五十噸以上	四十七名以下
同	同
三百噸以上	五十二名以下
同	同
三百五十噸以上	五十三名以下
帆船	同
登簿噸數	乗組定員
六十噸以上	二十六名以下
同	同
八十噸以上	二十八名以下
同	同
百噸以上	二十九名以下
同	同
百四十噸以上	三十一名以下
同	同
百六十噸以上	三十二名以下
同	同
百八十噸以上	三十四名以下
同	同
二百噸以上	三十七名以下

○ 遠洋漁業獎勵法施行細則
○ 遠洋漁業船舶裝規程
明治三十年三月
明治三十年六月
明治三十年六月
明治三十年六月
第九號

○ 種牡馬検査法 明治三十年三月 法律第十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル種牡馬検査法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
種牡馬検査法

- 第一條 牡馬ハ此ノ法律ニ依リ検査ヲ受ケ合格シタルモノニアラサレハ種付ケニ使用スルコトヲ得ス
- 第二條 検査ニ合格シタル種牡馬ニハ軀肢ノ一部ニ烙印シ其ノ所有者ニ證明書ヲ下付スヘシ
- 第三條 證明書ノ効力ハ滿一箇年トス
前項期限内ト雖疾病其ノ他ノ事故ニ因リ種牡馬ニ不適當ナリト認メタルトキハ證明ノ効力ヲ停止シ若ハ之ヲ取消スコトアルヘシ
- 第四條 検査ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス
- 第五條 此ノ法律ハ官廳所有ノ種牡馬ニ適用セス
- 第六條 學術研究ノ爲牡馬ヲ種付ケニ使用セムトスル者アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經特ニ其ノ種付ケヲ許可スルコトアルヘシ

第七條 検査ニ合格セザル牡馬又ハ證明ノ效力ヲ失ヒ若ハ停止セラレタル種牡馬ヲ種付ケ
ニ使用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第八條 種牡馬検査ノ標準及方法検査委員ノ組織其ノ他此ノ法律施行ノ爲必要ノ規程ハ農
商務大臣之ヲ定ム

附則

第九條 此ノ法律施行以前ニ與ヘタル種牡馬ノ免許ハ其ノ免許期限間効力ヲ有スルモノト
第十條 此ノ法律ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

○種牡馬検査法施行細則三十年四月
[改正三十年農商務省令第十五號ヲ以テ第二條第八條中ヲ改正ス]

○第五類 會計、官有財産

○會計法 明治二十二年二月
法律第四號

第二十九年勅令
第六十七號
ヲ以テ會計法
ヲ改定ス
ス

沿革略記 明治十四年四月第三十三號達ヲ以テ會計法ヲ定ム●十五年一月第五號ヲ以テ會計法ヲ制定ス
朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一 會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

第二條 租税及其他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノ、外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第二章 豫算

第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書

第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一 豫備金

第二 豫備金

第一 豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二 豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第九條 毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收入

第十條 租税及其ノ他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ

法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租税ヲ徵收シ又ハ其ノ他ノ歳入ヲ收納スルコトヲ得ス

第四章 支出

第十一條 毎會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第一 國債ノ元利拂

第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三 在外各廳ノ經費

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

第六 廳中常用雜費ニシテ二箇年ノ總費額五百圓ニ滿タサルモノ

第七 場所ノ一定セザル事務所ノ經費

第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテテ限ル

第五章 決算

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用非左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

收入済歳入額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令済歳出額

翌年度繰越額

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ
第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年內ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂フ請求ヲ爲サ、モノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年內ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歳計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度內ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遲延シ年度內ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰

替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル、コトヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告

シテ競争ニ付スヘシ但シ左リ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、トキ

第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲スト

キ

第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ

第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨ

リ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ル、

トキ

第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ

第九 軍艦ヲ買入ル、トキ

第十 軍馬ヲ買入ル、トキ

第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ

第十二 慈惠ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ備役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ

買入ル、トキ

第十三 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル

農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ

第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈惠教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ

製造物品ヲ賣拂フトキ

第二十五條 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 出納官吏

第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一

切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品

ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカラザリシ事實ヲ會計検査院ニ證明

シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス

第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ

勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十章 雜則

第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第十一章 附則

第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關涉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス

決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス

第三十三條 本法ノ條項ト牴觸スル法令ハ各其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

○會計規則 明治二十二年四月

勅令第六十號

朕會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計規則

第一章 會計年度所屬區分、歲入、歲出、金出納

第一條 歲入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル

第一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度

第二 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發スルモノハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第三 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條 歲出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ據ル

第一 公債ノ元利償還年金恩給諸祿ノ類ハ仕拂期日ノ屬スル年度

第二 諸拂戻缺損補填ハ其拂戻又ハ補填ノ決定ヲ達シタル日ノ屬スル年度

第三 俸給手數料旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度

第四 廳中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但土木建築費ノ如キ契約ノ數年ニ涉ルコトヲ得ヘキモノハ契約ニ據リ定メタル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ

第五 前各項ニ掲クル類別ニ入ラサル費用ハ總テ仕拂命令ヲ發シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ定ムヘシ

第三條 毎年度所屬歲入、歲出、金、庫ニ於テ出納スルハ翌年度七月三十一日限リトス
(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ八月三十一日ヲ七月三十一日ト改ム)

第二章 豫算

第一款 總豫算

第四條 大藏大臣ハ歲入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歲入、歲出總豫算ヲ調製スヘシ

總豫算ノ首ニハ歲計全體ニ關スル説明ヲ付スヘシ

第五條 歳入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歳入ノ性質ヲ明示スヘシ

第六條 歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ

第七條 歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第二款 豫定經費要求書

第八條 各省大臣ハ毎年度其所管經費ノ需用高ヲ算定シ前年度ノ定額ト比較ヲ立テ豫定經費要求書ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ六月三十日ヲ八月三十一日ト改ム)

第九條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項中所要ノ金額ヲ各目ニ區分シ尙ホ必要ノ場合ニ於テハ番號ヲ以テ之ヲ細分シ又經費所要ノ理由計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

目ノ區分ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第十條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル説明及各款各項ノ説明ヲ付スヘシ

第三款 仕拂豫算

第十一條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ仕拂命令官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ仕拂豫算ヲ調製シ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ)

ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシト改ム

仕拂豫算ハ各項ノ金額ヲ示スヘシ

第十二條 仕拂豫算ヲ更定シタルトキハ其計算書ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ(二十六年勅令第百十號ヲ以テ本條改正)

第十三條 大藏大臣仕拂豫算若クハ其更定計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ金庫ニ令達スヘシ(二十六年勅令第百十號ヲ以テ本條改正)

第四款 歳入歳出現計書

第十四條 會計法第六條ニ掲クル歳入歳出現計書ハ大藏省ニ備ヘタル主計簿ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第十五條 歳入歳出現計書ニハ總豫算ニ定メタル區分ニ從ヒ其年三月三十一日ヲ以テ終リタル年度ニ屬スル歳入歳出ノ七月三十一日ニ於ケル左ノ事項ノ現計ヲ示スヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ八月三十一日ヲ七月三十一日ト改ム)

歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

收入済歳入額

收入未済歳入額

歳出ノ部

會計規則

歲出豫算額

豫算決定後增加歲出額

任拂命令濟歲出額

翌年度繰越額

第五款 豫備金支出

第十六條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十七條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ

費途ニ流用スルコトヲ得ス

第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作

リ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘ

シ

第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ

作り之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ計算書ヲ調製シ其意見ヲ付シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條 第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣其事故金額ヲ會計検査院

ニ通知シ及官報ニ掲載スヘシ

第二十四條 豫備金ヲ以テ補充支辨シタル金額ハ各省大臣其計算書ヲ作り各費途毎ニ

説明ヲ付シ年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ豫備金支出ヲ第一豫備金支出ト第二豫備金支出トニ大別シ其總計算書ヲ

作り之ニ説明ヲ付シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ

提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第三章 收入

第二十五條 收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ納人ニ

交付スヘシ

第二十六條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ大藏大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ毎月一回若ク

ハ數回其領收シタル金額ヲ金庫ニ拂込ムヘシ但金庫ノ設ナキ運輸通信ノ不便ナル地

方ニ在ル收入官吏ノ領收シタル金額ハ該官吏之ヲ保管シ大藏大臣ノ指定ニ從ヒ金庫

ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ但ノ下外國及

ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ(三字并ニ不便ナルノ下内國ノノ三字ヲ削ル)

第二十七條 金庫ハ收入官吏又ハ納人ヨリ租稅其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ其領收

證ヲ拂込人又ハ納人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ收入官吏ノ拂込ニ係ル分ニ付テハ歲入ノ

徵收ヲ監督スル所ノ官吏ニ又納人ニ係ル分ニ付テハ收入官吏ニ通知スヘシ(二十六年

勅令第百

第二十八條 (二十六年勅令第百十

第二十九條 (二十六年勅令第百十

第三十條 收入官吏ハ其收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月收入報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ其事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十一條 歳入ノ事務管理廳ハ收入官吏ヨリ送付シタル收入報告書ニ據リ毎月收入總報告書ヲ作り之ニ必要ナル參照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 支出

第一款 仕拂命令

第三十二條 仕拂命令官ハ總テ仕拂命令ヲ發スル前其經費ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ又該經費ハ仕拂豫算額ニ超過スルコトナキヤ支出科目及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤ該經費ハ豫算ヲ以テ定メラントタル目的ニ違フコトナキヤヲ調査スヘシ

第三十三條 仕拂命令ニハ債主若クハ其代理人ノ氏名仕拂フヘキ金額、支出科目、年度、番號ヲ記載スヘシ但支出科目ノ同一ナルモノハ數人ノ債主ニ對シ集合仕拂命令ヲ發シ別ニ各債主ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得(二十六勅令第四百十二號ヲ以テ番號ノ恩給賞勳年金諸祿及定額拂切經費ノ仕拂ヲ爲ストキ)ノ二十七字ヲ削ル
現金前渡ノ仕拂命令ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格、氏名、銀行ナレハ其名稱、前渡ヲ爲スヘキ金額、支出科目、年度及番號ヲ記載スヘシ

第三十四條 仕拂命令ハ一項毎ニ之ヲ發スヘシ

第三十五條 仕拂命令官第三十二條ノ調査ヲ了シタルトキハ其仕拂命令ヲ受取人ニ交付スヘシ但數人ノ債主ニ對スル集合仕拂命令及仕拂命令ヲ當テタル金庫所在地ノ外ニ於テ仕拂ヲ要スルモノハ直ニ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シ受取人ニ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ(二十六勅令第四百十號ヲ以テ改正)

第三十六條 仕拂命令官前條ニ據リ仕拂命令ヲ受取人ニ交付セントスルトキハ前以テ案内仕拂命令ヲ金庫ニ送付スヘシ(二十六勅令第四百十號ヲ以テ改正)

第三十七條 (二十六勅令第四百十號ヲ以テ削除)

第三十八條 (二十六勅令第四百十號ヲ以テ削除)

第三十九條 現金前渡ノ仕拂命令ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ發スヘシ
第一 常時ノ費用ニ係ルモノハ每一箇月分ノ費額ヲ豫定シテ仕拂命令ヲ發スヘシ但

在外各廳ノ經費外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費其他仕拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ由リ二箇月以上六箇月分マテ合セテ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第二 隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シテ事務上差支ナキ限りハ成ルヘク分割シテ仕拂命令ヲ發スヘシ

第三 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費ハ工事ノ大小ニ由リ其所要ヲ量リ二千圓以内ニ於テ仕拂命令ヲ發スヘシ

第四十條 會計法第十五條第八ニ據リ現金前渡ヲ爲シタルトキハ左ノ場合ヲ除クノ外更ニ同一ノ主任官吏ニ現金前渡ヲ爲スタメ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第一 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三分ノ二以上ノ仕拂濟證明アリタルトキ但此場
合ニ於テハ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト前ニ發シタル仕拂命令ノ仕拂濟證明未濟
ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超ルコトヲ得ス

第二 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三千圓未滿ニシテ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト
合シテ三千圓ヲ超サルトキ

第四十一條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣各省大臣ニ協議シテ之ヲ
定ムヘシ

第四十二條 會計法第十五條ニ據リ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金仕拂ヲ爲サシ
ムル爲メニ發スル現金前渡ノ仕拂命令ハ國債元利金仕拂ノ場合ニ限ル

第四十三條 仕拂命令ハ所屬年度經過後滿五箇年内ハ仕拂ノ請求アル毎ニ金庫ニ於テ
仕拂フモノトス

第四十四條 各年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ仕拂命令ヲ發スルハ翌年度六月三十日限
リトス

第二款 仕拂命令ノ執行

第四十五條 金庫ハ案内仕拂命令集合仕拂命令若クハ金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要ス
ル仕拂命令ヲ受ケタルトキ其命令合式ニシテ且仕拂豫算各項ノ金額ニ超過セザルト
キハ仕拂ヲ爲スヘシ
金庫ニ於テハ休日ヲ除クノ外毎日其開庫時間内ハ何時ニテモ仕拂命令持參人ニ仕拂

命令ト引替ニテ現金ヲ交付スヘシ(二十六勅令第百十號ヲ以テ改正)

第四十六條 左ノ場合ニ於テハ事由ヲ仕拂命令持參人ニ告ケ金庫ニ於テ仕拂命令ノ執
行ヲ拒ムヘシ

第一 案内仕拂命令ノ到着セザルトキ

第二 仕拂命令ト案内仕拂命令ト符合セザルトキ

第三 仕拂命令汚損シ案内仕拂命令ト照合シ難キトキ

第四十七條 各年度ノ仕拂命令ニシテ翌年度七月三十一日マテニ仕拂ノ請求ナキ仕拂
命令濟金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十條ノ歲計剩餘ニ組入レス國庫ニ於テ繰越
整理スヘシ(二十六勅令第百十二號ヲ以テハ月三十一日ヲ七月三十一日ト改ム)

第四十八條 前條ノ資金中年度經過後滿五箇年内ニ仕拂ノ請求ナクシテ會計法第十八
條ノ期滿免除ニ據リ政府カ負債ノ義務ヲ免レタルモノアルカ爲メ不用トナリタルモ
ノハ其負債ノ期滿免除トナリタル年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

第三款 計算報告

第四十九條 金庫出納役ハ毎月仕拂命令受領濟額報告書ヲ調製シ其翌月中ニ大藏省ニ
送付スヘシ但運輸不便ノ土地若クハ遠隔ノ地方ニシテ本文期限ニ據リ難キモノハ豫
メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ(二十六勅令第百十號ヲ以テ改正)

第五十條 (二十六勅令第百十號ヲ以テ削除)

第五章 決算

第一款 總決算

第五十一條 歳入歳出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第二款 各省決算報告書及收入支出計算書(二十六勅令第百十二號ヲ以テ改正)

第五十二條 各省大臣ハ翌年度十二月三十一日マテニ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ據リ其省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
歳入ヲ測定スル官吏ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎年度歳入測定額計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ年度經過後五箇月以内ニ其歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ(二十六勅令第百十二號ヲ以テ本項以下三項ヲ追加ス)

仕拂命令官ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ翌月十五日マテニ其主管大臣ニ送付シ主管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

本條第二項第三項ノ場合ニ於テ歳入歳出ニ關スル計算書ハ特ニ監督ノ任アル官吏若クハ特ニ主管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三款 國債計算書

第五十三條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第五十四條 國債計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現高ヲ示ス所ノ計算

第二 當該年度ニ於テ償還シ及仕拂ヒタル各種國債ノ元高及利子ノ計算

第三 最近五箇年度間ニ於ケル各種國債増減ノ形況ヲ示ス所ノ計算

第四款 特別會計計算書

第五十五條 特別會計計算書ハ會計法第三十條ニ據リ特別ノ會計ヲ立ルコトヲ許サレタル事務ヲ管理スル所ノ各省大臣之ヲ調製シ毎年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(二十六勅令第百十二號ヲ以テ本項以下三項ヲ追加ス)

第五十六條 特別會計計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 收入計算 歳入額及支出

第二 支出計算

第三 最近五箇年度間資金ノ増減

第四 最近五箇年度間損益ノ比較

第六章 定額繰越過年度支出(定額戻入)

第一款 定額繰越

第五十七條 各省大臣會計法第三十一條及第三十二條ニ據リ定額ヲ翌年度ニ繰越サシトスルホキハ年度經過後三箇月以内ニ繰越シ計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ(二十六勅令第百十二號ヲ以テ二箇月ヲ三箇月ト改メ)
本條繰越計算書ハ歳出豫算ノ區分ニ從ヒ調製シ左ノ事項ヲ示スヘシ
第一 繰越ヲ要スル項ノ定額

第二 右定額ニ對シ年度内ニ仕拂命令濟トナリタル額及第四十四條ニ據リ翌年度六

月三十日マテニ仕拂命令ヲ發スヘキ額(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ及以下ノ三十字ヲ加フ)

第三 右定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘキ額即チ翌年度ニ繰越ヲ要スル額

第四 右定額中全ク不用ニ歸シ決算ニ於テ取消スヘキ額

第五十八條 會計法第二十一條ニ據リ年度内ニ其經費ノ支出ヲ終ラサリシ金額ヲ翌年

度ニ繰越サントスルトキハ其繰越サントスル金額ノ計算書ニ各事件毎ニ竣功遅延ノ

事由ヲ示シ又請負ニテ爲サシムル工事若クハ製造ナレハ竣功遅延ノ事由ノ外ニ請負

人職業住所氏名ヲ示シ契約書ノ寫ヲ添ユヘシ

第五十九條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘ

第二款 過年度支出

第六十條 過年度ニ屬スル經費ノ支出ヲ爲ストキハ現年度各省定額ニ對シ仕拂命令ヲ

發スヘシ(二十六年勅令第百十號ヲ以テ改正)

第六十一條 (二十六年勅令第百十號ヲ以テ削除)

第六十二條 第六十條ニ據リ支出セントスル經費ノ金額ハ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ

モノ、外其經費所屬年度ヲ豫算ニ於テ該經費ノ屬スル毎項定額中不用トナリタル金

額ヲ超過スヘカラス

第三款 定額戻入

第六十三條 仕拂命令官會計法第二十二條但書ニ據リ定額ノ戻入ヲ爲サントスルトキ

ハ其旨ヲ金庫ニ通知スヘシ(二十六年勅令第百十號ヲ以テ改正)

第六十四條 金庫ハ定額ニ戻入ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ仕拂命令官ニ通知スヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正)

勅令第百十二號

第六十五條 各年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度六月三十日ヲ過クルコトヲ得ス

(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ)

第六十六條 (二十六年勅令第百十號ヲ以テ削除)

第七章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第一款 總則

第六十七條 各省大臣五百圓以上ノ工事ニ付テハ竣功ノ後其工事ヲ監督シタル官吏又

ハ技術者ヲシテ之カ調書ヲ作ラシムヘシ(二十六年勅令第百十號ヲ以テ本項追加)

契約ニ據リ工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完済前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂

ハントスルトキハ各省大臣ハ特ニ検査ノ官吏ヲ命シテ事實ヲ測定シ其調書ヲ作ラシ

ムヘシ

仕拂命令官ハ前各項ノ調書ニ據ルニアラザレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス(二十六年勅令

第百十二號ヲ以テ本項

中ヲ改正ス

第六十八條 前條第三項ノ仕拂ヲ爲サントスルトキハ工事ノ既濟又ハ物品ノ既納トナ

リタル部分ニ對スル代價ノ五分ノ四ヲ超ユヘカラス(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ)

(前條ノ下ニ第二項ノ三字ヲ加フ)

第六十九條 王事又ハ物品供給ハ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者

ハ其工事又ハ物品供給ニ三年以來從事スルコトヲ證明スベシ
各省大臣ハ工事又ハ物品ノ性質ニ依リ必要アルトキハ前項ノ外特ニ省令ヲ以テ其競

争者ノ資格ヲ定ムルコトヲ得(二十六勅令第百十號ヲ以テ本項追加)

王事又ハ物品賣買ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ

公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ(二十六勅令第百十二號ヲ以テ本項追加)

第七十條 前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ據リ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第一 競争ニ加ハラントスル者ハ其事項ノ見積代金ノ百分ノ五以上

第二 契約ヲ結ハントスル者ハ其事項ノ代金ノ百分ノ十以上

第七十一條 競争ノ落札者請負又ハ賣買ノ契約ヲ結ハサルトキハ其保證金ハ政府ノ所
得トス(二十六勅令第百十二號ヲ以テ)

第二款 競争契約

第七十二條 競争ハ總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第七十三條 入札ノ方法ヲ以テ王事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其入

札期日ヨリ少クモ十五日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク

廣ク公告スヘシ

第七十四條 前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 競争入札ニ付スル事項

第二 契約書案ヲ示ス場所及其契約ノ取結ヲ擔任スル官吏ノ官氏名

第三 競争執行ノ場所日限及時刻

第四 入札ノ保證金額

第七十五條 各省大臣若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ其競争入札ニ付シタル工事又ハ

物件ノ價格ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第七十六條 開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ

入札人又ハ其代理人若シ開札ノ場所ニ出席セザルトキハ其入札ハ無効トス

第七十七條 開札ノ上ニテ各人ノ入札中一モ第七十五條ニ據リ豫定シタル價格ノ制限

ニ達セザルトキハ直ニ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十八條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ同價ノ入札者ヲ

シテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

再度ノ入札ヲ爲スモ尙ホ同價ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第七十九條 競争ノ落札者請負又ハ賣買貸借ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競争ヲ行フ

ヘシ但本條ノ場合ニ於テハ第七十三條ノ期限ヲ七日マテニ短縮スルコトヲ得(二十六勅令

第百十二號ヲ以テ請負ノ下又ハ賣買貸借ノ六字并ニ但書ヲ加テ)

第八十條 工事及物件ノ賣買貸借契約書ニハ其契約セントスル事項ノ細密ナル設計、

仕譯、落成期限、受渡期限、保證金額、契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分、其他一切必

要ナル條件ヲ掲クヘシ

第八十一條 契約ハ各省大臣若クハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏其契約書ニ署名捺印スルニアラサルハ確定セサルモノトス

第三款 隨意契約

第八十二條 隨意契約書ハ第八十條及第八十一條ニ準據シ之ヲ作ルヘシ但一口五百圓未滿ノ隨意契約ノ場合ニ於テハ本文ノ契約書ヲ省略スルコトヲ得(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ但書以下)

第八十三條 隨意契約ノ場合ニ於テハ各省大臣ノ見込ニヨリ請負人ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第八章 出納官吏

第一款 收入官吏現金前渡ヲ受ケタル官吏(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正)

第八十四條 出納官吏ハ其責任ニ屬スル會計ニ付自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其責任ヲ免ルコトヲ得ス但各省大臣ノ命令ヲ以テ特ニ其代理官若クハ分任官ヲ定メタルトキ其代理官若クハ分任官ノ所爲ニ付テハ本條ノ限ニアラス(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ但書改正)

前項代理官ハ出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代理シ分任官ハ其一部ヲ分掌スルモノトス(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ追加)

第八十五條 各省大臣ノ命シタル出納官吏代理官若クハ分任官ハ其行爲ニ付會計法第

二十六條ノ責任ヲ免ルハコトヲ得ス(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ條中改正)

第八十六條 出納官吏ハ現金前渡及現金收入ニ關シ大藏大臣ノ指揮監督ヲ受ク(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正)

第八十七條 (二十六年勅令第百十二號ヲ以テ削除)

第八十八條 各省大臣ハ所屬出納官吏ノ所爲ニ由リ政府ノ損失ヲ生シタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決以前ト雖モ其出納官吏ニ向テ辨償ヲ命スルコトヲ得

第八十九條 前條ノ場合ニ於テ其辨償ヲ命セラレタル出納官吏負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ本屬大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其判決ヲ求ムルコトヲ得

各省大臣ハ前項ノ場合ト雖モ其命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス

會計検査院ニ於テ其出納官吏ニ向テ辨償ノ責ヲシト判決シタルトキハ其既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付ス

第九十條 (二十六年勅令第百十二號ヲ以テ削除)

第九十一條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日若クハ該官吏轉免死亡停職ウトキ本屬大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ但臨時ニ現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス
大藏大臣又ハ各省大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ現金ヲ領收スル

收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第九十二條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ主務ノ出納官吏事故ニ由リ自身検査ヲ受ケル能ハサルトキハ其代理者若クハ特ニ本屬大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第九十三條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルトキハ其檢定書ニ通テ製シ検査員及主務ノ出納官吏若クハ立會人之ニ署名シ一通ハ該官吏若クハ立會人ニ交付シ一通ハ本屬大臣ニ提出スヘシ

第九十四條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ別ニ検査ノ方法アルニ拘ハラズ金櫃ノ検査ヲ執行スル場合ニ於テハ他ノ公金ヲ併セテ検査ヲ行フヘシ

第九十五條 收入官吏ハ毎年度經過後五箇月以内ニ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度會計事務ノ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ之ヲ歳入ノ事務管理廳若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ニ送付スヘシ(二十六年勅令第百二十二號ヲ以テ改正)

第九十六條 歳入ノ事務管理廳ノ部長若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ前條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ(二十六年勅令第百十號ヲ以テ條中刪除)

第九十七條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ毎年度經過後二箇月以内ニ歳入ノ事務管理廳ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

在外各廳ニ勤務スル現金ヲ領收スル收入官吏ノ前條計算書及證據書類ハ毎年度經過後一箇月以内ニ其廳ヲ發シ之ヲ歳入ノ事務管理廳ニ送付シ其管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九十八條 現金前渡ヲ受ケタル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ各省大臣ノ定ムル所ニ據リ毎月一回若クハ數回經費仕拂ノ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ仕拂命令官ニ送付シ仕拂命令官ハ其下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ但行軍費航海費ノ如キハ行軍若クハ航海ノ終リタルトキ本條ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過後六十日以内ニ其在職期限間ニ執行シタル會計ノ計算書ヲ調製シ第九十五條第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第一百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製

本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第百二條 出納官吏ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

第百三條 會計法第二十八條ニ據リ出納官吏ノ納ムヘキ身元保證金額ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定メ會計検査院ニ通知スヘシ

出納官吏相當ノ資産アル者二人以上ヲ以テ保證人ト爲ストキハ各省大臣前項ノ身元保證金ノ全部若クハ一部ヲ免除スルコトヲ得此場合ニ於テハ各省大臣ヨリ其保證人ノ住所氏名職業ヲ會計検査院ニ通知スヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本項中職業ヲノ下大藏大臣及ノ五字ヲ削ル)

第百四條 身元保證金ハ現金ヲ以テ納ムヘシ但公債證書若クハ土地ヲ以テ現金ニ代用スルコトヲ得

第百五條 身元保證ノ現金ハ大藏省「預金局」通常預金ノ利子ヲ付スヘシ
身元保證ニ供スル公債證書若クハ土地ハ出納官吏ヨリ各省大臣ニ書入トシ其土地ハ出納官吏ノ私費ヲ以テ登記法受クヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ大藏大臣ヨリ各省大臣ト改ム)

第百六條 會計検査院ノ判決ニ依リ各省大臣出納官吏ノ損失金辨償ヲ命シタル場合ニ於テ其指定シタル期限内ニ出納官吏ヨリ損失金ノ辨償ヲ爲サ、ルトキハ其身元保證金ヲ以テ辨償ニ充ツヘシ
前項ノ場合ニ於テ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ハ各省大臣之ヲ公賣

ニ付シ其代價ヨリ損失金額ヲ差引シ剩餘アルトキハ出納官吏ニ返付スヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ各省大臣ノ下ノ通)
知ニ依リ大藏大臣ノ十字ヲ削ル

保證人ヲ以テ身元保證金ノ免除ヲ得タル官吏損失金ノ辨償ヲ命セラレタル場合ニ於テ辨償スルコト能ハサルトキハ其保證人ヲシテ損失金ヲ辨償セシムヘシ

第百七條 前條ノ場合ニ於テ出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充ルニ足ラサルトキハ其不足ハ出納官吏及其保證人ヨリ徴收スヘシ

第百八條 出納官吏數職ヲ兼務シタルカ爲メ各職毎ニ身元保證ヲ爲シタルトキト雖モ身元保證金ハ出納官吏ノ責任其何職ヲ行ヒタルヨリ生シタル間ハス流用シテ辨償ニ充ツヘシ

第百九條 出納官吏ハ其身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テラレタルカ爲メ其身元保證金額定規ノ高ヨリ減シタルトキハ各省大臣ノ指定シタル期限内ニ其減少高ヲ追納スヘシ期限ヲ過キ追納ヲ爲サ、ルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

第百十條 出納官吏轉職其他ノ事故ニ由リ身元保證金ノ増納ヲ要スルトキハ其轉職若クハ事故ノ生シタル日ヨリ起算シ六箇月以内ニ増納スヘシ期限ヲ過キ増納ヲ爲サルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

身元保證金トシテ納メタル公債證書若クハ土地ノ價格改定ノ爲メ身元保證金額定規ノ高ヨリ減少シ之カ補填ヲ要スル場合ニ於テハ前項ノ例ニ據ル

計事務ニ付責任解除ヲ與ヘタル後ニ非サレハ之ヲ還付セス

第二款 金庫出納役

第百十一條 會計法第三十一條ニ據リ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命シタル場合ニ於テハ日本銀行總裁ハ金庫出納役トシテ金庫ノ出納ヲ掌ルヘシ

金庫出納役ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度經過後四箇月以内ニ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
(二十六年勅令第百十二號)
ヲ以テ本項中ヲ改正ス

金庫出納役ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲メ毎月各金庫出納内譯書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ但運輸不便ノ土地若クハ遠隔ノ地方ニシテ本文期限ニ據リ難キモノハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ
(二十六年勅令第百十二號)
ヲ以テ次項共追加

大藏大臣ハ前各項ノ出納計算書及内譯書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九章 帳簿

第百十二條 大藏省ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ國庫ノ計算ニ入ルヘキ一切現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第百十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ總テ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額、歳出ノ豫算額、仕拂命令濟額ヲ登記スヘシ

第百十四條 收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區別シ調定濟額、收入濟額、收入未

濟額ヲ登記スヘシ

第百十五條 歳入ノ事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第百十六條 金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目ヲ區分シ仕拂豫算額、仕拂命令受領濟額ヲ登記スヘシ
(二十六年勅令第百十號)
ヲ以テ條中改正

第百十七條 (二十六年勅令第百十二號)
ヲ以テ削除

第百十八條 現金ヲ領收スル收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出納役ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第百十九條 各年度經過後八箇月ノ末日ニ於テ大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上ニテ大藏省ニ備ヘタル主計簿ヲ締切ルヘシ

第十章 雜則

第百二十條 本規則ニ據リ當該官吏及金庫出納役ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ
(二十六年勅令第百十號)
ヲ以テ條中改正

第百二十一條 前條ノ外本規則ニ掲グル諸計算書仕拂命令領收證ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第百二十二條 帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第百二十三條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

本規則ト抵触スル命令ハ本規則施行の日ヨリ總テ廢止ス

- 歳入歳出豫算概定順序明治三十年三月十二號
- 第一條 歳入ノ事務管理廳ハ毎年度歳入概算書ヲ調製シ前年度五月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付ス明治二十六年閣令第二號
- 第二條 歳入概算書ハ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項目ニ區分シ前年度ノ豫算ニ比シ増減ノ理由ヲ説明ス明治二十六年閣令第二號
- 第三條 各省大臣ハ毎年度歳出概算書ヲ調製シ前年度五月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付ス明治二十六年閣令第二號
- 第四條 歳出概算書ハ各省ノ所管經費ヲ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項ニ區分シ前年度ノ豫算ニ比シ増減ノ理由ヲ説明ス明治二十六年閣令第二號
- 第五條 大藏大臣ハ各廳ノ歳入概算書及歳出概算書ヲ檢案シ歳入出ヲ對照調理シ歳入出總概算書ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ之ヲ閣議ニ提出ス明治二十六年閣令第二號
- 第六條 歳入出總概算書ハ歳入出共ニ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項ニ區分シ前年度ニ比シ増減ノ理由ヲ説明ス明治二十六年閣令第二號
- 第七條 内閣ニ於テハ前年度七月十五日マテニ歳入出總概算書ヲ決定ス明治二十六年閣令第二號
- 第八條 各省大臣ハ内閣ニ於テ決定シタル各省所管經費毎項ノ概算額以内ニ於テ節約ヲ旨トシ毎年度ノ各省豫定經費要求書ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付ス明治二十六年閣令第二號
- 第九條 歳入概算書及歳出概算書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム明治二十六年閣令第二號
- 第十條 明治二十三年度豫算ニ限リ前各條ノ期限ヲ一箇月間延スコトヲ得
- 豫定經費算出概則明治二十九年六月十九號
- 第一條 豫定經費算出概則ハ其必要ヲ生スル法律命令契約其他經費ヲ請求スル確實ノ理由ヲ示ス明治二十九年六月十九號

- 第二條 經費中其給與ニ屬スルモノハ一人當リノ給額ヨリ積算シ又其物件ニ屬スルモノハ一箇當リノ費用ヨリ積算ス明治二十九年六月十九號
- 第三條 一人當リノ給額ヲ算出スルニハ規定ノ給額アルモノハ其規定ノ額ヲ基トシ又規定ノ給額ナキモノハ各其據ル所ヲ示ス明治二十九年六月十九號
- 第四條 一箇當リノ費用ヲ算出スルニハ規定ノ價格アルモノハ其價格ヲ基トシ又規定ノ價格ナキモノハ時々ノ相場ニ據リ其據ル所ヲ示ス明治二十九年六月十九號
- 第五條 給與ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ定員アルモノハ定員ヲ限度トシ定員ナキモノハ前年度四月一日ノ現員ヲ標準トス明治二十九年六月十九號
- 第六條 物件ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ規定ノ箇數アルモノハ規定ノ箇數ヲ限度トシ規定ノ箇數ナキモノハ前々年度以前三箇年度ノ平均ヲ標準トス明治二十九年六月十九號
- 第七條 國債償還ノ金額定期アルモノハ財政ノ都合ニ依リ其利子及手数料ハ規定ニ據リ之ヲ豫算ス明治二十九年六月十九號
- 第八條 常例ノ旅行ニ屬スル旅費ハ各用務毎ニ人員旅費等級、里程及滞在日數ヲ概定シテ豫算ス明治二十九年六月十九號
- 第九條 法律命令契約ニ據リ支出スヘキ總金額ノ定リタルモノハ其總金額ヲ以テ豫算額トス明治二十九年六月十九號
- 第十條 前各條ニ據ルヘカラサル經費ハ最モ適實ノ方法ヲ以テ豫算シ其計算ノ基ク所ヲ示ス明治二十九年六月十九號

○特別會計ノ第一豫備金支出方明治三十年四月勅令第百十八號

朕特別會計ノ第一豫備金支出ニ關スル條件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

特別會計ノ豫算中ニ設ケタル第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ其ノ豫算ヲ所管スル主務大臣ニ於テ會計規則第十八條ノ勅令ニ基キ支出ヲナシ其ノ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り大藏大臣ニ通知シ大藏大臣ハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

○在外公館ニ於テ會計規則ニ定メタル手續省略方 明治三十年三月 勅令第五十八號

朕在外公館ニ於テ會計規則ニ定メタル手續ヲ省略スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 公使館領事館及貿易事務館收入官吏ノ領收シタル現金ヲ金庫ニ拂込ムヘキ期限及收入報告調製ノ期限ハ每三箇月一回若ハ數回ト爲スコトヲ得

第二條 公使館領事館及貿易事務館出納官吏ノ仕拂ヒタル現金ノ計算書調製及其ノ證據書類送付ノ期限ハ外務大臣ニ於テ每三箇月一回若ハ數回ト爲スコトヲ得

第三條 公使館領事館及貿易事務館ニ於テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ爲スニ當リ隨意契約ニ依ルトキハ一口二千圓未滿ニ限り會計規則第八十二條ノ契約書ヲ省略スルコトヲ得

○物品會計規則 明治二十二年六月 勅令第八十四號

朕物品會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

物品會計規則

第一條 此ノ規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其ノ他

一切ノ動産ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關ルモノハ各其ノ規則ニ依ル

第二條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス

第三條 物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

第四條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス

第五條 總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ

第六條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據リタル命令アルニアラザレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス

第七條 物品會計官吏ハ其ノ故意怠惰ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第八條 各省大臣ノ定メタル規程ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

トヲ得

第九條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

第十條 物品會計官吏ハ其ノ代理セル所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

物品會計規則

出トシ買入生産及ヒ其ノ他其ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第十一條 常時出納ヲナサ、ル倉庫若ハ貯藏所ノ物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シ目錄ト現在品ノ照合ヲナサシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十二條 在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ニアル物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シテ現在品及出納ノ實況ヲ調査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十三條 第十一條第十二條ノ調書ニハ検査官吏及検査ヲ受タル物品會計官吏若ハ特ニ命セラレタル立會人之ニ署名スヘシ

第十四條 (二十四年勅令第七十七號ヲ以テ削除)

第十五條 物品會計官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ル爲メ毎年度間ニ執行シタル物品出納ノ計算書ヲ製シ年度後四箇月以内ニ證據書類ヲ添ヘ之ヲ本屬大臣ニ差出スヘシ

物品會計官吏交替ヲナシタルトキ前任官吏ハ前項ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但シ前任官吏死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十六條 前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任ヲ有スル物品會計官吏ノ自身ニ調製シタルモノト同一ニ見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲナスヘシ

第十七條 各省ノ部局長若ハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ第十五條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添付シテ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第十八條 常時出納ヲナサ、ル倉庫若ハ貯藏所ノ物品又ハ在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ第十一條又ハ第十二條ノ調書ヲ以テ第十五條ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除ヲ會計検査院ニ求ムルコトヲ得

第十九條 物品會計官吏ノ身元保證ニ關スル規則ハ總テ會計規則出納官吏身元保證ノ例ニ據ル

第二十條 物品出納ノ順序ハ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第二十一條 官吏ノ職務上必要ナル物品ノ交付及其交付ヲ受タル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之ヲ規定スヘシ

第二十二條 此ノ規則ハ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

○政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約方明治二十三年九月勅令第九十三號

政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
七十七條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモ尙ホ豫定價格ノ制限ニ達セサルトキハ隨意契約ヲナスコトヲ得但之カ爲メ最初競争ニ付スルトキ定メタル價格及其他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

○中央備荒儲蓄金ヲ以テ購入シタル公債證書賣却隨意契約 明治二十四年十一月
勅令第二百十二號
朕中央備荒儲蓄金ヲ以テ購入シタル公債證書ヲ賣却スルニ當リ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
中央備荒儲蓄金ヲ以テ購入シタル公債證書ヲ賣却スルニ當リ臨時急施ヲ要スルトキハ競争ニ附セス隨意契約ニ依ルコトヲ得

○在外各廳ニ於テ隨意契約ニ依リ工事又ハ物件ノ賣買貸借方 明治二十七年四月
勅令第四十號
朕在外各廳ニ於テ隨意契約ニ依リ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ爲スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
在外各廳ニ於テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ爲ストキハ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

○軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル物件ハ隨意契約ヲ以テ貸付又ハ賣渡スコトヲ得 明治二十七年六月
勅令第七十六號
朕軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル政府ノ物件ノ貸付及賣渡ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル政府ノ物件ハ隨意契約ヲ以テ貸付ケ又ハ賣渡スコトヲ得

○工事ノ爲メ買収又ハ収用シタル土地ヲ隨意契約ヲ以テ貸付方 明治三十年二月
勅令第十五號
朕工事ノ爲メ買収又ハ収用シタル土地貸付ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
國ノ起業ニ係ル工事ニ要スル土地ニシテ買収又ハ収用ノ後未タ其ノ土地ニ工事ヲ施行セサルモノハ其ノ施行ニ至ル迄隨意契約ヲ以テ之ヲ其ノ舊所有者ニ貸付スルコトヲ得

○官設鐵道ニ屬スル土地家屋ヲ私設鐵道會社ニ賣渡又ハ貸渡ニ關スル隨意契約 明治二十九年
六月勅令第
二百四十號
朕官設鐵道ニ屬スル土地家屋ヲ私設鐵道會社ニ賣渡又ハ貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
官設鐵道及私設鐵道ノ連絡營業ノ爲メ必要アル場合ニ於テ官設鐵道ニ屬スル土地家屋ヲ私設鐵道會社ニ賣渡又ハ貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○工事ニ要スル機械器具鐵軌車輛船舶建物及其ノ他附屬物材料素品ニ關スル隨意契約 明治二十九年七月
勅令第二百六十八號
朕工事ニ要スル機械器具鐵軌車輛船舶建物及其ノ他附屬物材料素品ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ニ於テ工事ニ要スル機械器具鐵軌車輛船舶建物及其ノ他材料素品ヲ府縣郡市町村及公共組合ヨリ買上ケ借入レ又ハ官有ノ機械器具鐵軌車輛船舶及其ノ附屬物其ノ他材料素品ヲ工事ノ爲メ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡シ貸渡ストキハ競争ニ

工事ノ爲メ買収又ハ収用シタル土地其他隨意契約ヲ爲ス件 四百十七

付セス隨意契約ニ依ルコトヲ得

○府縣稅若クハ地方稅市町村稅又ハ水利組合費ヲ以テ施行スヘキ工事ニ關聯スル政府ノ工事隨意契約方 明治二十六年五月 勅令第五十一號

朕府縣稅若クハ地方稅市町村稅又ハ水利組合費ヲ以テ施行スヘキ工事ニ關聯スル政府ノ工事ニ係ル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣稅若クハ地方稅市町村稅又ハ水利組合費ヲ以テ施行スヘキ工事ニ關聯スル政府ノ工事ニシテ其分割施行ヲ爲スヲ不利トスル場合ニ於テ政府ハ其工事ノ受負又ハ之ニ要スル物品ノ供給ヲ隨意契約ヲ以テ府縣市町村又ハ組合工事ノ受負人又ハ物品供給者ニ命スルコトヲ得

○官有ノ建物及其ノ附屬物ノ賣渡貸渡ニ關スル隨意契約方 明治二十六年十二月 勅令第二百二十八號

朕官有ノ建物及其ノ附屬物ヲ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡貸渡スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
官有ノ建物及其ノ附屬物ヲ公用ニ供スル爲メ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡シ又ハ貸渡ストキハ競争ニ付セス隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

○痘苗製造所ニ於テ犢牛ノ購入ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得 明治二十九年十一月 勅令第三百七十三號
朕痘苗製造所ニ於テ隨意契約ニ依リ犢牛ノ購入ヲ爲スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京及大阪痘苗製造所ニ於テ痘苗製造ニ要スル犢牛ノ購入ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○遞信省ニ於テ鐵道工事ニ要スル職工人夫雇傭ノ請負ハ隨意契約ニ依ルヲ得 明治二十年五月 勅令第二百八號

朕遞信省ニ於テ直接ニ從事スル鐵道工事ニ要スル職工人夫雇傭ノ請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遞信省ニ於テ直接ニ從事スル鐵道工事ニ要スル職工人夫雇傭ノ請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○遞信省ニ於テ鐵道電信電話事業ニ要スル材料ヲ御料局ヨリ買受ルトキ隨意契約ニ依ルコトヲ得 明治二十九年十月 勅令第三百五十四號

朕遞信省ニ於テ鐵道電信電話事業ニ要スル材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遞信省ニ於テ鐵道電信電話事業ニ要スル材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○兵營及葉煙草取扱所ノ建築材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキ隨意契約ニ依ルコトヲ得 明治二十九年十月 勅令第三百十七號

朕兵營及葉煙草取扱所ノ建築材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキ隨意契約ニ依ルコトヲ得

ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
陸軍兵營及葉煙草取扱所ノ建築材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○農商務省ニ於テ馬匹改良ニ要スル馬匹ノ購入及貸渡ハ隨意契約ニ依ルヲ得
勅令第二百三十四號
明治九年五月

朕農商務省ニ於テ隨意契約ニ依リ馬匹ノ購入及貸渡ヲ爲スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農商務省ニ於テ馬匹改良ニ要スル馬匹ノ購入及貸渡ヲ爲ストキハ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

○製鐵所ニ於テ物件ヲ購入スルハ隨意契約ニ依ルコトヲ得
明治二十九年十二月
勅令第三百七十八號

朕製鐵所ニ於テ隨意契約ニ依リ物件ヲ購入スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

製鐵所ニ於テ製鐵事業設備完了ニ至ル迄ニ必要トスル器具機械其ノ他物件ヲ外國ニ於テ購入スルトキ又ハ内國ニ於テ製鐵原料ヲ購入スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○鐵道廳ニテ物件ノ賣買貸借ハ隨意契約ニ依ルヲ得
明治二十三年十一月
勅令第二百七十七號

朕鐵道廳ニ於テ隨意契約ニ依リ物件ヲ賣買貸借スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

「鐵道廳」ニ於テ鐵道事業ニ要スル車輛器具機械其他材料素品ヲ私設鐵道會社ヨリ買上借入又ハ私設鐵道會社ニ賣渡貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○北海道廳直營事業ニ使用スル職工人夫ノ雇傭ハ隨意契約ニ依ルヲ得
明治二十九年八月
勅令第二百八十號

朕北海道廳直營事業ニ使用スル職工人夫ノ雇傭ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道廳ニ於テ施行スル築港運河架橋及墾道ニ關スル工事ヲ競争ニ付スルモ入札者ナキ爲メ又ハ會計規則第七十七條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモ尙ホ豫定價格ノ制限ニ達セサル爲メ之ヲ北海道廳ノ直營事業ト爲シタルトキ之ニ使用スル職工人夫ノ雇傭ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

本年勅令第二百八號ハ北海道廳ニ於テ直接ニ從事スル鐵道工事ニ要スル職工人夫ノ雇傭ニモ適用ス

○北海道廳ニ於テ種畜貸渡ノ隨意契約
明治二十四年七月
勅令第百六十三號

朕北海道廳ニ於テ種畜ヲ貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道廳ニ於テ殖産獎勵ニ要スル種畜ヲ貸渡ストキハ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

○札幌農學校資金ニ屬スル北海道ノ土地貸付ハ隨意契約ニ依ル
明治二十八年七月
勅令第百四號

朕札幌農學校ノ資金ニ屬スル北海道ノ土地ヲ貸付スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○札幌農學校資金ニ屬スル北海道ノ土地貸付ハ隨意契約ニ依ル

札幌農學校ノ資金ニ屬スル北海道ノ土地ノ貸付ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ニ依ルコトヲ得

- 一 一人ニ付宅地ノ面積四百五坪以内ヲ貸付スルトキ
 - 二 一人ニ付耕地及未開地ノ面積三萬坪以内ヲ貸付スルトキ
- 未開地ヲ貸付スル場合ニ於テハ貸付料ヲ徴收セサルコトヲ得

○北海道森林ノ產物ヲ賣渡ストキ又ハ北海道廳直接從事ノ工事材料ヲ御料局ヨリ買受クルルコトヲ得

隨意契約ニ依ルコトヲ得 明治三十年二月 勅令第三十二號

○北海道森林ノ主副產物ヲ賣渡ストキ又ハ北海道廳ニ於テ直接ニ從事スル各種工事ノ材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

公益事業ノ工事ニ要スル北海道森林ノ主副產物ヲ賣渡ストキ又ハ北海道廳ニ於テ直接ニ從事スル各種工事ノ材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○海軍艦船用石炭ヲ外國軍艦ニ讓渡方 明治二十三年十二月 勅令第二百九十五號

海軍艦船用石炭ヲ外國軍艦ニ讓渡スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外國軍艦ニ於テ石炭缺乏ノ際其供給ヲ請フトキハ相當代價ヲ以テ海軍省貯藏ノ石炭ヲ讓渡スコトヲ得

○外國難民貸與金一時繰替支辨方 明治二十四年一月 勅令第一號

朕在外國難民貸與金一時繰替支辨ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

帝國公使館若ハ領事館ニ於テ現金前渡ヲ受ケタル出納官吏ハ其現金ヲ以テ最初前渡ヲ受ケタル目的ノ外難民貸與金ニ限り一時繰替支辨スルコトヲ得

○朕土木工事起業者ニ保證金ヲ納付セシム 明治二十四年三月 勅令第二十六號

朕土木工事起業者保證金ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土木工事ヲ特許スルニ方リ當該官廳ハ其起業者ヲシテ保證金ヲ納付セシムルコトヲ得但有價證券ヲ以テ代用セシムルモ妨ケナシ

○償金特別會計法 明治二十九年三月 法律第六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル償金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

償金特別會計法

第一條 償金及其ノ利子ハ一般ノ歳入歳出ト區分シ特別ノ會計ヲ設置ス

第二條 償金ハ金銀地金及有價證券ヲ以テ之ヲ保有スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ日本銀行ヲシテ其ノ交換ヲ取扱ハシム

前項ノ交換ヨリ生ズル差増減ハ本會計ノ歳入出ニ屬スルモノトス

第三條 國庫内現金融通ノ爲國庫ヨリハ償金ノ金地金ヲ以テ、日本銀行ヨリハ之ニ相當スル兌換銀行券ヲ以テ相互間ニ貸借勘定ヲ組成スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル利子ノ割合

六 大藏大臣之ヲ定ム

前項ノ金地金ハ日本銀行ニ於テ兌換銀行券ノ準備ニ供スヘキモノトス

第四條 政府ハ毎年償金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

○

○葉煙草專賣資金會計法 明治二十九年四月 法律第七十九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル葉煙草專賣資金會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

葉煙草專賣資金會計法

第一條 葉煙草專賣法ニ依リ政府ニ於テ收納スル葉煙草賠償ノ爲葉煙草專賣資金ヲ置キ特別會計ヲ設置ス

第二條 每會計年度ニ於テ其ノ歳入ノ葉煙草賠償金ニ超過スルモノハ同年度一般ノ歳入ニ編入シ資金ハ翌年度ニ繰越スヘシ

第三條 政府ハ毎年葉煙草專賣資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

第四條 葉煙草專賣資金ノ收入支出ニ關スル規定ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第五條 此ノ法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

○葉煙草專賣資金會計規則 明治三十年三月 勅令第五十三號

朕葉煙草專賣資金會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

葉煙草專賣資金會計規則

第一條 葉煙草專賣資金ハ葉煙草賣渡代金ヲ以テ歳入トシ葉煙草納付者ニ對スル賠償金ヲ以テ歳出トス

第二條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ主管大臣之ヲ調製シ前年度八月三十一日迄ニ各省豫定經費要求書ト俱ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三條 主管大臣ハ其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ受拂勘定表ヲ調製シ歳入歳出ノ豫定計算書ニ添付スヘシ

第四條 歳入歳出ノ決定計算書ハ主管大臣之ヲ調製シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

歳入ヲ調定スル官吏ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎年度歳入調定額計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ年度經過後二箇月以内ニ其ノ歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

仕拂命令官ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ主管大臣ニ送付シ主管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第五條 各年度ニ於テ收入ヲ爲スヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ收入済トナラサルモノハ收入未済トシテ順次翌年度ニ繰越シ現ニ收入ヲナシタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第六條 各年度ニ於テ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ仕拂命令ヲ發セサルモ
ノハ支出未済トシテ順次翌年度へ繰越シ當該年度經過後滿五箇年内ハ支出ノ請求ア
ル毎ニ仕拂命令ヲ發スヘシ

第七條 主管大臣ハ葉煙草專賣所ノ出納官吏ニ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

第八條 前渡ヲ爲シタル現金ノ支拂殘額ハ翌年度四月三十日迄定額戻入ヲ爲スコトヲ得

第九條 歳入ノ收入濟額收入未済額資金ノ受入額、資金ニ屬スル現金ノ持越額及總葉
煙草ノ價格ヲ以テ受入トシ歳出ノ支出濟額、支出未済額、資金額、賣渡代價收入濟葉煙
草ノ價格、賣渡代價收入未済既出葉煙草ノ價格及損失ニ歸シタル葉煙草ノ價格ヲ以
テ拂出トシ受入額ヨリ拂出額ヲ控除シ過剩アルトキハ葉煙草專賣益金トシテ之ヲ同
年度一般ノ歳入ニ納付スヘシ

前項ニ掲クル葉煙草ノ價格ハ總テ賠償價格ヲ以テ計算スヘシ但シ毎年度ノ終ニ現在
スル葉煙草ノ價格ハ毎年ノ賠償價格ニ比準シテ之ヲ改算スヘシ

第十條 會計規則第九十五條ニ依リ收入官吏ノ會計検査院ニ提出スヘキ計算書ヲ事務
管理廳ニ送付スルハ毎年度經過後二箇月以内トス

第十一條 葉煙草專賣事務管理廳ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ其ノ事務ニ關スル一
切ノ計算ヲ登記スヘシ

第十二條 本規則ニ依リ出納官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程
様式ハ會計検査院ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸書類帳簿ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

附則

第十四條 本規則ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

○作業會計法 明治二十三年三月
法律第十七號

朕作業會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

作業會計法

第一條 左ノ作業所ハ其事業ヲ經營スル爲メ固定資本据置運轉資本ヲ置キ作業上ノ收入及
其附屬雜收入ハ作業ノ費用ニ充ルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム(三十年法律第八號ヲ
以テ本項中ヲ改正ス)

第一 造幣局

第二 印刷局

〔第三 富岡製絲所〕

第四 電信燈臺用品製造所

第五 廣島鑛山

第二條 各作業所ニ於テ從來使用シ及將來増加スル所ノ土地建物軌道其他築造道路船舶機
械永遠保存品其他重要ナル器具ヲ以テ固定資本トナシ從來ノ營業資本額ヲ以テ据置運轉
資本トス

第三條 各作業所特別會計ノ歳出額ハ豫算定額内ニ於テ實際ノ歳入及据置運轉資本ノ合計
額ヲ超過スルヲ許サス

- 第四條 固定資本ノ維持修理及補充ハ作業特別會計ノ歲入ヲ以テ支辨スヘシ
- 第五條 作業所ノ純益及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ總テ一般ノ歲入ニ編入スヘシ
- 第六條 政府ハ毎年各作業所特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
- 第七條 各作業所特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第八條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

○官設鐵道會計法 明治二十三年三月
法律第二十號

朕官設鐵道會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官設鐵道會計法

- 第一條 鐵道事業ヲ經營スル爲メ固定資本据置運轉資本ヲ置キ營業上ノ收入及其附屬雜收入ハ鐵道事業ノ費用ニ充ルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム
- 第二條 鐵道事業ノ爲メ從來使用シ及將來増加スル所ノ土地軌道車輛停車場工場家屋機械其他重要ナル器具ハ其固定資本トシ從來ノ流動資本ハ其据置運轉資本トス
- 第三條 鐵道營業ニ要スル費用固定資本ノ維持修理及補充費竝ニ損失金ヲ鐵道事業ノ歲出トス
- 第四條 鐵道事業ノ純益及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ總テ一般ノ歲入ニ編入スヘシ

第五條 政府ハ毎年鐵道事業ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條 鐵道事業ノ歲出額ハ豫算定額内ニ於テ實際ノ歲入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルヲ許サス

第七條 災害事變ニ因リ鐵道財產ニ大破損ヲ生シ豫算定額ヲ以テ修理スルニ足ラサル場合

ニ於テ其費用ヲ補フ爲メ鐵道事業ノ歲出豫算ニ豫備費ヲ設ルコトヲ得

第八條 鐵道事業ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

○作業及鐵道會計規則 明治二十三年三月
勅令第三十三號

朕作業及鐵道會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

作業及鐵道會計規則

第一章 歲入歲出

- 第一條 左ノ諸收入ヲ以テ作業所ノ歲入トス
- 第一 作業上ノ收入
- 第二 附屬雜收入

第三條 造幣局、印刷局、富岡製絲所、電信燈臺用品製造所、廣島鑛山ニ於テハ左ノ諸費ヲ以テ歲出トス

第一 事務員技術員ノ俸給諸給旅費(三十年勅令第百二十)

第二 事務所費(三十年勅令第百二十六號ヲ以テ本項改正)

第三 職工人夫ニ給スル諸費

第四 作業用器具機械ノ維持修理及補充費

第五 材料素品購入代

第六 動力費

第七 作業場用備品消耗品費

第八 建物築造道路船舶ノ維持修理及補充費

第九 損失金

第三條 東京砲兵工廠大阪砲兵工廠ニ於テハ左ノ諸費ヲ以テ歲出トス

第一 職工人夫ニ給スル諸費

第二 作業用器具機械ノ維持修理及補充費

第三 材料素品購入代

第四 機械運轉用品購入代

第五 作業場用備品消耗品費

第六 損失金

第四條 千住製絨所ニ於テハ左ノ諸費ヲ以テ歲出トス

第一 事務員技術員ノ俸給諸給旅費

第二 事務所費

第三 職工人夫ニ給スル諸費

第四 作業用器具機械ノ維持修理及補充費

第五 材料素品購入代

第六 機械運轉用品購入代

第七 作業場用備品消耗品費

第八 生産品販賣諸費

第九 土地建物ノ維持修理費

第十 損失金

第五條 鐵道事業ニ於テハ左ノ諸費ヲ以テ歲出トス

第一 營業ニ從事スル職員ノ俸給諸給旅費

第二 職工人夫ニ給スル諸費

第三 鐵道築造物建物車輛器具器械ノ維持修理及補充費

第四 材料素品購入代

第五 汽車及機械運轉用品購入代

第六 營業事務所停車場機械場客車用備品消耗品費

第七 損害賠償金

第八 訴訟費

第九 手数料保險料借料廣告料謝金外國注文品監査費其他營業上ノ雜費

第十 運輸收入割戻金

第十一 損失金

第二章 豫算決算

第六條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ各省

豫定經費要求書ト俱ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ六月卅日ヲ八月三十一日ト改ム)

第七條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ科目ヲ分チ成ルヘク歳入ノ性質歳出ノ用途ヲ明示ス

ヘシ

第八條 所管大臣ハ其年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ受拂勘定表及固定資本價

格増減表ヲ調製シ歳入歳出ノ豫定計算書ニ添付スヘシ

第九條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度八月三十一日マテニ之ヲ

大藏大臣ニ送付スヘシ

作業事務長又ハ作業支部局長ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎年度歳入確定額計算書ヲ

調製シ證憑書類ヲ添ヘ年度經過後二箇月以内ニ其歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務

管理廳之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ(二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ本項以下三項追加)

作業事務長又ハ作業支部局長ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ

證憑書類ヲ添ヘ翌月十五日マテニ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計検査院

ニ送付スヘシ

本條第二項第三項ノ計算書ハ特ニ監督ノ任アル官吏若クハ特ニ所管大臣ヨリ委任ヲ

受ケタル官吏ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三章 收入支出

第十條 歳入歳出ノ豫算ハ決定ノ後豫備費ヲ除キ所管大臣各作業事務長ニ命シテ之ヲ

執行セシムヘシ

各省大臣ハ作業支部局長ヲシテ歳出豫算ノ一部ヲ執行セシメントスルトキハ仕拂豫

算ヲ以テ之ヲ命スヘシ

仕拂豫算ニ關スル規程ハ會計規則第十一條第十二條第十三條ニ依ルヘシ

第十一條 豫備費ノ支出ハ會計規則第十九條第二十條第二十四條ニ依ルヘシ

第十二條 作業所ノ收入官吏ハ會計規則第二十五條第二十六條ノ手續ニ依リ收入ヲ取

扱フヘシ(二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ)

第十三條 作業所ハ据置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高及當該年度ノ收入濟歳入額ヲ

以テ仕拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此仕拂元受高ヲ超過スルヲ得ス

第十四條 作業事務長又ハ作業支部局長ハ歳出ヲ支出スル爲メ金庫ニ向テ仕拂請求書

ヲ發スヘシ

第十五條 仕拂請求書ヲ發スル官吏ハ正當債主若クハ其代理人ノ爲ニスルニアラサレ

ハ仕拂請求書ヲ發スルヲ得ス但支部局及派出工場ニ於テ仕拂ヲナス經費外國ニ於テ仕

拂フ者ニシテ經費職工人夫ノ給料諸手當ハ仕拂請求書ヲ發シ主任ノ官吏又ハ外國派出ノ官吏ヲ仕拂官吏トシテ現金ノ前渡ヲナスコトヲ得(三十年勅令第二百三十號ヲ以テ但書中ヲ削リ)

第十六條 仕拂請求書ヲ發スル官吏ハ總テ仕拂請求書ヲ發スル前其支出ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ其金額ヲ算定シ又其支出ハ豫算ノ目的ニ違フコトナキヤ金額ハ豫算定額及仕拂元受高ニ超過スルコトナキヤヲ調査スヘシ

第十七條 仕拂請求書ニハ債主若クハ其代理人ノ氏名仕拂ヲ請求スル金額支出科目年度番號ヲ記載スヘシ但支出科目ノ同一ナルモノハ集合仕拂請求書ヲ發シ別ニ各受取人ノ金額氏名表ヲ添ルコトヲ得(二十六年勅令第二百二號ヲ以テ條中改正)

現金前渡ノ仕拂請求書ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格氏名前渡ヲナスヘキ金額支出科目年度番號ヲ記載スヘシ(二十六年勅令第二百二號ヲ以テ條中刪除)

第十八條 仕拂請求書取扱ノ手續ハ會計規則第三十五條第三十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル(二十六年勅令第二百二號ヲ以テ條中刪除)

第十九條 各年度ノ歳出ニ屬スル仕拂請求書ヲ發スルハ毎年度三月三十一日ヲ限リトス

第十九條ノ二 定額戻入ニ關スル規程ハ會計規則第六十三條第六十四條ノ例ニ依ル(二十六年勅令第二百二號ヲ以テ追加)

第二十條 現金前渡ヲ受タル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣所管大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第二十一條 金庫ハ案内仕拂請求書集合仕拂請求書若クハ金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂請求書ヲ受ケタルトキ其ノ仕拂請求書合式ニシテ且豫算各項ノ金額及仕拂元受高ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲スヘシ

前項ノ外金庫ニ於テ仕拂請求書ニ對シテ仕拂ヲ執行シ又ハ之ヲ拒絕スルハ會計規則第四十三條第四十五條第二項第四十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル(二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ改正)

第二十二條 毎年度内ニ收入ヲナスヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ收入濟トナラサルモノハ收入未濟トシテ順次翌年度へ繰越シ現ニ收入ヲナシタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第二十三條 毎年度内ニ仕拂ヲナスヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ仕拂請求書ヲ發セサルモノハ支出未濟トシテ順次翌年度へ繰越シ當該年度經過後滿五箇年内ハ支出ノ請求アル毎ニ仕拂請求書ヲ發スヘシ但支出未濟ノ繰越額ハ支出濟額ト合シテ豫算定額ヲ超過スルヲ得ス(二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ本條中ヲ改正ス)

第二十四條 毎年度内ニ於テ仕拂請求書ヲ發シ金庫ニ於テ仕拂ノ請求ヲ受ケサルモノハ仕拂未濟トシテ之ニ相當スル資金ヲ翌年度へ繰越シ第二十一條ノ規程ニ依リ仕拂ハナスヘシ

第二十五條 前條ノ仕拂未濟金ハ會計法第十八條ニ依リ仕拂義務ヲ免レタルトキハ其

期滿免除トナリタル年度ノ一般ノ歳入ニ組入ルヘシ

第二十六條 收入官吏ハ其取扱タル收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ依リ毎月收入報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ翌月十五日マテニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ但作業支部局ノ收入官吏ハ其收入報告書ヲ翌月七日マテニ作業事務本局ノ收入官吏ニ送付スヘシ

第二十七條 作業事務本局ノ收入官吏ハ作業全部ノ收入合計表ヲ調製シ諸收入官吏ノ收入報告書ニ添付シ前條ノ手續ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十八條 金庫出納役ハ毎月仕拂請求書受領濟額報告書ヲ調製シ其ノ翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ(二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ改正)

第二十九條 (二十六年勅令第二百二十四條ヲ以テ削除)

第四章 資本

第三十條 資本ハ總テ價格ヲ付シテ計算スヘシ

第三十一條 資本ノ價格ハ左ノ方法ニ依テ之ヲ定ム

一 土地ハ近隣地ノ賣買價格五箇年間ノ平均ニ依ル近隣ニ比較スヘキ相當ノ土地ヲキトキハ五人以上ノ評價人ヲ定メ其評定價格ノ平均ニ依ル

二 建物鐵道其他築造道路船舶機械器具其他ノ物品ハ建築費又ハ購入價格ニ依ル建築費又ハ購入價格ノ不明ナルモノハ物件ノ輕重ニ依リ二人以上ノ評價人ヲ定メ其評定價格ノ平均ニ依ル

三 材料素品器械ノ運轉用品ハ購入價格ニ依ル

四 生産品ハ生産費ニ依ル但賣買ノ契約濟トナリタルモノハ其賣渡代價ニ依ル

第三十二條 土地ノ價格ハ前條ノ方法ニ依リ每五年ニ之ヲ改定スヘシ

第三十三條 公衆ノ用ニ供スル鐵道ノ固定資本ハ每五年ニ五人以上ノ評價人ヲ定メ其評定價格ノ平均ニ依リ之ヲ改定スヘシ

第三十四條 建物公衆ノ用ニ供セサル鐵道其他築造道路船舶機械器具其他ノ物品ハ永遠保存品ヲ除キ總テ保存期限ヲ定メ其期限ニ應シテ毎年價格ヲ遞減スヘシ

前項中固定資本ニ屬スル物件ヲ修理シタルトキハ其修理費ヲ以テ現年ノ價格ニ加ヘ再ヒ保存年限ニ應シテ價格ヲ遞減スヘシ

第三十五條 前條ノ物件ヲ修理シタルトキハ保存年限ヲ改定シテ之ヲ延フルコトヲ得

第三十六條 材料素品器械ノ運轉用品ノ年度内未消費ニ屬スルモノ市價ノ低落又ハ毀損變質等ニ由リ其價格ヲ減スルトキハ毎年度ノ終リ當時ノ市價ニ依リ其價格ヲ改定スヘシ

第三十七條 生産品ノ年度内未販賣ニ屬スルモノ需用ノ變動生産法ノ改良又ハ毀損變質等ニ由リ其價格ヲ減シ實際ノ市價生産費以下トナルトキハ毎年度ノ終リ當時ノ市價又ハ當年度ノ生産費ニ依リ其價格ヲ改定スヘシ

第三十八條 材料素品器械ノ運轉用品生産品其他ノ物品ニシテ不用ニ歸シタルモノハ總テ損失トシ其價格ヲ削除シテ不用物品ニ組入レ之ヲ賣拂フヘシ

第五章 受拂勘定

第三十九條 受入ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 歳入ノ收入濟額

第二 收入未濟額

第三 据置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高

第四 總生産品ノ價格

第五 總材料及素品ノ價格

第六 總機械運轉用品ノ價格

第七 作業場用總備品ノ價格

第八 代價支出濟未收物品ノ價格

第四十條 拂出ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 歳出ノ支出濟額(二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ)
(支出調定濟額ヲ支出濟額ト改ム)

第二 支出未濟額

第三 据置運轉資本額

第四 賣拂代價收入濟物品ノ價格

第五 賣拂代價收入未濟既出物品ノ價格

第六 消費シタル材料及素品ノ價格

第七 消費シタル機械運轉用品ノ價格

第八 損失ニ歸シタル物品ノ價格

第九 損失金

第四十一條 作業所ハ受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ殘餘アルトキハ作業ノ益金

トシテ其事業ヲ營ミタル年度ノ一般ノ歳入ニ納付スヘシ

第六章 工事及物件ノ賣買貸借

第四十二條 工事及物件ノ賣買貸借ニ關スル規則ハ總テ會計規則第七章ノ例ニ依ル

第七章 出納官吏

第四十三條 出納官吏ニ關スル規則ハ第四十四條ニ定メタル期限ノ外總テ會計規則第

八章ノ例ニ依ル

第四十四條 會計規則第九十五條ノ例ニ依リ收入官吏ノ會計検査院ニ提出スヘキ計算

書ヲ事務管理廳若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ニ送付スルハ毎年度經過後二箇月以内

トス(二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ本條中ヲ改正ス)

第八章 帳簿

第四十五條 大藏省ハ各作業會計ノ主計簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額確定額收入濟額收入未

濟額歳出ノ豫算額仕拂元受高支出濟額ヲ登記スヘシ(二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ條中刪除)

第四十六條 作業所ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ其事業ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘ

第四十七條 收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歲入ノ豫算額確定額收入濟額收入未濟額ヲ登記スヘシ

第四十八條 金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歲出ノ豫算額仕拂請求書受領濟額ヲ登記シ又仕拂元受高差引簿ヲ備ヘ仕拂元受高仕拂請求書受領濟額仕拂額ヲ登記スヘシ(二十六年勅令第二百二十四號)

第四十九條 收入官吏現金前渡ヲ受タル官吏現金ヲ出納スル場合ニ於テハ現金出納簿ヲ備ヘ其出納ヲ登記スヘシ

第九章 雜則

第五十條 本規則ニ依リ當該官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ(二十六年勅令第二百二十四號ヲ)

第五十一條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸書類帳簿ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第五十二條 此規則ニ於テ作業所トハ造幣局、印刷局、富岡製絲所、電信燈臺用品製造所、廣島鑛山、東京砲兵工廠、大坂砲兵工廠、千住製絨所及鐵道ヲ謂フ

第五十三條 此規則ニ於テ作業事務長トハ鐵道局長、造幣局長、印刷局事務長、富岡製絲所長、東京砲兵工廠提理、大坂砲兵工廠提理、千住製絨所長ヲ謂フ(二十六年勅令第二百二十四號ヲ)以テ鐵道局長ト改ム

電信燈臺用品製造所及廣島鑛山ニ於テハ其事務管理長ヲ以テ作業事務長トス

第五十四條 本規則ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

○鐵道公債會計法 明治二十六年一月 法律第一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鐵道公債會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道公債會計法

第一條 明治二十五年法律第四號鐵道敷設法ニ依ル所ノ鐵道公債ノ歲入歲出ハ一般ノ歲入歲出ト區分シ特別會計ヲ立テシム

第二條 鐵道公債募集金ヲ以テ支辨スル官設鐵道敷設ニ要スル用品ヲ官設鐵道用品資金會計ヨリ買入ル、トキハ前金拂ヲ爲スコナ得

第三條 本法第二條ハ明治二十七年ヨリ施行ス

○鐵道公債取扱順序 二十六年三月 令第五號

○官設鐵道用品資金會計法 明法二十六年七月 法律第二號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル官設鐵道用品資金會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官設鐵道用品資金會計法

第一條 鐵道用品ヲ購入貯藏シ官設鐵道運輸營業並ニ建設事業ノ需用ニ應スル爲メ官設鐵道用品資金ヲ置キ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 官設鐵道用品資金ハ官設鐵道會計ノ据置運輸資本ノ内金百八十萬圓ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 官設鐵道用品資金ヲ以テ購入貯藏シタル物品ノ製作改製及修理ノ費用ハ該資金ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條 官設鐵道用品資金會計ニ屬スル諸品ノ賣拂價格ハ其ノ自然ノ損減歩合、製作、改製及修理費並ニ其ノ附屬費用及購入ニ附隨スル諸費ヲ其ノ購入原價ニ加算シテ之ヲ定ムヘシ

第五條 官設鐵道用品資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過剩ヲ生スルトキハ其ノ過剩金ヲ同年度一般ノ歳入ニ編入スヘシ

第六條 政府ハ毎年官設鐵道用品資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第七條 官設鐵道用品資金特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第八條 本法ハ明治二十七年七月ヨリ施行ス

○官設鐵道用品資金會計規則 明治二十六年七月 勅令第七十一號

朕官設鐵道用品資金會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官設鐵道用品資金會計規則

第一條 官設鐵道用品資金ハ貯藏物品賣拂代金並ニ附屬雜收入ヲ以テ歳入トシ物品購入代製作費改製費修理費並ニ附屬諸費ヲ以テ歳出トス (二十七年勅令第九十一號ヲ以テ條中改正)

第二條 官設鐵道用品資金ノ歳出ハ實際ノ歳入額及資金ニ屬スル現金ノ持越高ヲ以テ支辨スヘシ

第三條 歳入歳出ノ豫算決算ハ作業及鐵道會計規則第二章ノ例ニ依ル

第四條 收入支出ノ取扱ハ作業及鐵道會計規則第三章ノ例ニ依ル

第五條 貯藏物品ノ購入原價ニシテ自然ノ腐朽又ハ毀損變質減量等ニ依リ其價格減少シタルトキハ毎年度ノ終リニ於テ之ヲ改定スヘシ

第六條 貯藏物品ノ損減歩合ハ自然ノ腐朽又ハ不用ニ歸シタルニ依リ生シタル既往ノ損減高及亡失毀損變質減量等ヲ參酌シテ之ヲ定ムルモノトス

第七條 受拂勘定ノ受入ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 歳入ノ收入濟額

第二 收入未濟額

第三 資金ニ屬スル現金ノ持越高

第四 總貯藏物品ノ價格

第五 代價支出済未收物品ノ價格

第八條 受拂勘定ノ拂出ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 歳出ノ支出済額(二十六年勅令第二百二十七號ヲ以テ本項改正)

第二 支出未済額

第三 資金額

第四 前受金

第五 代價收入済物品ノ價格

第六 代價收入未済既出物品ノ價格

第七 損失ニ歸シタル物品ノ價格

第八 損失金

第九條 受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ過剩アルトキハ益金トシテ之ヲ同年度ノ一般ノ歳入ニ納付スヘシ

第十條 物品ノ買入不用物品賣拂ノ規程ハ會計規則第七章ノ例ニ依ル

第十一條 出納官吏ニ關スル規則ハ作業及鐵道會計規則第七章ノ例ニ依ル

第十二條 帳簿ニ關スル規則ハ作業及鐵道會計規則第八章ノ例ニ依ル

第十三條 本規則ニ依リ當該官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程

様式ハ會計検査院ノ定ムル所ニ依ル(二十六年勅令第二百二十七號ヲ以テ條中改正)

第十四條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸書類帳簿ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第十五條 本規則ハ明治二十七年ヨリ施行ス

○官設鐵道用品ヲ官設鐵道用品資金ヨリ買入ル、トキ前金渡概算渡方明治二十九年二月法律第二號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル官設鐵道用品ヲ官設鐵道用品資金ヨリ買入ル、トキ前金拂

概算渡ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官設鐵道用品ヲ官設鐵道用品資金會計ヨリ買入ル、トキ前金拂並概算渡ヲ爲スコトヲ得

○整理公債ニ關スル特別會計明治二十三年二月法律第十四號

朕整理公債ニ關スル特別會計設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歳入歳出ト區分スヘシ

第二條 整理公債募集金ノ毎年度内ニ他ノ公債償還ニ供セサルモノハ翌年度へ繰越スヘシ

第三條 整理公債條例第三十一條ニ依リ支出スル製造費發行費及利子ハ其金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ拂出スヘシ

第四條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

○貨幣整理資金特別會計法 明治三十年三月 法律第十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル貨幣整理資金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貨幣整理資金特別會計法

第一條 一圓銀貨幣及流通不便ノ貨幣引揚交換ノ爲貨幣整理資金ヲ置キ其ノ歳入歳出ハ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ設置ス

第二條 明治三十年度以後造幣局特別會計作業益金ハ貨幣整理資金ニ充ツヘシ

第三條 交換ノ上引揚タル一圓銀貨幣及流通不便ノ貨幣ヲ地金トシテ賣却スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第四條 每會計年度ニ於テ貨幣整理資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過剩ヲ生スルトキハ其ノ過剩金ヲ該資金ニ編入スヘシ

第五條 政府ハ毎年貨幣整理資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條 貨幣整理資金ノ收入支出ニ關スル規定ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○貨幣整理資金特別會計規則 明治三十年四月 勅令第二百二十八號
朕貨幣整理資金特別會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貨幣整理資金特別會計規則

第一條 貨幣整理資金ハ地金賣拂代ヲ以テ歳入トシ貨幣交換金ヲ以テ歳出トス

第二條 歳入歳出ノ豫定計算書及決定計算書ハ大藏大臣之ヲ調製シ帝國議會ニ提出ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 各年度ニ於テ歳入ヲ歳出ノ仕拂命令ヲ發スルハ毎年度三月三十一日ヲ限リトス

第四條 大藏大臣ハ其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ受拂勘定表ヲ調製シ歳入歳出ノ豫定計算書ニ添付スヘシ

第五條 受拂勘定ノ受入ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 歳入ノ收入濟額

第二 收入未濟額

第三 資金ニ屬スル現金ノ持越高

第四 造幣局作業益金ノ受入額

第五 總地金ノ價格

第六條 受拂勘定ノ拂出ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 歳出ノ支出濟額

第二 資金額

第三 代價收入濟地金ノ價格

貨幣整理資金特別會計規則

第四 代價收入未済地金ノ價格

第七條 受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ過剩アルトキハ資金ニ編入シ不足ヲ生スル上キハ資金ノ減額ト爲スヘシ

第八條 此ノ規則ニ規定セサルモノハ總テ一般會計規則ノ各條項ヲ適用ス

○紙幣交換基金特別會計法 明治二十三年三月 法律第二十四號

朕紙幣交換基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

紙幣交換基金特別會計法

第一條 從來政府ニ於テ發行シタル紙幣ヲ廢止スル爲メ紙幣交換基金ヲ置キ漸次之ヲ交換セシム

第二條 政府所有ノ準備金壹千萬圓ハ之ヲ紙幣交換基金ニ組入ルヘシ

政府ハ金貳千貳百萬圓ヲ限り日本銀行ヨリ借入ヲ爲シ前項ノ交換基金ニ組入ルヘシ(二十年法律第五十六號ヲ以テ本項追加)

第三條 紙幣交換基金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歲入歲出ト區分スヘシ

第四條 毎年度ニ於テ紙幣交換基金ノ交換未済トナリタルモノハ漸次之ヲ翌年度ヘ繰越スヘシ

第五條 紙幣交換基金ノ收入支出ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 本法ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法 明治二十三年三月 法律第二十五號

朕鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法

第一條 國立銀行條例第九十八條ニ於テ定メタル鎖店銀行紙幣交換基金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歲入歲出ト區分スヘシ

第二條 毎年度ニ於テ鎖店銀行紙幣交換基金ノ交換未済トナリタルモノハ漸次之ヲ翌年度ヘ繰越スヘシ

第三條 鎖店銀行紙幣交換基金ノ收入支出ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 本法ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

第五條 本法ハ平穩鎖店ヲ爲シ又ハ營業滿期ニ至リタル國立銀行紙幣並ニ營業滿期前ニ特別處分ヲ爲シタル國立銀行紙幣交換基金ノ會計ニモ之ヲ適用ス(二十八年法律第十六號及以テ追加)

○整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金特別會計ノ規程 明治二十三年四月 勅令第六十八號

朕整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金特別會計ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金特別會計ノ規程ハ左ニ掲クルモノ、外總テ明治二十二年勅令第六十號會計規則ニ準據スヘシ

第一 大藏大臣ハ毎年公債整理金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金ノ歳入歳出豫定計算書ヲ調製シ歳入歳出總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出ノ手續ヲナスヘシ

第二 大藏大臣ハ公債整理金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金ノ歳入歳出決定計算書ヲ調製シ歳入歳出總決算ト共ニ帝國議會ニ提出ノ手續ヲナスヘシ

第三 紙幣交換基金ハ仕拂命令ヲ發シテ現金ヲ日本銀行ニ前渡スルコトヲ得此場合ニ於ケル仕拂ノ證明ハ明治二十三年勅令第二十號ニ準據スヘシ

第四 毎年度ニ於テ仕拂命令ヲ發スルハ毎年三月三十一日ヲ限リトス

第五 收入官吏ノ會計検査院ニ提出スヘキ計算書ヲ大藏大臣ニ送付スルハ毎年度經過後二箇月以内トス(二十六年勅令第二百五號ヲ以テ本項中刪除)

第六 大藏省ハ公債整理金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金會計ノ主計簿ヲ備フヘシ

○陸軍作業會計法 明治二十三年三月 法律第十八號

朕陸軍作業會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍作業會計法

第一條 東京砲兵工廠大阪砲兵工廠及千住製絨所ハ其事業ヲ經營スル爲メ固定資本据置運轉資本ヲ置キ作業上ノ收入及其附屬雜收入ハ作業ノ費用ニ充ルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 東京砲兵工廠大阪砲兵工廠ニ於テハ從來使用シ及將來増加スル所ノ機械其他重要ナル器具ヲ以テ固定資本トシ從來ノ營業資本額ヲ以テ据置運轉資本トス
千住製絨所ニ於テハ從來使用シ及將來増加スル所ノ土地建物機械其他重要ナル器具ヲ以テ固定資本トシ從來ノ營業資本額ヲ以テ据置運轉資本トス

第三條 東京及大阪砲兵工廠ハ職工人夫ノ諸費材料素品及機械運轉用品ノ購入費機械器具ノ維持修理及補充費工業場ノ雜費竝ニ損失金ヲ作業ノ歳出トス
 千住製絨所ハ俸給諸給旅費廳費生産品販賣ノ諸費職工人夫ノ諸費材料素品及機械運轉用品ノ購入費土地建物ノ維持修理費機械器具ノ維持修理及補充費工業場ノ雜費竝ニ損失金ヲ作業ノ歳出トス

第四條 各作業所特別會計ノ歳出額ハ豫算定額内ニ於テ實際ノ歳入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルヲ許サス

第五條 作業所ノ純益及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ總テ一般ノ歳入ニ編入スヘシ

第六條 政府ハ毎年各作業所特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第七條 豫算外ニ軍用品ノ製作修理ヲ要スル場合ニ於テ其費用ヲ補フ爲メ各作業所ノ歳出豫算ニ豫備費ヲ設クルコトヲ得

第八條 各作業所ニ於テ機械器具材料素品及機械運轉用品ヲ外國ヨリ買入ル、トキハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第九條 各作業所特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

○

○陸軍兵備品會計規則 明治二十四年三月 勅令第二十二號

朕陸軍兵備品會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍兵備品會計規則

第一條 陸軍兵備品ハ分テ出師準備品通常兵備品ノ二類トス

第二條 出師準備品トハ左ニ掲クル諸品ヲ云フ

- 一 兵器彈藥及各兵器具竝材料
- 二 秘密圖書器具
- 三 馬匹及戰時之ニ要スル器具
- 四 戰用糧秣及炊爨具
- 五 戰用被服及裁縫具
- 六 戰用衛生材料
- 七 戰用獸醫材料

八 戰用天幕

九 陣中事務用品

第三條 普通兵備品ハ左ニ掲クル諸品ヲ云フ

一 圖書

二 糧秣

三 被服及裁縫具

四 衛生材料

第五條 獸醫材料

第六條 兵營備付陣營具

第四條 出師準備品ノ品目數量ハ陸軍大臣參謀總長ト協議ノ上上裁ヲ經テ之ヲ定ム

第五條 出師準備品ハ其保存ヲ全カスシ公ル爲メ通常兵備品ト新陳交換スルヲ例トス

第六條 出師準備品ハ近衛都督各師團長及當該長官之ヲ管理ス

第七條 出師準備品及其數量ニ關スル書類ハ主任者ノ外關與スルコトヲ得ス

第八條 通常兵備品中軍隊其他委任經理ニ係ル糧食被服消耗品陣營具ニシテ特ニ保管ノ方

法ヲ定メテ試行アリテハ各保管者聯帶シテ其責ニ任ス

第九條 通常兵備品ノ會計ハ明治二十二年勅令第八十四號物品會計規則ニ依ル

第十條 出師準備品ノ保管出納及檢査ノ方法其他細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十一條 海軍兵備品會計規則

○海軍兵備品會計規則 明治三十三年三月 勅令第六十四號

朕海軍兵備品會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍兵備品會計規則

第一條 海軍兵備品トハ左ノ諸品ヲ云フ

一 兵器、彈藥、水雷及其附屬品

二 秘密圖書、測器海圖

三 艦營需品

四 被服、糧食

五 治療品

第二條 海軍兵備品ノ會計ハ本則ニ明文アルモノヲ除クノ外物品會計規則ニ依ル

第三條 (二十六年勅令第四十七號ヲ以テ削除)

第四條 物品會計規則第十五條第十七條ニ依リ會計檢査院ニ送付スル計算書中兵器彈藥水

雷及其附屬品並秘密圖書測器海圖ハ價格ノミヲ明記シ其數量ハ檢閱官ノ證明書ヲ以テ保

證スヘシ(二十六年勅令第四十七號ヲ以テ改正)

第五條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○

○軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル政府ノ物件貸付賣渡方 明治二十七年七月 勅令第九十二號

朕軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル政府ノ物件ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル政府ノ物件ヲ貸付ケ又ハ賣渡ス場合ニ於テハ官有財産
管理規則第四條第六條及第七條ニ依ラサルコトヲ得

○

○鎮守府造船材料資金會計法 明治二十三年三月 法律第十九號

朕鎮守府造船材料資金會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○鎮守府造船材料資金會計法

第一條 鎮守府造船工場ニ於テ船舶ヲ製造修理スル爲メニ要スル材料貯蓄ノ資本トシテ造
船材料資金ヲ置キ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 造船材料資金ハ從來横須賀鎮守府小野濱造船所ニ備ヘタル營業資本ヲ以テ之ニ充

ッ

第三條 造船材料資金ヲ以テ貯蓄シタル材料ヲ使用スルトキハ海軍省所管經費ヲ以テ之ヲ
購入スヘシ

第四條 造船材料資金ヲ以テ貯蓄シタル材料ノ損減ハ豫メ歩合ヲ定メテ材料原價ニ加算ス
ヘシ

第五條 毎會計年度ニ於テ造船材料資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過剩ヲ生スルトキハ
其過剩金ヲ同年度一般ノ歳入ニ編入スヘシ

第六條 政府ハ毎年造船材料資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱
ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第七條 造船材料資金ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ
會計年度ヨリ施行ス

○鎮守府造船材料資金會計規則 明治二十三年三月 勅令第三十四號

朕鎮守府造船材料資金會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎮守府造船材料資金會計規則

第一條 造船材料資金ハ貯蓄材料賣拂代金ヲ以テ歲入トシ材料購入代、製作費、改製費、修理費並ニ其附屬諸費及損失金ヲ以テ歲出トス(二十七年勅令第四百四十八號ヲ以テ條中ヲ改正ス)

第二條 造船材料資金ノ歲出ハ實際ノ歲入額及資金ニ屬スル現金ノ持越高ヲ以テ支辨スヘシ

第三條 歲入歲出ノ豫算決算ハ作業及鐵道會計規則第二章ノ例ニ依ル

第四條 收入支出ノ取扱ハ作業及鐵道會計規則第三章ノ例ニ依ル(二十六年勅令第四十除削)

第五條 貯蓄材料ノ原價ハ購入代價、製作費、改製費、修理費並ニ其附屬諸費ヲ以テ計算スヘシ但造船法ノ改良市價ノ低落又ハ毀損等ニ依リ其實價減少シタルトキハ毎年度ノ終リ當時ノ市價ニ依リ其價格ヲ改定スヘシ(二十四年勅令第四百九十五號及二十七年勅令第四百四十八號ヲ以テ改正)

第六條 貯蓄材料ヲ工場ニ使用スルトキハ原價ニ損減歩合ヲ加ヘテ之ヲ賣拂フヘシ(二十四年勅令第四百九十五號ヲ以テ改正)

第七條 貯蓄材料ノ損減歩合ハ前年度及前々年度ノ損減高ヲ參酌シテ之ヲ定ム(二十四年勅令第四百九十五號)

第八條 歲入額收入未濟額資金ニ屬スル現金ノ持越高及總材料ノ價格代價支出濟未收物品ノ價格ヲ以テ受入トシ歲出額支出未濟額資金額賣拂代收入濟材料ノ價格損

失ニ歸シタル材料ノ價格及損失金ヲ以テ拂出トシ受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ過剩アルトキハ造船材料賣拂益金トシテ之ヲ同年度ノ一般ノ歲入ニ納付スヘシ

第九條 材料ノ買入不用材料賣拂ノ規程ハ總テ會計規則第七章ノ例ニ依ル

第十條 出納官吏ニ關スル規則ハ總テ作業及鐵道會計規則第七章ノ例ニ依ル

第十一條 帳簿ニ關スル規則ハ總テ作業及鐵道會計規則第八章ノ例ニ依ル(二十六年勅令第四百八十八號ヲ以テ本條但書削除)

第十二條 本規則ニ依リ當該官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ(二十六年勅令第四百二十五號ヲ以テ田納官吏ヲ當該官吏ト改ム)

第十三條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸書類帳簿ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第十四條 本規則ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

○在外海軍用地租稅前金拂ノ件明治二十四年三月勅令第二十四號

朕在外海軍用地租稅前金拂ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍省所管經費中左ノ費目ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

在外海軍用地租稅前金拂ノ件

在外海軍用地租稅

○陸海軍出師準備ノ物品ハ會計検査院法ヲ適用セス 明治二十三年八月
法律第七十號

朕陸海軍出師準備ニ屬スル物品検査ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸海軍出師準備ニ屬スル物品ニ對シテハ陸海軍大臣其責ニ任シ會計検査院法ヲ適用スルノ限ニ在ラス

○官立學校及圖書館會計法 明治二十三年三月
法律第二十六號

朕官立學校及圖書館會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官立學校及圖書館會計法

第一條 文部省直轄學校及圖書館並ニ農商務省所管東京農林學校ハ資金ヲ所有シ政府ノ支出金資金ヨリ生スル收入授業料寄附金及其他ノ收入ヲ以テ其歲出ニ充ツルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 學校及圖書館ノ資金ハ從來所有スル蓄積金政府ヨリ交付シ若クハ他ヨリ寄付シタル不動産不動産及歲入殘餘ヨリ成ルモノトス

第三條 教員事務員ノ俸給諸給旅費器具器械圖書標本費授業費試驗費生徒ニ關スル諸費事務處費營繕費雜支其他寄付者ノ指定シタル費途ヲ以テ學校及圖書館ノ歲出トス

第四條 學校及圖書館ノ寄付金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其約束ニ從ヒ之ヲ使用シ其會計ハ別ニ之ヲ整理スヘシ

第五條 政府ハ毎年各學校及圖書館ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條 學校及圖書館ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

○官立學校及圖書館會計規則 明治二十三年三月
勅令第五十三號

朕官立學校及圖書館會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官立學校及圖書館會計規則

第一章 資金

第一條 資金ヲ分テ左ノ二種トス

第一 維持資金

第二 特別資金

維持資金ヨリ生ズル利子其他ノ收入ハ學校一般ノ經費ニ充ツルモノトス
特別資金ヨリ生ズル利子其他ノ收入ハ特定ノ用途ニ充テ其殘餘ハ該資金ノ増殖ニ
ツルモノトス

第二條 資金ハ所管大臣之ヲ管理スヘシ

第三條 資金ハ之ヲ支消スルコトヲ得ス但特別資金ニ限り用途指定者ノ同意ヲ以テ元
金ヲ使用スルコトヲ得

第四條 資金ニ屬スル現金ハ總テ「預金局」ニ寄托スヘシ

第五條 資金ニ屬スル現金ヲ以テ不動産公債證書其他ノ證券ニ換ヘ又ハ資金ニ屬スル
不動産公債證書其他ノ證券ヲ離權シ又ハ他ノ不動産公債證書其他ノ證券ニ換ヘント
スルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ但寄付ニ係ル不動産ハ寄付
者ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ離權スルコトヲ得ス

第六條 資金ニ屬スル現金ノ會計ハ別途ノ歳入歳出トシテ之ヲ整理スヘシ

第二章 歳入歳出

第七條 左ノ諸收入ヲ以テ學校ノ經常歳入トス

第一 政府ノ支出金

第二 授業料及試験料

第三 寄付金

第四 公債證書及諸證券ノ利子又ハ配當金

第五 土地家屋ノ貸付料

第六 實驗用生産品賣拂代

第七 雜收入

第八條 左ノ諸費ヲ以テ學校ノ經常歳出トス

第一 教員事務員ノ俸給諸給及旅費

第二 學用器具器械圖書及標本費

第三 授業費及試験費

第四 獎學費

第五 生徒費

第六 事務所費

第七 營繕費

第八 雜支出

第九條 左ノ諸收入ヲ以テ圖書館ノ經常歲入トス

第一 政府ノ支出金

第二 書籍借覽料

第三 寄付金

第四 公債證書及諸證券ノ利子又ハ配當金

第五 土地家屋ノ貸付料

第六 雜收入

第十條 左ノ諸費ヲ以テ圖書館ノ經常歲出トス

第一 事務員ノ俸給諸給及旅費

第二 圖書費

第三 閱覽室費

第四 事務所費

第五 營繕費

第六 雜支出

第十二條 經常歲出ハ經常歲入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ臨時ノ歲出ニ充ツル所ノ財源ハ其都度之ヲ定ム

第三章 豫算決算

第十二條 歲入歲出豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ各省

豫定經費要求書ト俱ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ六月三十日ヲ八月三十一日ト改ム)

第十三條 所管大臣ハ其年三月三十一日現在ノ資金明細目錄ヲ調製シ毎年度ノ豫算ニ添付スヘシ

第十四條 歲入歲出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翠年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎年度歲入確定額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ年度經過後二箇月以内ニ歲入事務管理廳ニ送付シ歲入事務

管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ(二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ本項以下三項追加)

學校長圖書館長又ハ其支部長ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ翌月十五日マテニ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

本條第二項第三項ノ計算書ハ特ニ所管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第十五條 歲入歲出ノ豫定計算書及決定計算書ハ款項ニ區分シ更ニ各目ニ分チ成ルヘ

ノ歳入ノ性質歳出ノ用途ヲ明示スヘシ(三十年勅令第二百九十號ヲ以テ條中改正)

第十六條(三十年勅令第二百九十三號ヲ以テ創除)

第四章 收入支出

第十七條 歳入歳出ノ豫算ハ決定ノ後所管大臣學校長若クハ圖書館長ニ命シテ之ヲ執行セシムヘシ

所管大臣ハ學校若クハ圖書館ノ支部長ヲシテ歳出豫算ノ一部ヲ執行セシメントスルトキハ仕拂豫算ヲ以テ之ヲ命スヘシ(二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ本項並次項追加)

仕拂豫算ニ關スル規程ハ會計規則第二章第三款ノ例ニ依ル

第十八條 學校及圖書館會計主任ノ官吏ハ收入官吏トシテ會計規則第二十五條第二十六條ノ手續ニ依リ學校又ハ圖書館ノ收入ヲ取扱ヒ學校長圖書館長又ハ其ノ支部長之ヲ監督スヘシ(二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ條中改正)

第十八條之二 學校又ハ圖書館ハ當該年度ノ收入濟歳入額ヲ以テ仕拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此ノ仕拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス(二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ追加)

第十九條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ經費ヲ支出スル爲メ仕拂命令官ノ責任ヲ以テ金庫ニ向ヒテ仕拂請求書ヲ發スヘシ(二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ學校長圖書館長又ハ其ノ支部長以下做之)

第二十條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ正當債主若クハ其代理人ノ爲メニスルニアラサレハ仕拂請求書ヲ發スルコトヲ得ス

在外國人藝術家又ハ學術研究旅行者ニ物品ノ購買採集若クハ實驗ヲ委託スル場合ニ於テハ其ノ委託ヲ受ケタル在外國人藝術家又ハ學術研究旅行者ヲ受取人トシテ仕拂請求書ヲ發シ概算ヲ以テ現金ヲ交付スルコトヲ得(二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ本項改正)

學術試験品標本品購入費獎學費生徒費事務所費ニ限り所管大臣ノ定ムル所ニ依リ身元保證金額ノ二倍ヲ極度トシ學校會計主任ノ官吏ニ現金ノ前渡ヲナスコトヲ得

所管大臣ハ前項ニ依リ現金前渡ヲナスヘキ費目及金額ヲ定メタルトキハ之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第二十一條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ總テ仕拂請求書ヲ發スル前其支出ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ其金額ヲ算定シ又其支出ハ豫算ノ目的ニ違フコトナキヤ金額ハ豫算定額及仕拂元受高ニ超過スルコトナキヤ支出科目及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤヲ調査スヘシ(二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ本條中ヲ改正ス)

第二十二條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ歳出豫算明細書ニ定メタル費目ノ彼是流用ヲ要スルトキハ所管大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 仕拂請求書ニハ受取人ノ氏名(概算渡現金前渡ノ場合ニハ受取人ノ資格

トモ)仕拂ヲ要スル金額支出科目年度番號ヲ記載スヘシ但支出科目ノ同一ナルモノハ集合仕拂請求書トシテ別ニ各受取人ノ金額氏名表ヲ添ルコトヲ得(二十六年勅令第百二十六號ヲ以テ本條中)ヲ改正ス

第二十四條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ノ發シタル仕拂請求書取扱ノ手續ハ會計規則第三十五條第三十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル(二十六年勅令第百二十六號)ヲ以テ本條中ヲ改正ス

第二十五條 各年度ノ歳出ニ屬スル仕拂請求書ヲ發スルハ翌年度四月三十日ヲ限リトス

第二十五條ノ二 定額戻入ニ關スル規程ハ第二十五條ノ三ニ定メタル期限ノ外總テ會計規則第六章第三款ノ例ニ依ル(二十六年勅令第百二十六號)ヲ以テ本條及次ノ一條ヲ追加ス

第二十五條ノ三 各年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度四月三十日ヲ過クルコトヲ得ス

第二十六條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣所管大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第二十七條 金庫ハ案内仕拂請求書集合仕拂請求書若クハ金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂請求書ヲ受ケタルトキ其ノ仕拂請求書合式ニシテ且豫算各項ノ金額及仕拂元受高ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲スヘシ

前項ノ外金庫ニ於テ仕拂請求書ニ對シテ仕拂ヲ執行シ又ハ之ヲ拒絕スルハ會計規則

第四十三條第四十五條第二項第四十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル(二十六年勅令第百二十六號)ヲ以テ(改正)

第二十八條 收入官吏ハ其收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月收入報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ翌月五日マテニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十九條 金庫出納役ハ毎月仕拂請求書受領濟額報告書ヲ調製シ其ノ翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ(二十六年勅令第百二十六號)ヲ以テ改正

第五章 年度繰越歳入殘餘

第三十條 毎年度内ニ於テ仕拂フヘキ義務ヲ生シ債主ノ支出請求ナキカ若クハ事故アリテ翌年度四月三十日マテニ仕拂請求書ヲ發セサルモノ及仕拂請求書ヲ發シタルモ同日マテニ金庫ニ於テ仕拂請求ヲ受ケサルモノハ支出未済又ハ仕拂未済トシテ翌年度ニ繰越シ計算ヲナスヘシ

第三十一條 工事又ハ製造費ニシテ年度内ニ仕拂義務ヲ生セス仕拂請求書ヲ發スルニ至ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越スコトヲ得

第三十二條 所管大臣ハ學校又ハ圖書館ノ經費ヲ繰越サントスルトキハ年度經過後一

箇月以内ニ繰越計算書ヲ作り必要ノ参照書類ヲ添ヘ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第三十三條 大藏大臣ハ前條繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第三十四條 特ニ用途ヲ指定シタル寄付金ニシテ別途整理ヲ要スルモノ、毎年度内ニ

仕拂請求書ヲ發スルニ至ラザリシ殘額ハ總テ翌年度ヘ繰越シ使用スヘシ其仕拂請求

書ヲ發シテ年度内ニ金庫ニ於テ仕拂ヲ終ラザリシモノハ第三十條仕拂未濟金整理ノ

例ニ依ル但本條ノ支出殘額及仕拂未濟金ハ寄付者ノ同意ヲ得テ資金トナスコトヲ得

第三十五條 第三十條ニ依リ繰越シタル支出未濟及仕拂未濟ノ金額ニシテ會計法第十

八條ニ依リ期滿免除トナリタルモノハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第三十六條 毎年度ノ歲入中仕拂濟額及繰越額ヲ控除シタル殘餘ハ總テ資金ニ組入ル

ヘシ

第六章 工事及物件ノ賣買貸借

第三十七條 工事及物件ノ賣買貸借ニ關スル規則ハ會計規則第七章ノ例ニ依ル

第七章 出納官吏

第三十八條 出納官吏ニ關スル規則ハ本條第二項ニ定メタル期限ノ外總テ會計規則第

八章ノ例ニ依ル

會計規則第九十五條ノ例ニ依リ收入官吏ノ會計検査院ニ提出スヘキ計算書ヲ事務管

理廳ニ送付スルハ毎年度經過後二箇月以内トス(二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ改正)

第八章 帳簿

第三十九條 大藏省ハ各學校圖書館會計ノ主計簿ヲ備ヘ歲入ノ豫算額確定額收入濟額

收入未濟額歲出ノ豫算額仕拂元受高支出濟額ヲ登記スヘシ(二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ本條中ヲ

改正)

第四十條 收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歲入ノ豫算額確定額收入濟額收入未濟額ヲ登記ス

ヘシ

第四十一條 金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歲出ノ豫算額仕拂請求書受領濟額ヲ登記シ又

仕拂元受高差引簿ヲ備ヘ仕拂元受高仕拂請求書受領濟額仕拂額ヲ登記スヘシ(二十六年勅令

第二百二十六號ヲ以テ改正)

第四十二條 會計主任ノ官吏ハ現金出納簿ヲ備ヘ一切其取扱タル現金ノ出納ヲ登記ス

ヘシ

第九章 雜則

第四十三條 本規則ニ依リ當該官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規

定様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ(二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ本條中ヲ改正)

第四十四條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸書類帳簿ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第四十五條 所管大臣ハ部下ノ高等官ヲ以テ學校會計監理官トシ學校ノ會計ヲ監督セシムヘシ

第四十六條 本規則ハ明治二十三年四月會計法施行ノ日ヨリ施行ス
本規則ト抵觸スル命令ハ總テ本規則施行ノ日ヨリ廢止ス

○ 中央備荒儲蓄金預金局預金郵便貯金郵便爲替金特別會計明治二十三年三月法律第二十一號

除中央備荒儲蓄金「預金局」預金郵便貯金預所貯金郵便爲替金特別會計ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 中央備荒儲蓄金預金局預金郵便貯金預所貯金郵便爲替金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歳入歳出ト區分スヘシ

第二條 中央備荒儲蓄金ハ「預金局」ニ寄托シ其利子ハ之ヲ元金ニ編入スヘシ

第三條 備荒儲蓄法ニ依リ中央備荒儲蓄金ヲ使用セントスルトキハ其金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ之ヲ拂出スヘシ

第四條 「預金局」預金ハ日本銀行ヲシテ之レカ運用利殖ヲ取扱ハシメ其利殖金ヲ以テ利子ノ仕拂ニ充テ殘餘アルトキハ利子仕拂元金トシテ之ヲ積立預金ト共ニ運用利殖スヘシ

第五條 「預金局」預金ニ對シテ政府ヨリ仕拂フヘキ利子ハ其金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ之ヲ拂出スヘシ

第六條 郵便貯金預所貯金ハ「預金局」ニ寄托シ其利子ヲ貯金利子ノ仕拂ニ充ツヘシ

第七條 郵便爲替ヲ取扱フ爲メ特ニ爲替資本ヲ置キ從來ノ資本額ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第八條 郵便條例第四百七條第三項ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタル郵便爲替金ハ一般ノ歳入ニ組入ルヘシ

第九條 「預金局」預金郵便貯金預所貯金郵便爲替金ノ收入支出ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但勅令ヲ以テ之ヲ定ムルマテハ從前施行スル所ノ規程ニ依ルヘシ

第十條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

○ 中央備荒儲蓄金會計規則明治二十三年五月勅令第七十七號

朕中央備荒儲蓄金會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

中央備荒儲蓄金會計規則

第一條 左ノ諸收入ヲ以テ中央備荒儲蓄金ノ歳入トス

第一 預金利子

第二 米穀賣拂代

第三 雜收入

第二條 左ノ諸支出ヲ以テ中央備荒儲蓄金ノ歳出トス

第一 府縣備儲蓄金補助

第二 米穀購入代

第三 米穀運送費

第四 糶摺及搗精費

第五 米穀保存及取扱費

第六 藏敷料及諸手数料

第三條 歳入歳出ノ豫定計算書及決定計算書ハ大藏大臣之ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算

ト共ニ帝國議會ニ提出ノ手續ヲナスヘシ

第四條 大藏大臣ハ其年三月三十一日現在ノ中央備荒儲蓄金高明細表ヲ調製シ毎年度

ノ豫定計算書ニ添付スヘシ

第五條 收入官吏ハ歳入ヲ收納スルトキハ中央備荒儲蓄金ノ寄托トシテ直ニ之ヲ「預

金局」ニ拂込ヘシ

第六條 大藏大臣ハ府縣ノ備荒儲蓄金補助トシテ中央備荒儲蓄金ヲ支出セントスルト

キハ命令ヲ「預金局」ニ下シテ寄托金ヲ支出セシメ之ヲ一般ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第七條 大藏大臣ハ米穀ノ賣買保存ニ關スル費用ヲ支出セントスルトキハ命令ヲ「預

金局」ニ下シ寄托金ヲ支出シ之ヲ主任官吏ニ交付セシメ主任官吏ヲシテ仕拂ヲ執行

セシムヘシ

第八條 毎年度内ニ收入ヲナスヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ收入濟トナラサルモノハ

收入未濟トシテ順次翌年度へ繰越シ現ニ收入ヲナシタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第九條 毎年度内ニ仕拂ヲナスヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ支出ノ請求ナキモノハ支

出未濟トシテ其定額ヲ順次翌年度へ繰越シ支出ノ請求アル毎ニ仕拂ノ命令ヲ發スヘ

シ

第十條 米穀ヲ購入スルニ當リ臨時急施ヲ要スルトキハ競争ニ附セス隨意ノ約定ニ依

ルコトヲ得

第十一條 入札ノ方法ヲ以テ米穀ヲ賣却スルトキハ其入札期日ヨリ少ナクモ三日以前

ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ

第十二條 收入官吏仕拂官吏及物品會計官吏ヨリ會計検査院ニ提出スヘキ計算書ヲ大

藏大臣ニ送附スルハ毎年度經過後二箇月以内トス

第十三條 本規則ニ掲ケサル中央備荒儲蓄金會計ノ規定ハ總テ明治二十二年勅令第六

十號會計規則ニ準據スヘシ

○官有財産管理規則 明治二十三年十一月
勅令第二百七十五號
朕官有財産管理規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有財産管理規則

- 第一條 此ノ規則ニ於テ官有財産ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル土地、森林、原野、營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物トス
- 第二條 官有財産ハ主管ノ各省大臣之ヲ管理ス
- 第三條 官有財産ノ賣拂、讓與、交換及貸付ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外總テ此ノ規則ニ依ルヘシ
- 第四條 官有財産賣拂代金ハ其ノ財産引渡ノ際一時ニ納付セシムヘシ
- 第五條 官有財産ヲ貸付スルトキハ其ノ貸付料ヲ徵收スヘシ但シ公益ノ爲官有財産ヲ貸付シ又ハ森林經濟ノ爲森林ヲ貸付スルトキハ別ニ主管大臣ノ定ムル所ノ規則ニ依ル
- 第六條 官有財産ノ貸付料ハ每年前納セシムヘシ若シ前納スル能ハサルトキハ相當ノ保證ヲ出サシムヘシ

貸付財産ノ修理其ノ他ノ費用ヲ負擔スル方法ハ貸付契約ヲ爲ストキ之ヲ定ムヘシ

第七條 官有財産ノ貸付ハ左ノ期限ヲ超ユルコトヲ得ス

- 第一 樹木培養ニ供スル土地ハ八十年以内
- 第二 農工其ノ他ノ營業及住居ニ供スル土地ハ三十年以内
- 第三 土地森林ノ使用權ハ十五年以内
- 第四 右ニ掲ケサル物件ハ三年以内

第八條 官有財産ノ貸付期限中政府ニ於テ之ヲ國ノ使用ニ供スルノ必要アルトキハ貸付ノ契約ヲ解キ之ヲ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ借受人ハ其ノ直接ニ受ケタル損失ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第九條 官有財産ノ借受人ニシテ主管大臣ノ許可ヲ得スシテ其ノ財産ノ原形ヲ變シ若ハ故意怠慢ニ由リ之ヲ荒廢ニ歸シ又ハ毀損亡失シタルトキハ主管大臣ハ其ノ損失ヲ賠償セシムヘシ

第十條 官有財産ノ借受人ハ主管大臣ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ財産ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十一條 官有財産ヲ以テ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ルハ同一種類ノ財産ニシテ少クトモ評定價額相均キモノニ限ル

森林、原野、田畑、同一種類ノ財産下見做スコトヲ得

營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物ハ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十二條 府縣郡市町村公共ノ道路、公園、市場、河川、竝木敷、堤塘、溝渠等ノ用ニ供スル爲官有ノ土地森林ヲ必要トスルトキハ主管大臣ニ於テ之ヲ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得

第十三條 府縣郡市町村ニ於テ新ニ道路、公園、市場、河川、竝木敷、堤塘、溝渠等ヲ開設シ爲ニ不用ニ歸シタル官有ノ舊同種類ノ土地ハ内務大臣ニ於テ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得但シ官林内若ハ官廳使用地内ニ包含セルモノ又ハ他ノ官有財産保護上離權シ難キモノハ此ノ限ニアラス

第十四條 官有財産ヲ賣拂貸付若ハ交換スル場合ニ於テ其ノ財産ヲ管理シ若ハ其ノ取扱ヲ爲ス官吏ハ之ヲ買受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十五條 此ノ規則施行ノ前ニ官有財産ノ賣拂若ハ貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ其ノ契約ノ滿期マテ總テ舊契約ニ依ルヘシ

貸付ノ期限チキモノハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ於テ此ノ規則ニ依リ更ニ契約ヲ爲スヘシ

第十六條 各省大臣ハ每十年其ノ年三月三十一日ニ現在スル所管官有財産ノ目錄ヲ調製シ

其ノ年開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル所管官有財産ノ増減異動報告書ヲ調製シ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 第十六條ノ目錄及第十七條ノ報告書ハ其ノ事由ニ依テ區別シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 買入ニ係ルモノハ其ノ代價

第二 賣拂ニ係ルモノハ各廳ニ於テ定メタル最低賣價、實際ノ賣拂代價及目錄價格アルモノハ其ノ價格

第三 讓與交換又ハ亡失毀損等ニ係ルモノハ其ノ目錄價格

第四 交換ニ係ルモノハ其ノ交換ニ由テ得タル財産

第五 買入又ハ賣拂ノ契約ニ特別ノ條件アルモノハ其ノ條件

第十九條 此ノ規則第十六條ニ掲ケル官有財産ノ目錄ニシテ第一回ノモノハ明治二十四年三月三十一日ノ現在高キ以テ同年六月三十日マテニ之ヲ調製スヘシ但シ調査未済ノ官有財産ハ調査ヲ了ルマテ其ノ概算ヲ目錄ニ掲クヘシ

第二十條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

○帝國議會用官有財產事務掌理方 明治二十四年二月 勅令第十五號

朕帝國議會ノ用ニ供スル官有財產ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 帝國議會ノ用ニ供スル官有財產ニ關スル行政事務ハ各院書記官長之ヲ掌ル
第二條 前條事務ノ指揮監督ハ大藏大臣之ヲ行フ (二十七年勅令第六十一號ヲ以テ 內務大臣トアルヲ大藏大臣ト改ム)

○官有森林原野及產物特別處分規則 明治二十三年四月 勅令第六十九號

朕官有森林原野及產物特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有森林原野及產物特別處分規則

第一條 農商務大臣ハ左ノ場合ニ限り官有森林原野及其產物ヲ競爭ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣却スルコトヲ得

- 一 官廳又ハ公共ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ賣渡シ及其建築材料ヲ賣渡ストキ
- 二 開墾若クハ牧畜ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ賣渡ストキ
- 三 鑛業ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ建築材料又ハ新炭材ヲ賣渡ストキ
- 四 植樹ノ爲メ森林原野ヲ貸渡ストキ

- 五 非常ノ災害ニ罹リタル地方人民ノ爲メ建築材料ヲ賣渡ストキ
 - 六 從來ノ慣行ニ依リ地元人民ニ木竹新炭材下草稊小柴若クハ土石ヲ賣渡ストキ
 - 七 部分木ヲ仕付人ニ賣拂フトキ
 - 八 社寺建築營繕ノ爲メ該社寺上地ノ木材若クハ土石ヲ賣渡ストキ
 - 九 地押調査ニ由リ發見シタル開墾地ヲ其開墾人ニ賣渡スヘキ
 - 十 建築其他ノ用ニ供スヘキ土石ヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ其發見人ニ賣渡ストキ
 - 十一 季節アル生産物ヲ賣拂フトキ
 - 十二 開墾牧畜若クハ植樹ノ爲メ貸渡シタル森林原野ノ區域内ニアル產物ヲ其借受人ニ賣拂フトキ
 - 十三 林業附帶ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ產物ヲ賣渡ストキ
 - 十四 部分方法ニ由リ林產物製造ノ爲メ其原料ヲ請負人ニ賣渡ストキ
 - 十五 見積借地料一箇年金貳百圓ニ超ヘサル森林原野ヲ貸渡ストキ
 - 十六 拾町步以下ニシテ見積代價金貳百圓ニ超ヘサル森林原野ノ民有地又ハ道路河川ニ介在セルモノヲ接續地ノ所有者ヘ賣拂フトキ
 - 十七 見積代價金貳百圓ニ超ヘサル主副產物ヲ賣拂フトキ (二十四年勅令第二百二號ヲ以テ木竹ヲ主副產物ニ改ム)
 - 十八 河海沼湖濠池ノ埋立ニ要スル土石ヲ賣渡ストキ (二十三年勅令第二百八號ヲ以テ追加)
- 第二條 農商務大臣ハ競爭入札ニ付シタル物件ノ豫定價格ニ達セス該入札ヲ取消シタル場合ニ於テ爾後三十日以内ニ豫定價格ヨリ低カラサル代價ヲ以テ同一物件ノ拂下ヲ望ム者

二十四年勅令
第五號
地務省
社寺上
地務法
施行規
則

アルトキハ隨意之ヲ賣拂フコトヲ得

第三條 農商務大臣ハ相當ノ年限ヲ定メ社寺上地官林ノ全部又ハ幾分ヲ該社寺ニ委託シ其林地ノ使用ヲ許可シ又ハ其林地ノ產物ヲ下附スルコトヲ得(二十三年勅令第二百八十二號ヲ以テ追加)

第四條 農商務大臣ハ社寺上地官林又ハ特別ノ緣故アル官有森林原野ニシテ存置ヲ要セスト認メタルモノハ其社寺又ハ其緣故アル者ニ限り隨意ノ契約ヲ以テ賣渡スコトヲ得(二十四年勅令第六十六號ヲ以テ追加)

第五條 農商務大臣ハ森林保護ノ爲メ必要ト認ムルトキハ制限ヲ付シ地元人民ニ森林ノ副產物ヲ無料ニ採取セシムルコトヲ得(二十四年勅令第二百二十二號ヲ以テ追加)

第六條 農商務大臣ハ森林手入ノ爲メ採取シタル產物ノ全部又ハ一部ヲ手入料トシテ下付スルコトヲ得(二十四年勅令第二百二十二號ヲ以テ追加)

○官有地特別處分規則 明治二十三年七月 勅令第三百三十五號

朕官有地特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

八官有地特別處分規則

第一條 內務大臣ハ左ノ場合ニ限り官有地ヲ競争ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣渡ス

- 一 直接公用ニ供スル爲又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲府縣郡市町村及公共組合又ハ其

他ノ起業者ニ官有地ヲ貸渡又ハ賣渡ストキ

二 不用ニ屬スル官有地一箇所ノ坪數百五十坪ニ滿タス其評定價格二百圓以内ノモノヲ賣渡又ハ其貸渡料一箇年五圓以内ニシテ貸渡期限五箇年以内ノモノヲ貸渡ストキ但望人二名以上アルトキハ此限ニアラス

三 鑛山ニ於ケル鑛物運搬道路、冷温泉場ニ於ケル汲泉場又ハ導泉敷地ノ如キ官許ヲ與ヘタル主タル事業ニ直接附隨シ必要關クヘカラスト認メタル官有地ヲ其事業者ニ貸渡又ハ賣渡ストキ

四 會計法施行以前土地ノ形質ヲ變更シ又ハ建物ヲ建設スルカ爲貸渡シタル官有地ヲ其借地人ニ賣渡シ又ハ引續キ貸渡ストキ

第二條 直接公用ニ供スル官有地ヲ特ニ府縣郡市町村又ハ公共組合ノ直接公用ニ供スルトキハ借地料ヲ徵收セサルモノトス

第三條 府縣郡市町村又ハ公共組合ニシテ直接公用ニ供スル官有地ノ修理保存費ヲ負擔スルモノハ其直接公用ヲ廢スルトキ官有財産管理上必要ノモノヲ除ク外之ヲ其費用負擔者ニ無代下付ス府縣郡市町村又ハ公共組合ニ於テ其土地ヲ賣拂ハントスルトキハ隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノトス

第四條 北海道官有未開ノ土地並官有森林原野ニハ本令ヲ適用セス

○官有地取扱規則 明治二十三年十一月
勅令第二百七十六號
朕官有地取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有地取扱規則

第一條 官有地ノ賣買讓與交換及貸付ハ内務大臣之ヲ處理ス

第二條 官有地ニ關スル願書ノ指令契約ノ締結登記ノ請求收入ノ徵收及收納並訴訟ハ内務大臣地方長官ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ

第三條 各廳ニ於テ官有地ヲ使用セントスルトキハ内務大臣ニ請求スヘシ

第四條 各廳ノ使用地不用ニ歸シタルトキハ内務大臣ニ還付スヘシ

第五條 甲乙兩廳ノ間ニ於テ官有地ノ使用ヲ移サントスルトキハ内務大臣其手續ヲ爲スヘシ

第六條 各廳ノ所用ニ供スル爲メ民有地ヲ寄付セントスルモノアルトキハ内務大臣受納ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 官有地ヲ開墾センコトヲ請フモノアルトキハ無料ニテ之ヲ貸付スヘシ但開墾成功ノ後事業者ニ於テ該地ヲ拂下ケントスルトキハ豫メ契約ニ依テ其代價ヲ定メ置クヘシ

第八條 官有地下民有地ノ交換ハ兩地ノ坪敷及價格稍相均シキモノニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 借地人ハ特ニ許可ヲ受クルニアラサレハ其地ヲ當初借用ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス

トヲ得ス

借地人前項ノ規定ニ違反スルトキハ地方長官ハ其使用ヨリ生シタル損害ヲ賠償セシメ返地ヲ命スルコトヲ得

第十條 借地人官ノ許可ヲ得テ土地ノ原形ヲ變シタルトキハ借地満期ニ至リ自費ヲ以テ之ヲ原形ニ復シ返納スヘシ但特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

第十一條 官ニ屬スル公有地及公有水面ハ其公用ヲ廢シタルニアラサレハ賣拂讓與交換又ハ貸付スルコトヲ得ス但公衆ノ妨害トナラサル限りハ公用ニ供シタル儘有料又ハ無料ニテ特ニ其使用ヲ許スコトヲ得

第十二條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テ民有地ト爲サンコトヲ請フモノアルトキハ公衆ノ妨害トナラサル部分ニ限り之ヲ許スコトヲ得

第十三條 官ニ屬スル私有水面ノ賣拂讓與交換貸付及使用ハ本令ニ定ムル土地ノ規定ニ準據スヘシ

第十四條 隨意ノ契約ニ依リ官ニ屬スル土地又ハ水面ノ賣拂讓與交換又ハ有料貸付有料使用ヲ爲サントスルトキハ地方長官其評價ヲ爲サシムヘシ

既ニ貸付シ又ハ使用セシメタル土地又ハ水面ヲ引續キ貸付シ又ハ使用セシムル場合ニ於テモ亦前項ヲ準用ス

第十五條 官有地ニ關スル事項ニシテ本令ニ規定セサルモノハ官有財産管理規則ニ依ル

第十六條 本令ハ勅令ヲ以テ特ニ規定シタルモノ及官有森林原野ニ適用セス

第十七條 官有地臺帳ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 前此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

○外國公使館敷地貸渡ノ特別處分 勅令第七十四年七月

朕外國公使館敷地ノ爲官有地ヲ貸渡ス場合ニ競争ヲ要セサル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外國公使館敷地トシテ官有地ヲ貸渡ス場合ニ於テハ競争ニ附セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得

○會計年度開始前現金支出規則 勅令第九十五年七月

朕會計年度開始前現金支出規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計年度開始前現金支出規則

第一條 各省大臣ハ會計法第十五條第二項ニ依リ現金前渡ヲナスニ當リ該年度ノ未タ開始セサル下キハ其前渡ヲ要スル經費ヲ算定シ其計算書ヲ作り大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ(二十六年勅令第二百三號)

第二條 大藏大臣前條ノ計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ金庫ニ令達スヘシ(二十六年勅令第二百三號)

第三條 前各條ニ定メタルモノ外仕拂命令發付ノ方法及該仕拂命令ニ對スル仕拂手續ハ總テ會計規則ニ依ル

○仕拂命令委任規程 明治二十二年七月

朕仕拂命令委任規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

仕拂命令委任規程

第一條 各省大臣ハ他官官吏ニ委任シテ其所管定額ノ仕拂命令ヲ發セシムルトキハ會計規則第十一條ニ據リ仕拂豫算額ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ

第二條 委任ヲ受タル仕拂命令官ハ其發シタル仕拂命令ニ付責任ヲ有ス

○國債ニ關スル支拂及收入金決算方 明治二十三年三月

朕國債ニ關スル支拂及收入金決算方ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第三條 會計法第十五條第二項ニ依リ國債元利金仕拂シ爲メ銀行ニ現金前渡ヲ爲シタル上キハ會計規則第九十八條ニ準シ銀行ヲシテ其仕拂ヲ會計検査院ニ證明セシムヘシ

第三條 法律命令ニ依リ日本銀行ヲシテ國債ノ募集又ハ借入ヲ取扱ハシムルトキハ日本銀行ハ大藏大臣定ムル所ノ期限ニ出納ノ計算書ヲ製シ會計検査院ノ検査判決ヲ受ル爲メ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ

第三條 大藏省國債局長ハ前條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

○ 在外公館經費中前金拂入費目 明治二十三年三月 勅令第三十二號

朕在外公館經費中前金拂入ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

租 稅 區費其他雜稅 公館借料

○ 陸軍給與ニ關スル委任經理 明治二十三年三月 法律第二十七號

朕陸軍給與ニ關スル委任經理ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 陸軍軍隊ノ糧食被服消耗品陣營器具及馬匹ニ係ル給與ハ其定額ヲ各隊ニ交付シ隊長ニ經理ヲ委任スルコトヲ得

第二條 陸軍諸學校生徒ニ屬スル給與其他軍隊ニ準據スヘキ必要アルモノハ勅令ヲ以テ之

ヲ定メ經理ヲ委任スルコトヲ得

第三條 委任經理ニ係ル給與ノ殘金ハ各其費目ニ屬スル積立金ト爲シ便宜之ヲ使用スルコトヲ得

第四條 委任經理ニ屬スル廢物賣却代及損壞遺失等ノ補償金ハ各其經理費ニ充ルコトヲ得

第五條 委任經理ニ係ル會計ノ検査ハ會計検査院法第十六條ニ依ル

第六條 此法律ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○ 貨幣鑄造ノ地金買入方 明治二十三年六月 勅令第四百四號

朕貨幣鑄造ニ要スル地金買入ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貨幣鑄造ニ要スル地金銀銅白銅ノ買入ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム此場合ニ於テハ競争ニ付セサルコトヲ得

○ 出納官吏身元保證金納付方 明治二十三年一月 勅令第四號

朕出納官吏身元保證金ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 左ノ出納官吏ニシテ其取扱金額一箇年五百圓以上又ハ常時保管スル物品ノ價格千

二十九勅令
第六十八號
於ケル出納官
吏身元保證金
納付方ヲ示ス

陸軍給與ニ關スル委任經理 貨幣鑄造ノ地金買入方

圓以上ニ達スルモノハ身元保證金ヲ納ムヘシ

但兵備品ノ出納ヲ取扱フ武官ハ本條ノ限ニアラス(二十四年勅令第五十號ヲ以テ但書追加)

第一 現金ヲ領收シテ常職トスル官吏

第二 常時現金前渡ヲ受クル官吏

第三 物品會計官吏

第二條 身元保證金ハ就職ノ時納付スヘキモノトス但現ニ明治二十三年四月一日ニ在職セ

ル出納官吏ニ限リ明治二十三年四月以後明治二十八年三月マテ五箇年間ヲ期シ其身元保

證金額ヲ平分シ毎年四期又ハ毎月ニ之ヲ納付セシムヘシ

前項明治二十三年四月一日ニ在職セル出納官吏ニシテ土地若クハ公債證書ヲ以テ身元保

證金ニ代用セントスル者ハ明治二十三年九月マテニ一時ニ納付セシムヘシ

第三條 身元保證金ニ代用セントスル公債證書ハ有利足ノモノヲ以テシ其價格ハ明治二十

三年三月中東京取引所平均ノ相場ニ依リ爾後五箇年毎ニ其年三月中ノ同所平均相場ニ依

リ其價格ヲ改定スヘシ但明治二十三年三月以後新ニ發行シタル公債證書ノ價格ハ身元保

證金納付前月ノ東京取引所ノ平均相場ニ依リ爾後本條ノ期限ト同時ニ其價格ヲ改定スヘシ

第四條 身元保證金ニ代用セントスル土地ノ價格ハ總テ土地臺帳ニ登記ノ價格ニ依ルヘシ

第五條 會計規則第五百五條第二項ニ依リ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ヲ公

賣スルトキ其公賣公告入費ハ損失金ノ辨償ヲ命セラレタル出納官吏ヲシテ辨償セシムヘシ

第六條 (二十六勅令第二)
(二十四號ヲ以テ削除)

○ 出納官吏現金取扱規則二十二年十月十三號

(改正二十三年大藏省令第十三號ヲ以テ第十六條ヲ改正ス) ○ 同年同省令第四十一號ヲ以

テ第二條第四條第五條第十七條ヲ改正ス ○ 二十六年同省令第二十五號ヲ以テ第九條第

十七條第十八條ヲ改正ス

○ 郵便爲替金及貯金ノ出納官吏身元保證金 明治二十三年六月 勅令第百五號

朕郵便爲替金及郵便貯金ヲ取扱フ出納官吏ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 郵便爲替金及郵便貯金ヲ取扱フ出納官吏ハ明治二十三年勅令第四號第一條ノ制限

ニ依ラス身元保證金ヲ納ムヘシ

第二條 三等郵便電信局及三等郵便局ノ前條出納官吏ニハ明治二十三年勅令第四號第二條ノ但書ヲ適用セス

第三條 會計規則第四百四條第百五條及明治二十三年勅令第四號第六條ニ依リ大藏大臣ノ爲スヘキ職務ハ遞信大臣之ヲ行フヘシ

○

○ 歳入歳出外現金出納取扱官吏ノ準則 明治二十三年三月 勅令第三十五號

朕政府ニ屬スル歳入歳出外ノ現金ヲ取扱フ出納官吏ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

二十六勅令
同百二十二號及
同百二十四號

政府ニ屬スル歳入歳出外ノ現金ヲ取扱フ出納官吏ニ關スル規則ハ會計規則第八章及第九章中現金ヲ領收スル收入官吏ニ關スル各條ニ準據ス

○保管金規則 明治二十三年三月 法律第一號

朕保管金規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

保管金規則

第一條 法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管スル公有金私有金ハ左ノ計算法ニ從ヒ滿三十年ヲ過キテ拂戻ノ請求ナキトキハ政府ノ所得トス但別ニ法律ヲ以テ失權ノ期限ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ依ル

第一 保管義務解除ノ期アルモノハ其義務ヲ解除シタル翌日ヨリ起算ス

第二 保管義務解除ノ期ナキモノハ保管ノ翌日ヨリ起算ス

第三 訴訟事件ノ爲ニ拂戻ヲ請求スル能ハサル場合ニ於テハ裁判確定ノ翌日ヨリ起算ス

第二條 保管金ハ法律勅令又ハ從來ノ規則若クハ契約ニ依ルノ外利子ヲ付セス

第三條 保管金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルコトヲ得ス

第四條 保管金ヲ受渡シ屬スル證書ハ證券印税ヲ納ムルニ及ハス

○保管物取扱規程 大藏省令第二十號 改正二十七年大藏省令第一號 第八號第十六號ヲ以テ第二十一條乃至第二十三條及ヒ書式中ヲ改正追加ス

○政府保管ノ義務アル公私有金寄托方 明治二十三年一月 勅令第二號

朕政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有私有金ニ關スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

預金規則ニ定メタルモノ、外法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有金私有金ハ總テ大藏省「預金局」ニ寄托スヘシ

法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依ルノ外政府ハ公有金私有金ヲ保管セス

○各官廳管理政府所有及政府保管ノ義務ヲ有スル有價證券寄托方 明治二十六年七月 勅令第七十號

朕各官廳ニ於テ管理スル政府所有ノ有價證券及政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル有價證券寄托ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

各官廳ニ於テ管理スル政府所有ノ有價證券ハ保管ノ爲メ大藏省「預金局」ニ寄托スヘシ 政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有私有ノ有價證券ハ大藏省「預金局」ニ寄托スヘシ

○預金規則 明治十八年五月

預金規則左ノ通制定ス

預金規則

- 第一條 大藏省中ニ「預金局」ヲ置キ左ノ貯金積立金ヲ預リ之ヲ保管利殖セシム
- 第一 「驛遞局」貯金
- 第二 各官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金
- 第三 社寺教會會社其他人民ノ共有ニ係ル積立金ニシテ其請願ニ據ルモノ
- 第二條 預リ金取扱手續ハ「大藏卿」之ヲ定ム
- 第三條 預リ金ノ利子割合ハ「大藏卿」之ヲ定ム
- 第四條 預リ金ニ關スル損益ハ國庫ノ負擔トス
- 第五條 預リ金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルヲ得ス
- 第六條 預リ金ノ運用ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルモノトス
- 第七條 「大藏卿」ハ便宜ノ地ヲ撰ミ「預金局」出張所ヲ設置シ又ハ國庫金取扱所ヲシテ預リ金受渡ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ
- 第八條 預リ金ノ受渡ニ關スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

大藏省 第五號

○預金取扱規程 大藏省令第六十九號
改正二十七年大藏省令第六十九號ヲ以テ第十條ヲ改正ス

○

○預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換方 明治二十三年八月 法律第七十五號

朕預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 預金規則第一條第二條第三條ニ依リ「預金局」ニ預リタル金額三百圓以上ニ達スルトキハ預ケ人ノ請求ニ依リ整理公債證書ヲ購入シテ之ヲ預ケ人ニ交付スルコトヲ得
- 第二條 前條預金ノ額貳千圓ヲ超過スルトキハ「預金局長」ハ其超過額ヲ以テ整理公債證書ヲ購入シテ之ヲ預ケ人ニ交付スルコトヲ得
- 第三條 前二條ニ依リ購入シタル整理公債證書ハ預金ノ全額ヲ仕拂又ハ拂戻シタル場合ヲ除クノ外所有者ノ望ニ依リ之ヲ「預金局」ニ保管スルコトヲ得
- 第四條 本法ハ明治三十四年一月一日ヨリ施行ス

○供託規則 明治二十三年七月 勅令第四百十五號

朕供託規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

供託規則

- 第二條 法律ノ規定ニ依リ供託スル所ノ金錢有價證券ハ總テ大藏省「預金局」ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第十條

大藏大臣ハ検査官吏ヲ派出シ何時ニテモ金庫ノ金櫃帳簿ヲ検査スルコトヲ得

此場合ニ於テハ日本銀行本支店出張店代理店タル銀行全部ノ金櫃帳簿ヲ併セテ検査スルコトアルヘシ(二十八勅令第百二十九號ヲ以テ)
(本支店ノ下ニ出張店ノ三字ヲ加フ)

第十一條 日本銀行ハ中央金庫本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ニ付政府ニ對シ一切ノ責任ヲ有ス

第十二條 金庫ニ於テ備フヘキ帳簿ノ種類其規程出納ノ順序及金庫ノ検査規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○金庫検査規程二十二年令第十七號

○國庫金出納上一時貸借方 明治二十七年六月 法律第十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國庫金出納上一時貸借ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 政府ハ國庫金出納上一會計年度間餘裕アルトキハ相當ノ利子ヲ徵シテ之ヲ當坐預

又ハ定期預トシテ日本銀行ニ預ケ入ルコトヲ得

第二條 政府ハ國庫金出納上一會計年度間一時不足ヲ生スルトキハ相當ノ利子ヲ附シ日本

銀行ヨリ借入ヲ爲スコトヲ得

第三條 前條ニ依リ政府ノ借入ルコトヲ得ヘキ金額ハ大藏省證券發行額ト合セテ當該年度該證券ノ發行最高額ヲ超過スルコトヲ得ス

○第六類 租稅

○地租條例 明治十七年三月
第七號布告

沿革略記

明治元年八月布告全國ノ稅法姑ク舊慣ニ仍ラシメ納稅等ノ手續ヲ定ム●六
 年七月第二百七十二號布告ヲ以テ全國ノ地租ヲ改正シ舊法ヲ廢シテ地價ヲ
 定メ新ニ地券ヲ設ケ本價百分ノ三ヲ以テ正租ト爲ス仍テ地租改正條例及施行規則
 ヲ頒布ス●七年五月第五十三號布告ヲ以テ地租改正後五年間ハ最初定メタル地價
 ニ據リ收稅スヘキ旨ヲ前令ニ追加ス●九年五月第六十七號布告ヲ以テ隱田切開切
 添地ノ處分ヲ定ム○同年五月第六十八號布告ヲ以テ地租改正ニ臨ミ一郡内等ノ中
 一部分ノミ承服セサル節地價定方ヲ定ム●十年一月第一號布告ヲ以テ地租ヲ減シ
 地價百分ノ貳分五厘トナス○同年一月第八號布告ヲ以テ民有地荒地處分ヲ定ム○
 同年二月第十八號布告ヲ以テ地租改正後拂下地潰シ地收稅區分ヲ定ム○同年十月
 第七十號布告ヲ以テ地租改正條例ニ據リ總テ耕地ト唱ヘシムト雖モ尙ホ田畑ノ稱
 ヲ併用セシム●十三年五月第二十五號布告ヲ以テ七年第五十三號布告ノ地租改正
 後五年間據置ノ地價ハ尙ホ明治十八年迄據置收稅ノコトトナス●十五年七月第三
 十四號布告ヲ以テ稅稅ノタメ土地ヲ欺隱スル者ノ罰例ヲ定ム●十七年三月第七號
 布告ヲ以テ前ノ地租改正條例及地租改正ニ關スル條規等ヲ廢シ地租條例ヲ制定ス
 是レ現行法ナリ

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第貳百七拾貳號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル
 條規其他本條例ニ抵觸スルモノハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島三函館縣「沖繩縣」札幌縣根室縣「ハ當分從前ノ通タルヘシ
 (別冊)

地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス

但本條例ニ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ(二十二年法律第三十號ヲ以テ但書改正)

第二條 地租八年ノ豊凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地(二十二年法律第三十號ヲ以テ本條改正)

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ

地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地、禁伐林及公衆

ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ歩ト爲シ三拾歩ヲ畝トシ拾

畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲シ

合ノ拾分壹ヲ勾ト爲ス

第六條 地價決定又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第七條 地價ハ地目變換、開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキニ非サレハ之ヲ

修正セス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定

第十條 地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキハ地方廳ニ届出ヘシ

(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收

ス

但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニアラス(二十二年法律第三十號ヲ以テ追加)

第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ据置六年目ニ至リ之ヲ修正ス

(二十二年法律第三十號ヲ以テ追加)

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現

況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收ス但賃入ノ土地ハ其實取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ

(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第十三條 有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地、禁伐林ト爲ストキハ其地租ハ許可又ハ命

令ヲ受ケタル月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地及公衆ノ用

地租條例

五百三

ニ供ズル道路ト爲ストキハ其地租ハ工事著手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

免租地ヲ有租地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ翌月分ヨリ月割ヲ以テ徵收ス

第十四條 地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ届出ヘシ(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)以下各項ヲ追加ス

前項ノ開墾地ハ開墾著手ノ年ヨリ十年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス
十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ願出歛下年期ノ許可ヲ受クヘシ歛下年期ハ三十年以内トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以内ノ歛下年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス

耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價據置年期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十七條 (二十二年法律第三十號ヲ以テ創設)

第十八條 第十六條第三項第四項第五項ノ年明ニ至リ事業成功ニ至ラサルモノハ更ニ二

十年以内ノ繼年期ヲ許可ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第十九條 歛下年期明地價據置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ)
(本項ヲ改正シ次項ヲ追加ス)
海嘯ノ爲メ潮水浸入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアルヘシ

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第二十四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖ニ歸スルモノトス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脱スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ

依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス(二十年法律第三十號ヲ以テ但書改正)

第二十六條 第十一條ニ違犯スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ且現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス(二十年法律第三十號ヲ以テ改正)

第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲サハルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス(二十年法律第三十號ヲ以テ改正)

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

○地租條例施行細則(二十年十二月十九號)改正(二十四年大藏省令第六號)ヲ以テ第九條ヲ改正ス

○北海道地租定率(明治九年十二月一號)布告

沿革略記 明治五年六月開拓使ヨリ北海道開墾地收稅額ヲ定ム●九年十二月第百六十號布告ヲ以テ北海道ノ地租地價百分ノ一ト定ム是レ現行法ナリ

北海道地租ノ儀當分地價百分ノ一二相定候條此旨布告候事

○北海道開墾地地租地方稅免除(明治二十二年六月)法律第十八號

朕北海道開墾地地租地方稅免除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道開墾地ニシテ明治二年以後有租地トナリタル田畑及郡村宅地ハ明治二十二年ヨリ同三十一年迄特ニ地租地方稅ヲ免除ス其現ニ開墾年期中ノモノハ滿期ノ翌年ヨリ尙ホ十箇年間地租地方稅ヲ課セス

○土地臺帳規則(明治二十二年三月)勅令第三十九號

朕土地臺帳規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土地臺帳規則

第一條 土地臺帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登錄ス

第三條 市ノ土地臺帳ハ府縣廳ニ於テ町村ノ土地臺帳ハ島廳郡役所ニ於テ之ヲ設ケ其事務ヲ取扱フヘシ

第二十三年勅令第二號
第二十三年勅令第二號
第二十三年勅令第二號
第二十三年勅令第二號
第二十三年勅令第二號
第二十三年勅令第二號
第二十三年勅令第二號
第二十三年勅令第二號
第二十三年勅令第二號
第二十三年勅令第二號

第三條 登記所ニ於テ土地所有ノ移轉及質入ノ登記ヲ爲シタルトキハ土地臺帳所管廳ニ通知スヘシ

第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付金貳錢ノ割合ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ

第五條 「地券」ニ記載ノ事項異動ヲ生セサルモノハ其地券ヲ以テ前條ノ謄本ト見做スコトヲ得

第六條 本規則ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條 市制ノ施行ニ至ラサル土地ニ於テハ區ニ屬スル土地臺帳ハ區役所ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ

○土地臺帳規則施行細則二十二年四月
大藏省令第六號

○買上地拂下地等收稅除稅區分 明治十年二月
第十八號布告

地租改正後買上地拂下地漬地等收稅除稅區分左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條 民有地ヲ買上ル時其年分ノ稅ハ買上タル前月分迄月割ヲ以テ收入スヘシ

第二條 官有地ヲ拂下ル時其年分ノ稅ハ拂下タル翌月分ヨリ月割ヲ以テ收入スヘシ

第三條 民有地ヲ官ノ許可ヲ得テ川溝溜池道路堤塘敷其他漬シ地トナス時ハ工事著手ノ月ヨリ除稅スヘシ一旦著手スルモ若シ工事中止シテ六ヶ月ニ及フモノハ工事ヲ施シタル部分ヲ除キ其中止間ハ除稅ノ限ニアラス(十五年第三十五號布告ヲ以テ改正)

但七ヶ月以上ニ渉ルヘキ工事ハ六ヶ月毎ニ其工程ヲ量リ除稅ノ區域ヲ定ムルモノトス

○地租徵收期限 明治二十四年三月
法律第二號

沿革略記

明治元年八月稅法ハ當分舊慣ニ仍リ各府縣諸藩ノ租稅金米ノ納付方ヲ示ス
●四年四月社寺領上地ノ收納皆濟期月等ヲ定ム○同年七月廢藩置縣ニヨリ租稅徵收ハ姑ク舊慣ニ依ラシム●五年八月第二百二十二號布告ヲ以テ貢米石代金上納期月ヲ定ム●六年十二月大藏省第八十七號達ヲ以テ改曆ニ由リ地租收納期月ヲ改ム●九年一月第三號布告ヲ以テ都テ前令ヲ廢シ地租徵收期限ヲ定ム●十年七月第五十三號布告ヲ以テ徵收期限ヲ區分シ畑方三期田方三期合テ六期ト改定ス●十四年二月第十四號布告ヲ以テ前令ヲ改メ四期ニ區分シ畑方田方各二期トナス●十八年六月第十五號布告ヲ以テ田方ヲ四期トナス●二十四年三月法律第二號ヲ以テ前令ヲ改正ス是レ現行法ナリ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地租徵收期限改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
地租徵收期限左ノ通改正シ明治二十三年第六期分ヨリ施行ス

買上地拂下地等收稅除稅區分 地租徵收期限

十七年第七號
布告地租條例
第四條第十三
條參看本類二
類ス

但市街宅地租ハ該年七月三十一日翌年一月三十一日ヲ限リ兩期ニ其五分宛ヲ徵收ス

一期	該年九月一日ヨリ	同	五分
二期	該年十一月三十日ヨリ	同	五分
三期	該年十二月十六日ヨリ	同	五分
四期	翌年一月十五日ヨリ	同	五分
五期	翌年二月二十八日ヨリ	同	五分
六期	翌年三月三十一日ヨリ	同	五分
七期	翌年五月三十一日ヨリ	同	五分

○大隅國大島郡及薩摩國川邊郡各島ノ地租徵收期限 明治三十年三月 法律第五號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル鹿兒島縣管下大隅國大島郡及薩摩國川邊郡各島地租徵收期限法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鹿兒島縣管下大隅國大島郡及薩摩國川邊郡各島ノ地租ハ明治二十四年法律第二號地租徵收期限ニ依ラス左ノ期限ニ依リ徵收ス

- 大隅國大島郡ノ内大島、徳ノ島、沖永良部島、喜界島、與論島
- 薩摩國川邊郡ノ内硫黃島、竹島、黒島、口ノ島、中ノ島、平島、諏訪ノ瀬島、臥蛇島、惡石島、寶島

翌年五月一日ヨリ同八月三十一日限

○登録税法 明治二十九年三月 法律第二十七號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル登録税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

登録税法

第一條 登録税ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徵收ス

第二條 地所建物ノ登記ヲ請フトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

- 一 買受人 買代價千分ノ二十
 - 二 家督相續人 戸主ノ死亡失踪、離縁跡相續人共 時價相當價格千分ノ五
但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ時價相當價格千分ノ十トス
 - 三 遺産相續人 時價相當價格千分ノ十
 - 四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者 時價相當價格千分ノ二十
 - 五 質入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五
 - 六 強制競賣ノ中立人 價格千分ノ五
 - 七 強制管理ノ申立人又ハ假差押、假處分ノ申請人 價格千分ノ三
 - 八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金十錢
 - 九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲登記ヲ請フ者 時價相當價格千分ノ二
- 六號及七號ノ場合ニ於テ價格定マラサルモノハ時價相當價格ニ依ル

第三條 船舶ノ登記ヲ請フトキ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

- 一 買受人 賣買代價千分ノ十
 - 二 家督相續人 戶主ノ死亡失踪、離縁跡相續人共 時價相當價格千分ノ二
但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ時價相當價格千分ノ五トス
 - 三 遺産相續人 時價相當價格千分ノ五
 - 四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者 時價相當價格千分ノ五
 - 五 質入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五
 - 六 強制競賣ノ申立人 價格千分ノ五
 - 七 假差押、假處分ノ申請人 價格千分ノ三
 - 八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金十錢
 - 九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲登記ヲ請フ者 時價相當價格千分ノ一
- 第六號及七號ノ場合ニ於テ價格定マラサルモノハ時價相當價格ニ依ル
- 第四條 船籍ノ登簿ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ
- 一 新規登錄 十五噸未満ノ船舶 金五十錢
 - 二 轉籍 十五噸以上ノ船舶 金十錢
 - 三 除籍 十五噸以上ノ船舶 金五錢
 - 四 登簿事項ノ變更 每一件金十錢
- 一號、二號及三號ノ場合ニ於テ十五噸以上ノ船舶ヲ登錄スルトキ十噸未満ノ端數ハ十

噸トシテ計算ス

第五條 土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登錄スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

- 一 新規登錄 地價千分ノ二十
 - 二 地價ノ設定 復舊 地價千分ノ十
 - 三 地價ノ修正 地價千分ノ十
 - 四 開墾 地價千分ノ十
 - 五 歛下年期付與 地價千分ノ十
 - 六 地價据置年期付與 地價千分ノ十
 - 七 歛下年期ノ繼年期付與 地價千分ノ十
 - 八 新開免租年期ノ繼年期付與 地價千分ノ十
 - 九 低價年期ノ付與 地價千分ノ十
 - 十 段別ノ増減 地價千分ノ五
 - 十一 一分分裂又ハ合併 地價千分ノ五
- 本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地地價ノ比準ニ依ル
- 第六條 左ノ事項ヲ付着登記ヲ受ケル商會社ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ
- 一 合名會社、合資會社設立 資本金額千分ノ二
 - 二 合名會社、合資會社資本増加 增加資本金額千分ノ二

- 三 合名會社合資會社支店設置
 - 四 株式會社設立
 - 會社資本金額萬分ノ二
 - 設立初度ノ拂込資本金額
 - 千分ノ三
 - 五 株式會社設立後ノ資本金拂込
 - 每拂込金額千分ノ三
 - 現在拂込資本金額萬分ノ三
 - 六 株式會社支店設置
 - 現在拂込資本金額萬分ノ三
 - 七 登記事項ノ變更
 - 資本ノ增加及拂込登記ヲ除ク追加
 - 每一件金三圓
 - 八 解散ノ報備
 - 每一件金一圓
- 第七條 左ノ事項ニ付辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 新規登録
 - 金二十圓
 - 二 登録換領
 - 金十圓
 - 三 取消ヲ請求
 - 金一圓
- 第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 稅納納金
- 一 新規登録
 - 獸醫 金十二圓
 - 蹄鐵工 金五圓
 - 假開業醫師 金五圓
 - 二 醫師
 - 金二十圓
 - 三 藥劑師
 - 金十二圓

- 假免許獸醫 金三圓
- 每一件金五十錢
- 第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 新規登録
- 一 甲種船長 金十五圓
 - 二 甲種一等運轉手 金十圓
 - 三 甲種二等運轉手 金六圓
 - 四 甲種一等機關手 金十五圓
 - 五 甲種二等機關手 金十圓
 - 六 乙種船長 金十圓
 - 七 乙種二等運轉手 金六圓
 - 八 乙種一等機關手 金十圓
 - 九 乙種二等機關手 金六圓
 - 十 小形船機關手 金四圓
 - 十一 水先人 金二十圓
- 第十條 登録事項ノ變更
- 一 甲種船長 金十五圓
 - 二 甲種一等運轉手 金十圓
 - 三 甲種二等運轉手 金六圓
 - 四 甲種一等機關手 金十五圓
 - 五 甲種二等機關手 金十圓
 - 六 乙種船長 金十圓
 - 七 乙種二等運轉手 金六圓
 - 八 乙種一等機關手 金十圓
 - 九 乙種二等機關手 金六圓
 - 十 小形船機關手 金四圓
 - 十一 水先人 金二十圓
- 每一件金五十錢

- 一 普通ノ文書、圖書、一冊毎ニ金五圓
- 二 冊號ヲ追ヒ順次出版スル文書、圖書、一冊毎ニ金二圓五十錢
- 三 雜誌ノ類、一冊毎ニ金五十錢
- 四 興行權ヲ併有スル脚本、一冊毎ニ金五十圓
- 五 興行權ヲ併有スル樂譜、一冊毎ニ金二十圓
- 六 寫眞、一版毎ニ金五圓

第十二條 特許ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 新規登録
 - 五年ノ特許 金三十圓
 - 十年ノ特許 金三十圓
 - 十五年ノ特許 金四十圓
- 二 賣與、讓與又ハ共有 每一件金十圓
- 三 書入契約 每一件金五圓

第十二條 意匠ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 新規登録
 - 三年ノ專用 物品一類毎ニ金三圓
 - 五年ノ專用 物品一類毎ニ金五圓
 - 七年ノ專用 物品一類毎ニ金七圓
- 二 賣與、讓與又ハ共有 物品一類毎ニ金十圓
- 三 書入契約 物品一類毎ニ金二圓

十年ノ專用

- 二 賣與、讓與又ハ共有 物品一類毎ニ金十圓
- 三 書入契約 物品一類毎ニ金一圓

第十三條 商標ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 新規並續用登録 商品一類毎ニ金二十圓
- 二 賣與、讓與又ハ共有 商品一類毎ニ金十圓

第十四條 礦業ニ關シ左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ記名者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ

納ムヘシ

- 一 試掘 金五十圓
- 二 採掘 金百圓

第十三條 試掘増區及増減區ニ係ル訂正

- 三 採掘増區及増減區ニ係ル訂正 金二十五圓
- 四 採掘増區及増減區ニ係ル訂正 金五十圓
- 五 買受、讓受 金五十圓
- 六 採掘權書入又ハ試掘延期 金十五圓
- 七 減區ニ係ル訂正 金五圓
- 八 鑛區ノ合併又ハ分割 金十圓
- 九 廢業 金五圓

第十五條 三十年法第三十條ニ關シ

第十六條 國債證券ノ記名登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規記名

額面金額千分ノ二

二 左ニ列記スルモノハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

額面金額千分ノ一

三 記名變更

額面金額千分ノ一

四 枚數變更

額面金額千分ノ一

五 記名除却

額面金額千分ノ一

第十七條 登録稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルヲ得

第十八條 登録稅ハ總テ金一錢以上トス一錢未滿ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計ル

第十九條 (三十年法律第三十號ヲ以テ削除ス)

第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料等ニシテ本法ニ規定スル登録稅ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十二條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第二十三條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第二十四條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第二十五條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第二十六條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第二十七條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第二十八條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第二十九條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第三十條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第三十一條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第三十二條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第三十三條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第三十四條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第三十五條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第三十六條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第三十七條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第三十八條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第三十九條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第四十條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第四十一條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第四十二條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第四十三條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第四十四條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第四十五條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第四十六條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第四十七條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第四十八條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第四十九條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第五十條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第五十一條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第五十二條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第五十三條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第五十四條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第五十五條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第五十六條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第五十七條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第五十八條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第五十九條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第六十條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第六十一條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

第六十二條 本法ハ明治二十九年三月三十一日ヨリ施行ス

一 貨物陸揚場業

一 土木請負業

一 勞力請負業

一 印刷業

一 寫真業

一 席貸業

一 旅人宿業

一 料理店業

一 公子公周旋業

一 代辨業

一 仲立業

一 仲買業

第三條 營業稅ヲ課スヘキ物品販賣業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ物品ノ卸賣又ハ小賣ヲ爲ス者ヲ謂フ

左ノ諸業ハ前項ニ該當セサルモ仍物品販賣業ト見做ス

一 一定ノ製造場ナク職工ヲ使役スルコトナク原料ヲ供給シ工錢ヲ什拂ヒ物品ヲ製造セ

シテ販賣スル者

二 一定ノ製造場ヲ設ケス店頭ニ於テ物品ヲ製造シ主トシテ小賣ヲ爲ス者

三 牧場ニ非サル場所ニ於テ飼料ヲ購求シ家畜又ハ家禽ヲ飼養シ之ヲ賣リ又ハ鶏卵、牛乳等其ノ產物ヲ販賣スル者

四 魚介類ヲ養殖シテ之ヲ販賣スル者

五 動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノヲ販賣スル者

一箇年ノ賣上金額千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條ノ營業者其ノ製造場區域内ニ於テ製造品ヲ販賣シ及別ニ營業場ヲ設ケ其ノ製造品ノ卸賣營業ヲ爲スモ物品販賣業トセス

第三條 營業稅ヲ課スヘキ金錢貸付業及物品貸付業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ貸付ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ爲スモ亦同シ

資本金額五百圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條 營業稅ヲ課スヘキ製造業ハ一定ノ製造場ヲ設ケ職工勞役者ヲ使役シテ物品ヲ製造シ又ハ物品製造ノ一部ヲ助成スル者ヲ謂フ

瓦斯電氣ノ供給ヲ爲ス者及器物、器械ノ修理ヲ爲シ又ハ穀物ヲ精白搗碎シ又ハ染物、洗濯ヲ爲ス者ハ前項製造業ト見做ス

資本金額五百圓未滿ノ者又ハ職工勞役者ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第五條 運賃又ハ手数料ヲ受ケテ旅客貨物ノ運送ヲ爲シ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス者ヲ運送業トシテ營業稅ヲ課ス但シ雇人二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第六條 倉庫ヲ備ヘテ貨物ヲ預リ倉敷料其以他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケル者ヲ倉庫業トシテ營業稅ヲ課ス

第七條 印刷業、寫眞業ニシテ職工雇人ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者及土木請負業、勞力請負業ニシテ請負金額一箇年千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第八條 貸料又ハ其以他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケ客室又ハ集會場ヲ貸ス者ヲ席貸業トシテ營業稅ヲ課ス但シ建物賃貸價格五千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第九條 營業稅ヲ課スベキ旅人宿業ハ飲食物ヲ供スルト否トニ拘ラス旅客ヲ宿泊セシメ又ハ人ヲ寄宿セシメ雇人三人以上ヲ使用スル者トス但シ木錢宿ニハ營業稅ヲ課セス

第十條 營業稅ヲ課スベキ料理店業ハ雇人三人以上ヲ使用シ客室ヲ設ケテ飲食物ヲ販賣スル者トス

第十一條 左に掲ケル營業ニハ營業稅ヲ課セス
一 政府ヨリ發行スル印紙、切手類ヲ賣捌
二 自己ノ採掘又ハ採取シタル礦物ヲ販賣
三 度量衡ノ製作、修履、販賣

第十二條 營業稅ハ左以課稅標準及稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

銀行業、保險業、金銀貸付業、物品貸付業	資本金額	千分ノ二
倉庫業	建物賃貸價格	千分ノ四
製造業、印刷業、寫眞業	資本金額	千分ノ二
運輸業、運河業、橋梁業、船揚場業	資本金額	千分ノ二
土木請負業、勞力請負業	請負金額	一人毎ニ金一圓
席貸業、料理店業	建物賃貸價格	千分ノ六
旅人宿業	建物賃貸價格	一人毎ニ金一圓
公ナル周旋業、代辦業、仲立業、仲買業	報償金額	一人毎ニ金一圓
營業者廢業シタルトキ其ノ際政府ニ届出ヘシ		

第十三條 此ノ稅法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ハ毎年一月三十一日迄ニ業名及課稅標準ヲ詳記シ政府ニ届出ヘシ但シ新ニ開業シタル者ハ其ノ際本條ノ届出ヲ爲スヘシ
第十四條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ第十二條ノ課稅標準ニ依リ各別ニ營業稅ヲ課ス但シ課稅標準トナルヘキモノヲ共通シテ使用スルトキハ其ノ一ニ就テ計算ス其ノ

税率異ナルトキハ重キニ從フ

第十五條 物品販賣業、土木請負業、勞力請負業、席貸業、旅次宿業、料理店業、公ナル周旋業、代辨業、仲立業、仲買業ハ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ營業稅ヲ課ス

前項ニ掲ケサル營業ニシテ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アルトキ其ノ資本ヲ區分シタルモノハ各別ニ營業稅ヲ課ス其ノ資本ヲ區分セサルモノハ合算シテ之ヲ課ス

第十六條 第十三條ニ依リ届出ヘキ課稅標準ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ計算ス但シ新ニ開業シタル者ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

一 賣上金、請負金及報償金ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ前年中ニ開業シタルモノハ豫算ニ依ル

二 資本金及建物賃貸價格ハ前年中ノ平均額ニ依ル

三 從業者ハ前年ニ於ケル最多數ノトキニ依ル

資本金額ヲ算定方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 營業者ノ申告シタル資本金額ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ營業ノ收入金額ヲ調査シ相當ノ營業費ヲ控除シ其ノ殘額ノ二十倍ヲ以テ資本金額ヲ算定スルコトヲ得

第十八條 建物賃貸價格ハ店舗其ノ他營業用ノ土地、家屋ノ借料ニ相當スルモノトス但シ住居ニ供スルモノ其ノ他直接ニ營業ニ使用セサルモノアルモ同一區域内ニアリテ自己ノ所用ニ係ルモノハ營業用トシテ計算ス

借家ノ場合ニ於テハ何等ノ名義ヲ用アルニ拘ラス土地、建物ノ賃借上借主ヨリ貸主ニ支拂フモノヲ以テ建物賃貸價格ヲ計算ス

借家ニ非サル場合ニ於テハ近傍借家ノ借料ニ照準シテ建物賃貸價格ヲ定ム近傍ニ照準スヘキ借家ナキトキハ其ノ土地、家屋ノ時價ヲ各別ニ算定シ土地ハ其ノ百分ノ五、家屋ハ百分ノ十ヲ以テ其ノ賃貸價格ヲ定ム無償ノ借家ニ付テモ亦同シ

營業者ノ申告シタル賃貸價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ前項ノ算定方法ニ依リ其ノ賃貸價格ヲ定ムルコトヲ得

第十九條 名義ノ何タルヲ問ハズ總テ營業ニ從事スル者ハ從業者トシテ之ヲ計算ス但シ營業者ノ家族ヲ除ク

第二十條 營業稅ハ年額ヲ二分シ其ノ年五月、十一月ヲ以テ納期トス但シ廢業スルトキ未納ノ税金ハ即納トス

第二十一條 新ニ營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ其ノ營業稅ヲ徵收ス

左ニ掲クル營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ尙三箇年間其ノ營業稅ヲ徵收セス但シ此ノ稅法施行以前ヨリ營業スル者ニシテ其ノ開業ノ翌年ヨリ三箇年ニ滿タサルトキハ本項ニ準據スルコトヲ得

銀行業、保險業、倉庫業、製造業、印刷業、運送業、運河業、機橋業、船渠業、船舶碇繋場業

第二十二條 同一ノ場所ニ於テ六箇月以内ニ前ノ營業者ト同一ノ營業ヲ開始スル者ハ其ノ月ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十三條 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムヘキ事實アルトキハ納期ニ於テ現ニ營業スル者ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十四條 營業者廢業スルトキハ其ノ廢業ノ月迄營業稅ヲ徵收ス但シ他ニ其ノ營業ヲ繼續スル者アルトキハ前條ニ依ル

第二十五條 第二十二條及第二十三條ノ場合ニ於テ前ノ營業者第二十一條ノ期間内ニ於テ其ノ其期間ノ後ノ營業者ニ及フモノトス

第二十六條 政府ニ於テ營業者ノ申告書不相當ト認メ資本金額又ハ建物賃賃價格ヲ算定シタルトキハ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

第二十七條 前條ノ算定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申立テ再審査ヲ求ムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス

第二十八條 第十八條第三項ノ建物賃賃價格算定ニ付異議ヲ申立アリタルトキハ評價人ヲ定メ之ヲ評價セシム評價ニ致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ之ヲ定ム

評價人ハ四人トシ二人ハ政府ヨリ之ヲ命ジ二人ハ土地建物所在市町村長之ヲ選定ス但シ費用ハ本人ノ負擔トシテ之ヲ行フ

前項市町村長ノ職務ハ特別市制ヲ施行スル市ニ於テハ區長市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戸長沖繩縣ニ於テハ役所長之ヲ行フ

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ政府ニ其ノ由ヲ申立ツルコトヲ得

一 課稅ノ標準タル資本金額、賣上金額、請負金額、報酬金額又ハ建物賃賃價格半額以上ヲ減シタルトキ

二 課稅ノ標準タル從業者ノ人員届出人員三分以下ニ減シタルトキ

第三十條 政府ハ前條ノ申出ニ由リ營業者ノ狀況ニ照シ營業稅ヲ減額スルノ必要アリト認ムルトキハ翌年一月迄税金ヲ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十一條 政府ハ第二十九條ノ申出ニ對シ翌年一月ニ於テ課稅標準ヲ查覈シ左ノ場合ニ該當スル者ハ税金ヲ減額スルコトヲ得

一〇 課稅ノ標準タル賣上金額、請負金額、報酬金額ハ前々年中ノ總額資本金額、建物賃賃價格ハ前々年中ノ平均額ノ半額ニ達セサルトキ

第三十二條 課稅ノ標準タル從業者ノ人員其ノ最多數ノ人員ニ於テ届出人員ノ二分ノ一ニ達セザルモノトス

課稅標準ノ課稅最低限以下ニ減シタル場合ニ於テモ仍其ノ割合ヲ以テ税金ヲ徵收ス

第三十三條 第一條ニ掲グル營業者ハ貨物ノ仕入、賣上、受入、貸付、迴送、從業者ノ人員及營業ニ關スル金錢ノ出納ヲ明ニスル爲帳簿ヲ備ヘ營業上一切ノ事實ヲ記載スヘシ

第三十三條 收稅官吏ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ検査シ又ハ營業者ニ尋問スルコトヲ得

第三十四條 第三十三條ノ届出ヲ爲サス若ハ虚偽ノ届出ヲ爲シ又ハ故意ヲ以テ第三十二條ノ帳簿ヲ記載ヲ怠リ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲スタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其ノ其ノ脱稅ノ額ハ者ハ脱稅金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十五條 此ノ稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用井

第三十六條 府縣此ノ稅法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ノ營業ニ對シ本稅十分ノ二以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得此ノ附加稅ノ外府縣稅又ハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第三十七條 此ノ稅法ハ明治三十年一月二日ヨリ施行ス

第三十八條 明治二十九年九月ニ屬スル府縣稅又ハ地方稅ハ第三十六條ノ規定ニ依ルノ限ニ在ラス

明治二十九年九月ニ屬スル府縣稅又ハ地方稅ノ賦課ヲ受ケタル業體ニ對スル此ノ稅法ノ營業稅ハ明治三十年ニ限リ年額四分ノ三ヲ徵收ス

第三十九條 第三十條五月ノ納期ハ明治三十年ニ限リ七月トス

一〇營業稅法施行規則 明治二十九年七月 勅令第三百六十九號

朕營業稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 營業稅法第一條ノ營業ヲ爲ス者ニシテ同法第二條以下ノ規程ニ依リ營業稅ヲ課セラレハキ者ハ其ノ店舗其ノ他ノ營業場所所在地ノ地方長官ニ同法第十三條ノ届出ヲ爲スヘシ但シ同法第十五條第二項末段ノ場合ニ於テハ其ノ主ナル店舗其ノ他ノ營業場所所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ

左ニ掲クル者ハ同法第十三條第一項但書ニ依リ開業後十日以内ニ地方長官ニ新規開業ノ届出ヲ爲スヘシ

一 新ニ同法第一條ノ營業ヲ開始スル者

二 同法第十五條第二項末段ノ場合ニ該當セサル者ニシテ新ニ店舗其ノ他ノ營業場ヲ増設スル者

三 新ニ營業ノ種類ヲ増加スル者

第二條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ店舗其ノ他ノ營業場ノ同一ナルト否トヲ問ハス營業ノ種類竝ニ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ區分シテ營業稅法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ但シ課稅標準トナルヘキモノヲ數種ノ營業ニ共通シテ使用スル場合ニ於テハ稅率ノ最重キ營業ノ稅率等シキハ其ノ重ナル營業ノ一方ニ其ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第三條 同一人ニシテ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ニ於テ同種ノ營業ヲ爲ストキハ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ營業稅法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第四條 營業稅法第十五條第二項末段ニ依リ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ合セテ營業稅ヲ課セラルヘキ場合ニ於テハ總テノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ通シテ同法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第五條 株式會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中ノ各月末ニ於ケル拂込株式金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産

金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第六條 合資會社ニ於テ課税標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル登記簿
出資金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産
金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第七條 合名會社ニ於テ課税標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル總社員
ノ出資額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産
金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

前項總社員ノ出資額中勞力ノ出資アルトキハ其ノ價格ハ會社契約ニ定メタル價額ニ
依ル但シ會社契約ニ其ノ勞力ノ價額ヲ定メサルトキハ各社員損益共分ノ割合ニ從ヒ
之ヲ算定スルモノトス

第八條 一個人ニ於テ課税標準トナスヘキ資本金額ハ他ヨリ借入レタルト否トヲ問ハ
ス前年中各月末ニ於ケル固定資本及運轉資本ノ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス
前項固定資本ハ直接ニ營業ノ用ニ供スル土地、建物、築造物、船舶、諸器具、器械ノ價格
ヲ計算ス其ノ價格ハ時價相當ノ見積金額ニ依ル

第九條 課税標準額ヲ豫算スルトキハ届出當時ノ實況ニ依リ尙ホ過去將來ノ形情ヲ斟酌
シテ之ヲ算出スヘシ

第十條 營業税法第十七條ニ依リ控除スヘキ營業費ハ營業上直接ニ必要ト認ムヘキ費
用ニ就テ算定スヘシ

第十一條 營業税法第十八條第二項ノ場合ニ於テ借地料借家料ヲ支拂フニ金錢ニアラ

サル物品ヲ以テスルトキハ其ノ物品ノ時價ニ依リ之ヲ定ムヘシ

營業者借地ニ於テ自己ノ建物ヲ所有スルトキハ其ノ土地ハ營業税法第十八條第二項
ニ依リ建物ハ同條第三項ニ依リ其ノ賃借價格ヲ計算スヘシ

營業者借家中ニ於テ其ノ建物ノ一部分ヲ所有スルトキハ自己所有ノ部分ハ營業税法
第十八條第三項ニ依リ其ノ建物賃借價格ヲ計算スヘシ建物中雜作全部ヲ借主ニ於テ
所有スルトキ亦同シ

第十二條 從業者ハ營業主ヲ始メ店舖其ノ他ノ營業場ニ居住スルト否ト使役ノ常時タ
ルト臨時タルトヲ問ハス總テ直接ニ營業ニ従事スル者ヲ計算スヘシ但シ營業主ト同
一戸籍内ニ在ル者ハ計算セス

第十三條 相續讓渡其ノ他原因ノ何タルヲ問ハス營業ヲ繼續スル者ハ其ノ繼續後十日
以内ニ地方長官ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ

第十四條 營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ店舖其ノ他ノ營業場ヲ移轉シタルトキ、十日以
内ニ地方長官ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ其ノ移轉他ノ管轄地方ニ涉ルトキハ雙方ニ届出ヘシ

第十五條 營業税法第十五條第二項末段ニ該當スル場合ニシテ店舖其ノ他ノ營業場ヲ
増設シタル者ハ其ノ増設後十日以内ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ヘシ

第十六條 地方長官ハ營業者ノ申告ヲ相當ト認ムルトキハ營業税法第十二條ノ稅率ニ
從ヒ其ノ營業稅ヲ賦課スヘシ

營業者ノ申告ナキトキハ地方長官ハ營業税法第十六條ノ算定方法ニ依リ其ノ課税標
準ヲ計算シ其ノ營業稅ヲ賦課スヘシ

第十七條 地方長官營業者ノ申告ヲ不相當ト認メ資本金額又ハ建物賃賃價格ヲ算定シタルトキハ其ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

第十八條 前條ノ算定ニ對シ異議アル者再審査ヲ求メントスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ營業稅法第二十七條ノ期限內ニ地方長官ニ申出ヘシ

第十九條 地方長官ハ資本金額再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ更ニ營業者ノ提出シタル理由書ニ據リ當初ノ算定ヲ再査シ其ノ訂正スヘキハ之ヲ訂正シ決定書ヲ作り之ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

第二十條 地方長官ハ建物賃賃價格再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ土地建物所在地ノ市町村長ニ通知シ評價人ヲ選定セシメ同時ニ政府ヨリ命スヘキ評價人ヲ選定スヘシ
第二十一條 評價人ハ滿二十歳以上ノ男子ニ就テ選定スヘシ但シ異議申立人ノ親族其ノ他當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者及治産ノ禁ヲ受ケタル者ハ之ヲ選定スルコトヲ得スニ土地建物ノ數市町村ニ在リテ其ノ賃賃價格ヲ合算スル場合ニ於テハ其ノ所在市町村毎ニ評價人ヲ選定スヘシ

第二十二條 評價人定リタルトキハ地方長官ハ場所期日ヲ定メ評價人ヲ會合シ其ノ評價ヲ爲サシムヘシ
評價人評價ヲ終リタルトキハ直ニ評價書ヲ作り評價金額竝ニ其ノ理由ヲ記載シ地方長官ニ提出スヘシ
地方長官ハ前項評價書ニ依リ建物賃賃價格ヲ定メ其ノ決定書ヲ作り之ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

第二十三條 營業稅法第十五條第二項末段ニ該當スル場合ニ於テ營業者數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ有シ其ノ管轄地方ヲ異ニスルトキハ其ノ資本金額建物賃賃價格ノ算定審查ニ關スル事務ハ其ノ主タル店舗其ノ他ノ營業場所在地ノ地方長官之ヲ爲スヘシ但シ建物賃賃價格ノ評價ニ關スル事務ハ之ヲ土地建物所在地ノ地方長官ニ囑託スヘシ
第二十四條 營業稅法第二十八條第二項但書ニ依リ異議申立人ノ負擔スヘキ費用ハ評價人ノ手當及評價人集會ノ費用トス
第二十五條 前條評價人ノ手當ハ每事件一人金一圓五十錢トシ評價人集會ノ費用ハ會場借料竝ニ會場雜費ニ限ル

第二十六條 營業者ヨリ營業稅法第二十九條ノ申出アリタルトキハ地方長官ハ課稅標準額算定ノ方法ニ依リ其ノ年營業ノ實況ヲ調査シ同法第三十一條第一號又ハ同條第二號ニ該當スルトキハ其ノ課稅標準額ノ全部ヲ改算スヘシ
第二十七條 營業者店舗其ノ他ノ營業場外ニ居住シ又ハ旅行シ店舗其ノ他ノ營業場ニ不在ナルトキハ營業稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲ニ納稅管理人ヲ定メ地方長官ニ届出ヘシ
第二十八條 營業稅法第三十三條ニ依リ收稅官吏營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢査スルトキハ地方長官ノ檢査章ヲ其ノ營業者ニ示スヘシ

附則

第二十九條 營業稅法第二十一條第二項但書ニ該當スル營業者ハ同法第十三條ノ届書ニ要スル事項ヲ詳記シタル書類ヲ添ヘ明治三十年一月三十一日迄ニ地方長官ニ其ノ開業年月日ヲ届出ヘシ

○所得稅法 明治二十年三月 勅令第五號

朕所得稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得稅法

第一條 凡ソ人民ノ資産又ハ營業其他ヨリ生スル所得金高一箇年三百圓以上アル者ハ此稅法ニ依テ所得稅ヲ納ムヘシ

但同居ノ家族ニ屬スルモノハ總テ戶主ノ所得ニ合算スルモノトス

第二條 所得ハ左ノ定則ニ據テ算出スヘシ

第一 公債證書其他政府ヨリ發シ若クハ政府ノ特許ヲ得テ發スル證券ノ利子、營業ニアラサル貸金預金ノ利子、株式ノ利益配當金、官私ヨリ受クル俸給、手當金、年金、恩給金及割賦賞與金ハ直ニ其金額ヲ以テ所得トス

第二 第一項ヲ除クノ外資産又ハ營業其他ヨリ生スルモノハ其種類ニ應シ收入金高若クハ收入物品代價中ヨリ國稅、地方稅、區町村費、備荒儲蓄金、製造品ノ原質物代價、販賣品ノ原價、種代、肥料、營利事業ニ屬スル場所物件ノ借入料、修繕料、雇人給料、負債ノ利子及雜費ヲ除キタルモノヲ以テ所得トス

第三 第二項ノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出スヘシ但所得收入以來未タ三年ニ滿タサルモノハ月額平均其平均ヲ得難キモノハ他ニ比準ヲ取リテ算出スヘシ

第三條 左ニ掲クルモノハ所得稅ヲ課セス

第一 軍人從軍中ニ係ル俸給

第二 官私ヨリ受クル旅費、傷痍疾病者ノ恩給金及孤兒寡婦ノ扶助料

第三 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

第四條 所得稅ノ等級及稅率左ノ如シ

等級	所得金	稅率
第一等	所得金高三萬圓以上	百分ノ三
第二等	所得金高貳萬圓以上	百分ノ二半
第三等	所得金高壹萬圓以上	百分ノ二
第四等	所得金高千圓以上	百分ノ一半
第五等	所得金高三百圓以上	百分ノ一

但所得金高ハ圓位未滿ノ端數ヲ算セス

第五條 所得稅ハ前半年分ヲ其年九月ニ後半年分ヲ翌年三月ニ納ムヘシ

第六條 此稅法ニ依リ稅金ヲ納ムヘキ所得アル者ハ其年所得ノ豫算金高及種類ヲ記シ毎年四月三十日マテニ居住地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ

第七條 各郡區役所管轄内ニ七名以下ノ所得稅調查委員ヲ置キ毎年調查委員會ヲ開キ所得稅ニ關スル調査ヲ爲サシム

調査委員定數ノ外五名以下ノ補闕員ヲ置キ闕員ヲ補充ニ備フヘシ

調查委員及補闕員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第八條 調查委員ハ其郡區内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 調查委員ノ選舉人被選人ハ二十五歳以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ現住シ所得稅ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ被選人タルコトヲ得ス同條第一款第二款第三款ニ觸ル、者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十條 郡區長ハ各町村内ニ五名ヨリ多カラサル町村選舉人ノ員數ヲ定メ其町村人民中第九條ノ資格ヲ有スル者ヲシテ互選セシム但便宜ニヨリ數町村ヲ合シテ五名ヨリ多カラサル選舉人ヲ定ムルコトヲ得

町村選舉人ハ第九條ノ範圍内ニ於テ調查委員及補闕員ヲ選舉スヘシ

第十一條 調查委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス但第一回ノ改選ハ抽籤ヲ以テ其退任者ヲ定ム

第十二條 調查委員ノ手當旅費其他調査ニ關スル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 郡區長ハ第六條ノ屆書ニ據リ所得金高下調査ヲ製シ其屆書ト共ニ調査委員會ニ付スヘシ

第十四條 郡區長ハ納稅者ト認ムルモノニシテ第六條ノ期限ヲ過キテ其届出ヲ爲サ、ル者アルトキハ所得金高ノ見積ヲ立テ之ヲ調査委員會ニ付スヘシ

第十五條 調査委員會ハ郡區長ノ招集ニ由リ之ヲ開ク調査委員會ノ會長ハ郡區長ヲ以テ之ニ充ツ郡區長關席スルトキハ會員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 調査委員會ハ會員過半数出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス會議ハ出席員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ可否スル所ニ依ル但自己ノ所得ニ關スルトキハ其會議ニ與ルコトヲ得ス

第十七條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ據リ各納稅者ノ所得稅等級金額ヲ定メ之ヲ納稅者ニ達スヘシ

第十八條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ府縣知事ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 納稅者ニ於テ所得稅ノ等級金額ヲ不當トスルトキハ其達ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ所得金高明細書及其證據トナルヘキモノヲ添ヘ府縣知事ニ申出ルコトヲ得但此場合ニ於ケルモ其税金ハ達ヲ受ケタル金額ニ從テ之ヲ納ムヘシ

第二十條 府縣知事ハ第十八條第十九條ノ場合ニ於テハ府縣常置委員會ニ付シテ調査セシメ其決議ニ據テ之ヲ處分スヘシ但其處分納稅後ニ涉ルトキハ稅額ノ不足アルモノハ之ヲ追徴シ過剩アルモノハ之ヲ還付スヘシ

第二十一條 調査委員會又ハ常置委員會ハ此稅法ニ關シ調査上必要ト認ムルトキハ納稅者ニ尋問スルコトヲ得

第二十二條 調査委員其他所得稅ノ調査ニ關スル者ハ納稅者ノ資産及所得ニ係ル事件ヲ他ニ漏洩スヘカラス

第二十三條 納稅者其納期前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタルトキハ郡區長ニ申

第二百九十六號令
第九十條及
第十條
第十一條
第十二條
第十三條
第十四條
第十五條
第十六條
第十七條
第十八條
第十九條
第二十條
第二十一條
第二十二條
第二十三條
之ヲ施行スル
ハ府縣知事
ノ事務ハ府
縣知事ニ於
テ之ヲ行フ
コトヲ得

出ルコトヲ得郡區長ハ事實ヲ審査シテ其稅額ヲ減シ所得金高一箇年三百圓ヲ下ルモノハ之ヲ免稅スヘシ但既納ノ税金ハ之ヲ還付セス

第二十四條 所得金高ヲ隱蔽シテ逋稅シタル者ハ其逋稅金高三倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其税金ヲ追徵シ其罪ヲ問ハス

第二十五條 第二十二條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第六條ノ届出ヲ爲サハル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 此稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヒ

ス

第二十八條 此稅法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十九條 此稅法ハ明治二十年七月一日ヨリ施行ス

但北海道、沖繩縣及東京府管轄小笠原島、伊豆七島ニ於テハ官府ヨリ受クル俸給、手當金、年金及恩給金ノ外ハ當分ノ内之ヲ施行セス

附則

本法第六條ノ届書ハ本年ニ限り七月三十一日マテニ差出スヘシ

○所得稅法施行細則二十年五月八日大藏省令第八號
改正二十年大藏省第十三號ヲ以テ附則ヲ追加ス

○市町村制施行地ノ所得稅明治二十二年四月法律第十四號

朕市制町村制施行地ノ所得稅ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市制町村制施行ノ地ニ在テハ所得稅法第六條ノ届書ハ町村ニ於テハ町村長ヲ經テ郡長

ニ市ニ於テハ市長ヲ經テ府縣知事ニ之ヲ差出シ第七條第八條ノ調査委員ハ郡役所管轄

内及市ニ東京市、京都市、大阪市ハ區ニ置キ其區域内ニ於テ之ヲ選舉シ第九條ノ調査委員

市ノ選舉人被選舉人ノ現住ハ調査委員會設置區域内トシ第十條ノ場合ニ於テハ府縣知事

ハ市ニ東京市、京都市、大阪市ハ區ニ郡長ハ町村ニ若干名ノ選舉人ヲ定メ第十七條ノ區長

ノ職務ハ府縣知事之ヲ行ヒ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ第二十條ニ依リ處

分スヘシ又第十三條第十四條第十五條第二十三條ノ區長ノ職務ハ府縣知事之ヲ行フヘ

シ但第十五條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ部下ノ官吏ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ

得

○市町村制施行地ノ所得稅並諸稅ニ關スル心得方二十二年五月八日大藏省令第七號

○酒造稅法明治二十九年三月法律第二十八號

市町村制施行地ノ所得稅

沿革略記

明治元年五月古來ノ酒造鑑札ヲ改メ造石數ニヨリ上納金ヲ定メ並ニ増造減造ノ方法ヲ定ム○同年九月百石未滿ノ酒造願ニヨリ百石迄ノ増造ヲ許シ及千石以上ノ株高分株ノ事ヲ許ス●二年十二月民部省ヨリ酒造株濁酒造株醬油造株鑑札冥加金並ニ年々冥加金ノ額ヲ定ム●四年月欠清濁酒銘酒類並醬油釀造取締方稅則ヲ制定シ從前ノ株鑑札ヲ廢止シ更ニ免許鑑札ニ換フ●八年二月第廿六號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ更ニ酒類稅則ヲ制定ス●十三年九月第四十號布告ヲ以テ前ノ酒類稅則ヲ廢止シ酒造稅則ヲ制定ス●二十九年三月法律第二十八號ヲ以テ前則ヲ廢止シ酒造稅法ヲ制定ス是レ現行法ナリ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル酒造稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

酒造稅法

第一條 此ノ稅法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、酒精ノ六種トス

第二條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條 其ノ年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一酒造年度トス

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ニ從ヒ造石稅ヲ課ス

第一種 清酒、白酒、味淋、燒酎、酒精、酒類
一石 金七圓

第二種 濁酒、白酒、味淋、燒酎、酒精、酒類
一石 金六圓

第三種 燒酎、酒精、酒類
一石 金八圓

但シ當分ノ内北海道ニ於テハ渡島國一圓後志國ノ内八郡釧路郡、檜山郡、久遠郡、東川郡、大井郡、檜山郡、久遠郡、東川郡、大井郡ノ内八郡釧路郡、檜山郡、久遠郡、東川郡、大井郡、檜山郡、久遠郡、東川郡、大井郡

振國ノ内一郡山越郡ヲ除ク外各種一石ニ付金一圓ヲ減ス

第五條 新ニ清酒製造ノ免許ヲ受クル者ハ造石高百石以上ニ非サレハ許可セス

第六條 造石稅ノ納期ヲ分テ左ノ四期トス

第一期 七月一日ヨリ同十五日限

第二期 前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額四分ノ一

第三期 九月一日ヨリ同十五日限

同上

第四期 翌年一月一日ヨリ同十五日限

同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額二分ノ一

第五期 翌年三月一日ヨリ同十五日限

前納額ノ殘數

第七條 政府ハ酒類ヲ製造スル者脫稅又ハ遁稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキハ前條ノ納期ニ拘ラス造石稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

第八條 酒類ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ査定ス

酒類ノ造石數ヲ査定スルハ容器ノ容量ニ依ル但シ清酒ニ限り命令ノ定ムル所ニ依リ査定

石數百分二以内ノ滓引減量ヲ控除スルコトヲ得

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前各項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ

之ヲ査定ス

第九條 粕漉シタル酒類ハ粕漉ニ依リ増加シタル分ノミニ就キ其ノ造石數ヲ査定ス

第十條 酒類ヲ製造スル者ノ製造ニ係ル醪ハ左ノ場合ニ於テハ濁酒ヲ製成シタルモノトシテ其ノ造石數ヲ査定ス

一 他人ニ讓渡ストキ

二 公賣セラレトキ

三 飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ

第十一條 酒類ヲ製造スル者既ニ査定ヲ受ケタル酒類ノ造石數ニ對シテハ特ニ法律ヲ以テ定ムル場合ニ外其ノ造石稅ヲ免ル、コトヲ得ス

第十二條 左ノ酒類ニ係ル未納ノ造石稅ハ之ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一 災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ

二 酒類ノ腐敗シテ廢棄ニ屬シタルモノ

三 腐敗シタル酒類ニシテ蒸溜酒ノ製造ニ供スルモノ

第十四條 酒類ヲ製造スル者ハ納稅保證トシテ造石稅半額ニ相當スル保證物ヲ供スヘシ保證物ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 酒類ヲ製造スル者ハ納稅保證トシテ造石稅額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ

第十六條 酒類ヲ製造スル者ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ質入シ消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十七條 酒類ヲ製造スル者ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ質入シ消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十八條 酒類ヲ製造スル者ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ質入シ消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十九條 收稅官吏ハ命令ノ規程ニ依リ酒類ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造上必要ナル建築物、材料、器械其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十條 酒類ヲ製造セサル者酒母又ハ醪ヲ製造セムトスルトキハ政府ノ免許ヲ受ケ酒類ヲ製造スル者ト等シク其ノ検査監督ヲ受クヘシ

第二十一條 酒類ヲ製造セサル者其ノ製造ニ係ル醪ヲ飲料ニ供シ又ハ飲料トシテ讓渡シタルトキハ濁酒ヲ製造スル者トシ其ノ製造ニ係ル總石數ノ造石稅ヲ課ス

第三十二條 免許ヲ受ケヌシテ酒類ノ酒類製造用ノ爲酒母若ハ醪ヲ製造シ又ハ他人ヨリ讓受ケタル酒母若ハ醪ヲ以テ酒類ヲ製造シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 免許ヲ受ケヌシテ醪、濁酒、白酒、燒酎製造用ノ爲酒母一斗以下ヲ製造シ又ハ他人ヨリ讓受ケタル酒母ヲ以テ醪、濁酒、白酒、燒酎ノ一種又ハ數種ヲ通シテ三石以下ヲ製造シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ本項前段ノ場合ニ於テ酒母ノ量數不明ナルモ其ノ製造シタル醪若ハ酒類ノ量數一種若ハ數種ヲ通シテ三石以下ナルトキハ仍本項ニ依ル
 第二十三條 酒類ヲ製造セサル者免許ヲ受ケヌシテ酒母又ハ醪ヲ製造シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 酒類ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス

第二十五條 酒類ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス

第二十六條 納稅保證トシテ保存シ義務ヲ有スル酒類ヲ他人ニ讓渡シタル者滯納處分ヲ受ケルモ仍稅金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其ノ不足造石稅ノ三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス

第二十七條 酒類製造用ト否ト問ハス其ノ製造シタル酒母又ハ醪ノ検査ヲ受ケサル者ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 酒類ヲ製造スル者第十七條又ハ第十八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

二十九條 酒類ヲ製造スル者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 酒類ヲ製造スル者收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第三十一條 此ノ税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用井ス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 酒類ヲ製造スル者ノ代理人、家族同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ税法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ此ノ税法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

第三十三條 第二十九條乃至第三十二條ハ酒類ヲ製造セサル者ニシテ酒母又ハ醪ヲ製造スル者ニモ適用ス

第三十四條 酒類ヲ製造シタル者ハ其ノ製造ヲ廢止スルモ造石稅完納前ニアリテハ總テ此ノ税法ノ規程ニ從フモノトス

第三十五條 府縣及市町村ハ此ノ税法ニ依リ造石稅ヲ課スル酒類ニ對シ特令アルモノヲ除キ府縣稅若ハ地方稅及市町村稅町村費ヲ課スルコトヲ得ス

附則

第三十六條 神社ニ於テ古例ニ依リ明治十三年以前ヨリ引續酒類ヲ製造スルトキハ一年ノ製造石數一石以下ノ場合ニ限リ總テ無稅トス

第三十七條 此ノ税法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十三年布告第四十號同年布告第四十一號同十六年布告第四十二號及同二十二年法律第二十四號ハ此ノ税法施行ノ日ヨリ廢止ス

明治二十九年九月三十日前検査濟石數ニ係ル造石稅ニ關シテハ仍明治十三年布告第四十號ニ依ル

第三十八條 沖繩縣東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此ノ税法ヲ施行セス

○酒造税法施行規則 明治二十九年八月 勅令第二百八十七號

朕酒造税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

酒造税法施行規則

第一條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ其ノ酒類製造場及製造スヘキ酒類ヲ定メ其ノ居所氏名ヲ記シ地方長官ニ申請シ其ノ免許ヲ受クヘシ但シ商事會社ヲ組織シテ酒類ヲ製造セムトスル者ハ合名會社合資會社ニ在テハ其ノ契約書謄本ヲ添ヘ社員ヨリ、株式會社ニ在テハ發起認可書ノ謄本及假定款謄本ヲ添ヘ發起人ヨリ申請スヘシ酒類ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキ又ハ製造スヘキ酒類ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ニ申請シ其ノ免許ヲ受クヘシ

第二條 酒類ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條 酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面竝ニ酒造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ調製シ事業著手前ニ地方長官ニ提出スヘシ前項ノ容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ酒類製造主ノ居所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條 酒類製造主ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 酒類製造主ハ毎酒造年度ニ於テ製造スヘキ毎酒類ノ見込造石數、製造著手ノ時期、製造方法及其ノ仕込數ヲ記載シ其ノ酒造年度開始前ニ地方長官ニ申告スヘシ

前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ但シ製造方法ノ變更ニ係ルモノハ承認ヲ受クヘシ

第六條 酒類製造主ノ相續人ニ於テ其ノ製造事業ヲ繼續セムトスルトキハ其旨地方長官ニ申出製造繼續ノ免許ヲ受クヘシ
相續ノ場合ヲ除ク外酒類製造ノ事業ヲ引繼カムトスル者ハ總テ第一條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造主ハ酒造税法第二條ニ依リ其ノ免許ノ

取消ヲ求ムヘシ

第七條 酒類ノ造石税ハ其ノ製造場所在リ地方ニ於テ之ヲ徵收ス

第八條 酒類ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル酒類ノ總量ニ就キ之ヲ査定スヘシ

第九條 清酒ノ造石數ヲ査定スルトキハ其ノ石數ヨリ百分ノ二ヲ滓引減量トシテ控除スヘシ但シ犯則ニ係ル清酒ハ滓引減量ヲ控除スルノ限ニ在ラス

第十條 酒類製造主自己ノ製造シタル酒類若ハ製造場外ヨリ移入シタル醪又ハ酒類ヲ以テ酒類ヲ製造シタルトキハ其ノ製成酒類ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十一條 酒造原料用ノ爲メ酒類ヲ製造スルトキハ其ノ成功ノ時之ヲ検査スヘシ酒造用原料品トシテ酒類ヲ製造場内ニ移入シタルトキ亦同シ

收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第十二條 酒造用原料品トシタル酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費スルトキ若ハ公賣セラル、トキ又ハ製造場外ニ移出スルトキハ其ノ造石數ヲ査定スヘシ但シ他ヨリ讓受シタルモノニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 酒類製造主酒類ヲ粕漉セムトスルトキハ著手前ニ其ノ數量時期等ヲ地方長官ニ申告スヘシ

第十四條 酒類製造主酒類ノ粕漉ヲ爲シタルトキ其ノ原酒類ノ石數ヲ確證スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十五條 酒滓、酒粕、蒸溜粕ヲ使用シテ製造スル酒類ハ割水其ノ他如何ナル名稱ヲ附スルモ總テ其ノ造石數ヲ査定スヘシ

第十六條 酒類製造主其ノ製造用ニ供スル醪ヲ他人ニ讓渡シ若ハ飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供セムトスルトキハ其ノ旨直ニ地方長官ニ申告スヘシ

第十七條 酒母、醪又ハ原料用酒類ノ廢棄亡失若ハ腐敗シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ旨直ニ地方長官ニ申告スヘシ

第十八條 酒造税法第十二條ニ依リ未納造石税ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ地方長官ニ申請スヘシ

第十九條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄若ハ亡失ヲ認ムルトキ又ハ腐敗ノ爲メ使用ノ途ナキヲ認ムルトキハ未納税金ノ免除處分ヲ爲スヘシ

腐敗酒ヲ以テ蒸溜酒ノ製造用ニ供セムトスルモノハ未納税金ノ免除處分ヲ爲シ其ノ酒類ハ燒酎又ハ酒精ノ原料品ハ取扱ヲ爲スヘシ

第二十條 地方長官酒類ノ造石數ヲ査定シタルトキハ其ノ際酒類製造主ヲシテ酒造税法第十三條ニ依リ保證物ヲ提供セシムヘシ但シ酒類製造主ハ見込造石數ニ依リ豫メ保證物ヲ提供ヲ申請スルコトヲ得

酒類製造主保證物ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ酒造税法第十四條ノ一方法又ハ數方法ヲ選ニ之ヲ申請ヘシ

第三十二條 保證物ノ種類ハ左ニ掲クルモノニ限ル

- 一 金銭
 - 二 利付國債證券地方債證券
 - 三 政府ノ保護又ハ監視ヲ受クル株式會社ノ株券又ハ債券
 - 四 土地
 - 五 酒類製造場内ノ建物但シ火災保險ニ付シタルモノニ限ル
- 第三十二條 保證物ノ保證價格ヲ定ムルハ有價證券ハ市場ニ於ケル前月ノ平均價格
土地ハ土地臺帳ニ登記シタル地價、建物ハ被保險額ニ依ル

第二十三條 酒類製造主保證物ヲ提供スルトキハ金銭有價證券ハ之ヲ供託シ供託受領
證ヲ地方長官ニ提出シ土地建物ハ書入ノ登記ヲ爲スヘシ第三者ニ於テ酒類製造主ノ
爲メ保證物ヲ提供スルトキ亦同シ

第二十四條 保證物トシテ提供シタル證券債券ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキ若ハ建
物ノ壞倒亡失シタルトキ又ハ保險契約ノ消滅シタルトキハ酒類製造主ハ地方長官ノ
指定期限内ニ更ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ建物ニ對スル保險金ヲ受領シタルトキハ
其ノ保險金ヲ保證物トシテ供託スヘシ

第二十五條 酒造税法第十三條ノ保證物ヲ提供セザルトキハ收稅官吏ハ製造酒類ニ封
緘ヲ附シ之ヲ讓渡シ賣入シ消費シ又ハ製造場外ニ移出スルヲ停止スルコトヲ得
第二十六條 納稅保證人ハ地方長官ニ於テ納稅保證人ニ堪フル資力アリト認ムル者

ニ限ル

第二十七條 地方長官ハ納稅保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタルト認ムルト
キハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第二十八條 收稅官吏ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ニ封緘ヲ附スルコ
トヲ得

第二十九條 地方長官ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類納稅保證ニ適セサル
ニ至リタルト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第三十條 酒類製造主ハ地方長官ニ申出保證物、納稅保證人又ハ保存ノ義務ヲ有スル
酒類ノ變換ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條 酒類製造主税金ヲ納メザルトキハ納稅保證人ニ通知シ其ノ税金ヲ納メシ
メ又ハ滯納處分ノ手續ニ依リ其ノ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣スヘシ
納稅保證人税金ヲ完納セザルトキ又ハ保證物若ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シ
尙ホ税金ニ不足アルトキハ酒類製造主ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

前項滯納處分ノ後尙ホ税金ニ不足アルトキハ保證人ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

第三十二條 同一製造場内ニ於テ清酒竝ニ濁酒ヲ製造セムトスル者ハ其ノ釀造藏置ニ
供スル場所ヲ酒類別ニ特定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 地方長官容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲シタルトキハ之ニ其ノ番號容量其ノ
他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

第三十四條 收税官吏ハ隨時酒類製造場ニ就キ酒類酒造用原料品器具器械、容器、帳簿又ハ書類ヲ検査スヘシ

第三十五條 收税官吏ハ搾器械、蒸溜器械ヲ使用停止中ニ封緘ヲ附スヘシ但シ修理其ノ他必要ノ事故アルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

第三十六條 自己ノ所有ト否トヲ問ハズ容器、器具、器械及酒造用原料品ハ收税官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ酒類製造中ハ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第三十七條 酒造用原料品中酒母又ハ醪ヲ検査ハ熟成ノ時ニ於テ之ヲ行フ但シ其ノ熟成シタル酒母又ハ醪ヲ製造場内ニ移入シタルトキハ其ノ移入ノ時ニ於テスヘシ

酒母、醪以外ノ原料品ハ其ノ使用前便宜之ヲ検査スヘシ其ノ検査後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三十八條 酒類製造主ハ製造方法ノ異ナル毎ニ並ニ一仕込毎ニ酒母及醪ニ記號ヲ附シテ之ヲ區分シ收税官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ彼是混淆スルコトヲ得ス

第三十九條 酒類製造主左ニ掲クル事項ヲ行ハムトスルトキハ收税官吏ノ承認ヲ受クヘシ

一 熟成シタル酒母ヲ醪ニ仕込ムコト

二 熟成シタル醪ヲ酒母ニ代用シ添掛ヲ爲スコト

三 酒母、醪又ハ原料用酒類ノ容器ヲ變換スルコト

四 仕込済ノ醪ニ水ヲ混和スルコト

五 原料用酒類ノ用途ヲ變更スルコト

六 藏出前ニ於ケル自己製造ノ酒類ニ買入酒類ヲ混和シ又ハ割水ヲ爲スコト

第四十條 酒類製造場外ヨリ酒類製造場内ニ酒母、醪又ハ酒類ヲ移入シタルトキハ其ノ旨直ニ地方長官ニ申告スヘシ

第四十一條 二仕込以上ソ醪ヲ合併シテ清酒ヲ搾揚ケムトスルトキハ收税官吏ノ承認ヲ受クヘシ但シ七仕込以上ソ醪ハ之ヲ合併スルコトヲ得ス

第四十二條 酒類製造主ハ前項検査後ニアラサレハ酒類ノ造石數査定ノ時之ヲ検査スヘシ

酒類製造主ハ前項検査後ニアラサレハ酒類ノ製造場外ニ移出シ又ハ使用シ若ハ他ノ酒類ト混合スルコトヲ得ス

第四十三條 酒類製造主ハ酒造用原料品及酒粕ノ受拂、酒母及醪ノ仕込、焼酎又ハ酒精ノ造リ込、酒類ノ藏出、受拂、増減ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ但シ他ノ法律命令又ハ商業上ノ慣例ニ依リ設備スル帳簿ニシテ本文ノ事項ヲ明ニスルモノアルトキハ此ノ限ニ在ラス

附則
第四十四條 酒造税法施行前ニ於テ明治十三年布告第四十號ニ依リ酒造營業ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ尙ホ引續キ酒造税法第二條ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ明治二十九年九月三十日迄ニ第三條ノ圖面、目錄ヲ添ヘ其ノ旨地方長官ニ申請スヘシ

第四十五條 酒造稅法第三十六條ニ該當スル者ハ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルコトノ事實ヲ具シ地方長官ニ免許ヲ申請スヘシ

○

○自家用酒稅法 明治二十九年三月 法律第二十九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル自家用酒稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

自家用酒稅法

第一條 濁酒、白酒、燒酎ニ限り自家用トシテ製造セムトスル者此ノ稅法ニ依リ製造免許ヲ出願スルトキハ政府ハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 自家用酒ノ製造免許ハ一家一人ニ限ル其ノ造石數ハ各酒類ヲ合セテ一酒造年度間(其ノ年十月ヨリ翌年九月マテ)二石以下トス但シ直接國稅ヲ納メサル者及其ノ納額五圓未滿ノ者ハ其ノ造石數一石ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 自家用酒ノ製造ヲナス者ニハ毎年度左ノ製造稅ヲ課ス

一 前條但書ニ該當スル者 金二圓

二 直接國稅五圓以上十圓未滿ノ者

一石迄 金三圓

二石迄 金八圓

第四條 製造稅ハ之ヲ二分シ其ノ年十月及翌年四月ヲ以テ納期トス但シ納期後ニ免許ヲ受

クルトキハ即納トス

第五條 左ニ掲クル者及其ノ家族、同居者、同居ノ雇人ハ自家用酒製造ノ免許ヲ請フコトヲ得ス

一 直接國稅十圓以上ヲ納ムル者

二 酒類製造營業人及酒類販賣人

三 醬油製造營業人及醬油販賣人

四 酒母又ハ醪製造人及酒母販賣人

五 酢製造營業人及酢販賣人

六 料理店、飲食店、旅人宿營業者

自家用酒製造ノ免許ヲ得タル者前各號ノ一ニ該當スルニ至ルトキハ其ノ免許ノ效力ヲ失フモノトス

第六條 自家用酒ハ製造ノ免許ヲ受ケタル者ノ各自ノ居宅域内ニ限り之ヲ製造スルコトヲ得

第七條 收稅官吏ハ自家用酒製造者ニ就キ検査ヲ爲スコトヲ得

第八條 自家用酒製造者其ノ製造シタル酒類ヲ販賣シ又ハ其ノ居宅域外ニ於テ自家用酒ヲ製造シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 自家用酒製造者免許制限ヲ超過シテ酒類ヲ製造シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ超過石數ニ對シ酒造稅法第四條ノ造石稅ヲ課ス

前項ノ造石税ハ即時之ヲ徵收ス

第十條 自家用酒製造者元用トシテ清酒、味淋、酒精ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ酒造税法ニ依リ處分ス

第十一條 第七條ノ検査ニ關シテハ酒造税法第三十條ヲ適用ス

第十二條 此ノ税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用フ

第十三條 自家用酒製造者ノ家族、雇人、同居者ニシテ其ノ製造ニ關シ此ノ税法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ此ノ税法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

附則

第十四條 此ノ税法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十九年勅令第六十號ハ此ノ税法施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條 沖繩縣、東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此ノ税法ヲ施行セス

○自家用酒税法施行規則 明治二十九年八月勅令第二百八十九號

朕自家用酒税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

自家用酒税法施行規則

第一條 自家用酒税法第一條ニ依リ自家用トシテ酒類ノ製造免許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ居所氏名及製造スヘキ酒類並ニ左ノ種別ヲ記シ地方長官ニ申請スヘシ

第一種 造石數二石未満

第二種 造石數一石未満

前項申請書ニハ其ノ製造時期及酒類ノ製造方法ニ關スル事項ヲ附記スヘシ附記事項ヲ變更シタルトキハ其ノ際申告スヘシ

第二條 免許ヲ受ケタル酒類又ハ第一條ノ種別ヲ變更セムトスルトキハ更ニ第一條ノ申請書ヲ地方長官ニ差出スヘシ但シ一酒造年度中ニ於テハ免許酒類又ハ種別ノ變更ヲ許可セス

第三條 自家用酒製造者其ノ居所氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ地方長官ニ申告スヘシ

第四條 自家用酒ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨地方長官ニ申告シ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

自家用酒製造者死亡若クハ失踪シタルトキハ相續人又ハ其ノ他ノ者ヨリ其ノ旨地方長官ニ申告スヘシ

第五條 此ノ規則ニ依リ地方長官ニ提出スヘキ書類ハ所轄市町村長特別市制ヲ施行スル市ニ於テハ區長市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區長又ハ之ニ準スヘキ者ヲ經由スヘシ

○混成酒税法 明治二十九年三月法律第三十號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル混成酒稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

混成酒稅法

第一條 此ノ稅法ニ於テ混成酒ト稱スルハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

一 酒精ト他ノ物品トヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ

二 二種以上ノ飲料酒類ヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ

三 一種又ハ二種以上ノ飲料酒類ト他ノ物品ヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ

四 飲料酒類ニ酒精若ハ燒酎ト水ヲ混和シタルモノ

第二條 混成酒ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數一石ニ付金六圓ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス

混成酒元用トシテ酒造稅法ニ掲クル酒類ヲ製造スル者ニハ該稅法ノ造石稅ヲ課ス

第三條 第一條第四號ノ混成酒ヲ製造スルモ別種ノ飲料トナラス單ニ酒造稅法ノ酒類ノ造石數ヲ增加スルニ止ルモノハ其ノ増加石數ノミニ課稅ス

第四條 造石稅ノ納期ヲ左ノ二期トス但シ廢業シタル者ハ即納トス

第一期 其ノ年七月一日ヨリ同三十一日限

一月一日ヨリ六月三十日迄査定濟石數ニ係ル稅額

第二期 翌年一月一日ヨリ同三十一日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄査定濟石數ニ係ル稅額

第五條 混成酒ヲ製造スル者ハ收稅官吏ノ認許ヲ受クルニ非サレハ其ノ製造シタル酒類ヲ

販賣シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第六條 第五條ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 酒造稅法第二條第七條第八條第十一條第十二條第十八條第十九條第二十二條

第一項第二十四條第二十五條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二

條第三十六條ハ混成酒ノ製造ニ適用ス

附則

第八條 此ノ稅法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

第九條 沖繩縣東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此ノ稅法ヲ施行セス

○混成酒稅法施行規則 明治二十九年八月 勅令第二百八十八號

朕混成酒稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

混成酒稅法施行規則

第一條 混成酒ヲ製造スル者ハ毎年十二月三十一日迄ニ其ノ翌年中ニ製造スヘキ混成

酒ノ酒類石數及製造方法ヲ地方長官ニ申告スヘシ

前項申告シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ

第二條 地方長官ハ混成酒製造高ノ多少ニ從ヒ毎月一回以上時日ヲ定メ其ノ期間

ノ混成酒製造高ヲ申告セシムヘシ

第三條 混成酒ノ製造用ニ供スル酒精又ハ飲料酒類ハ他ヨリ其ノ製造場ニ移入スルモ